

The Tom Bearden

トム・ビアーデン

The Case of Antoine プリオリ

アントワン・プリオリのケース



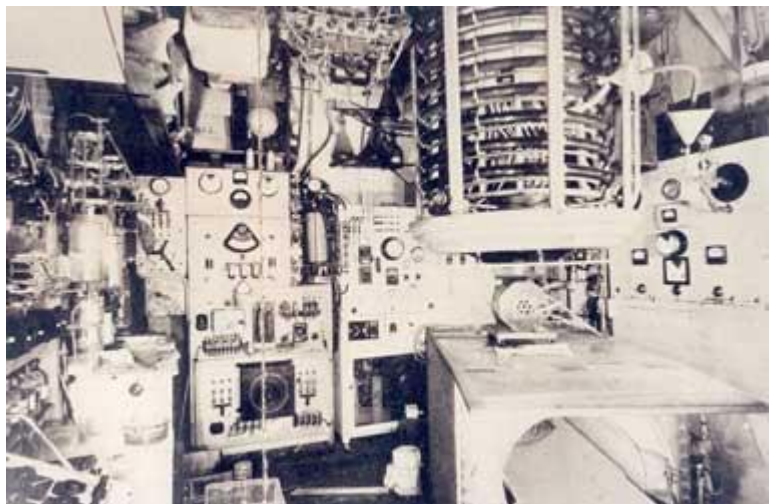
Antoine Priore



élément central : la lampe

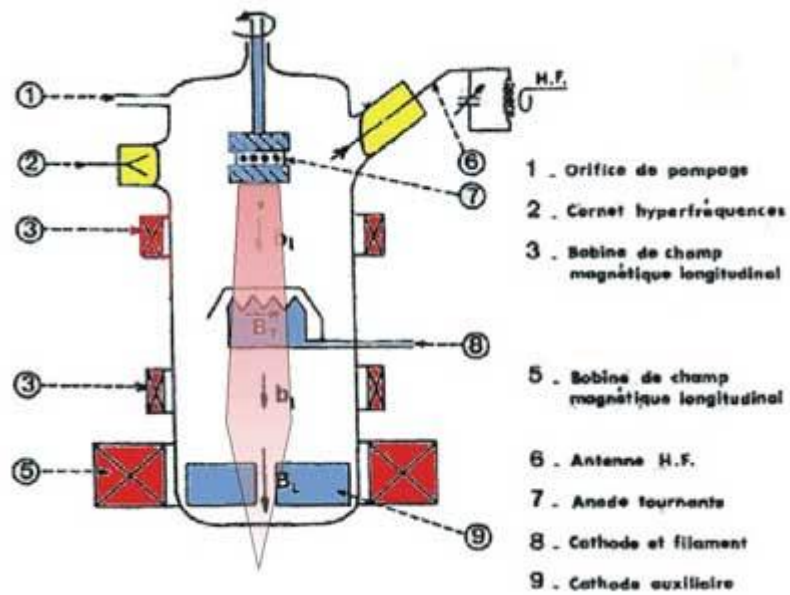


lampe intermédiaire

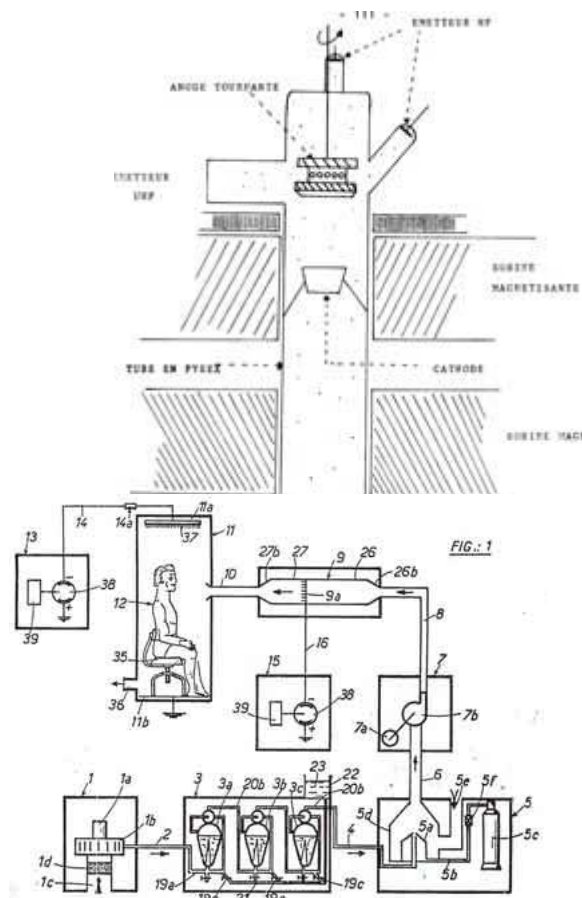


le premier "gros" laboratoire

The influence of some of its components will be studied further.



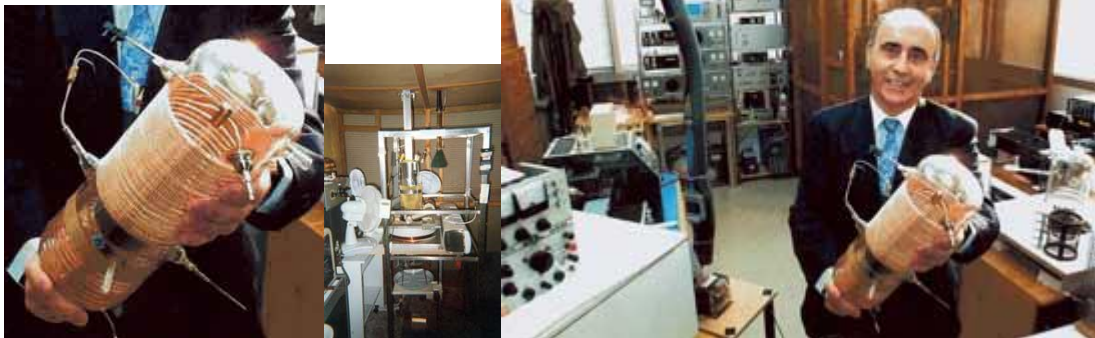
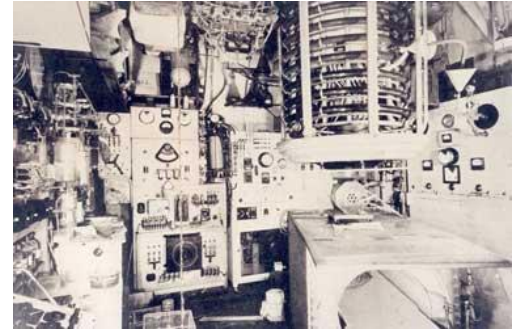
**General diagram of one of Priore's apparatuses
 belonging to the latest generation**





la lampe : 3 mètres de hauteur la lampe terminale





Dr Murzeau in the ARTEC Laboratory

http://www.priore-cancer.com/index_uk.htm

付録 I

アントワン・プリオリのケースと彼の治療装置

フランス科学界の政治的スキャンダル

c 著作権 1984 年（クリストファー・バード著 1988 年の許可により用いられる）

44 年前、1944 年に、ボルドーの巨大な潜水艦基地でドイツ人の囚人と強制労働者として働いていたイタリアのエンジニアは、彼の生命を助けてもらうために、フランス警察のエ

ージェントに近づいた。

フランス警察のエージェントはドイツ人がボルドーを去るとき、殺されるだろうと言った。明らかにその頃までに、戦争には負けていたから、彼が殺される日は間近だった。

ボルドーニュの近くの行政区で、警官はエンジニアを彼の車に入れて基地から移動して、彼を地下レジスタンスの戦士たちの第 7 部隊に連れて行った。（その警官は、内密のフランスの地下レジスタンス組織の一員だった）

アントワン・プリオリはフランスの国家によって最終的に叙勲されたように、彼自身軍事行動では目覚ましい功績があった。

戦争の終結の後、アントワン・プリオリがボルドーで残りの人生を生き抜くと判断したのは、彼の救世主になった人への感謝と助けてくれた仲間への忠誠心のためであった。

この後、彼はフランスで最も奇妙な焦点の人となり、そして、フランスの科学史、または他のどの国の歴史をみても最も恥ずべき 1 章となった

フランスに行く前、アントワン・プリオリはイタリアのトリエステにある、小さな地方の電気学校を卒業して、イタリア海軍のレーダー管理者になる。

この期間、何が刺激的で異常なことか、彼はいつも注意して観察していた。

あるとき、いなくなった電気部品が雑然と落ちている部屋に、残っていたいくつかのオレンジは、フルーツ・スタンドで買った時と同じ新鮮な状態だった。部屋の同じ時に買った他のオレンジは、腐っていた。

この観察にびっくりしてプリオリは、戦争の日々を通して推測し考えたことに基づいて、まったく今までの常識にとらわれない、新しい仕組みで、新鮮な状態で食糧を保存し節約する電気手段を、考えだした。

ニュートンのリンゴは、プリオリではオレンジだった。

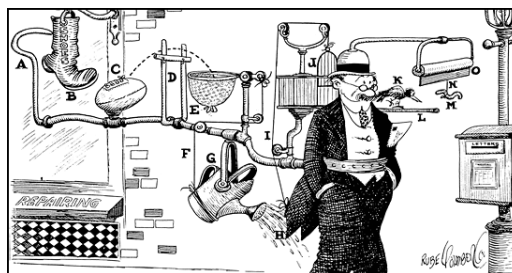
プリオリは控え目な電気修理工として、日中は過ごし — 映画館の映写技師 — 、ほとんど独学で、彼が自由になるすべての時間と乏しい資産を研究に捧げた。

戦時仲間の助けを借りて、（その人の何人かは、ボルドー警察で上位に昇進していた）ミニ倉庫の一部分を借用し、電気と電子部品をもらうか、盗むか、たかるかして使った。

彼はこれらで、**Rube** ゴールドバーグの漫画にあるのと同じような装置を作った。ループ・ゴールドバーグ・マシン (**Rube Goldberg machine**) は、アメリカ合衆国の漫画家ループ・ゴールドバーグ

(en:Rube_Goldberg) が発案した表現手法。普通にすれば簡単にできることを、手の込んだからくりを多数使い、それらが次々と連鎖していく事で表現。

レンズマメの種を育てるためにプリオリの装置で 225 ガウスの磁場と電磁振動数 80、32、3 と 10 ヘルツの波動を照射すると、同じ処理を受けないレンズマメはわずか 5 センチメートル芽を出したのに比較して、長さ 12-15 センチメートルの芽が生えた。



彼は、チューリップ、アスパラガスといった他の植物でも似たような結果を得た。次に焦点をかえて、受胎した雌鶏の卵に照射した。すると、ひなが通常の 21 日の代わりに 19 日でかえるのを見た。彼はこれらの驚くべき結果を説明できなかったが、同時に細胞の成長（または速度）の強化の基本的なプロセスに影響したことを偶然発見したと考えた。この時点で彼の警察の友人は、トゥールーズの獣医学校の前の研究責任者のフランシス **Berlureau** と、ボルドー修道院(abbatoir) の責任者に紹介してくれて、彼らと会った。プリオリは、実験のためにいろいろな動物を供給してもらうよう、**Berlureau** に頼んだ。10 年間、彼らは一緒に働いた。そして、プリオリに研究に使うようフリーな時間を許可してくれた。そして、その間に、プリオリはガンの牡牛の睾丸から電気測定値が得られないことに気がついた。

彼の新しく造った装置で、細胞の電気特性が認識できるので、当然電気特性を改良すれば、ガンに対する電磁気治療法もうまれると推測し、実験を続けた。（装置が残っているかどうか追跡したが、スナップ写真を除いていずれも今日残っていない）

ニュートンの重力の発見と同じようなことが、プリオリにもガンの治療法で起きた。

次に獣医学校の **Berlureau** は、乳腺がガンにかかった猫に彼の装置で光線を放射することを、許してくれた。

彼は馬鹿にされないよう、完全な形で実施するため、彼自身では公表しなかった。プリオリの友人と同僚であった、肩書きのある獣医が、生物の組織構造の研究を行っていた。（パリ近郊のメゾンオールフォートの有名な獣医学校の **Drieux** 教授）

Drieux は、猫から取った腫瘍が、処置の前に、ガンのようになり始めており、処置の後、進行が穏やかになったことを証明するテクニカル・レポートを書いた。

1953 年に、プリオリは総合内科のモーリス・フルニエ博士の助けを借りて、ガンで絶望的であると判断された人間の患者を治療し始めた。

訴訟のための膨大な量のファイルは、フルニエによって守られ、彼の死後まで公証人にファイルされていたが、その後不思議なことに失われた。

しかし、2、3 の詳細な記録は、ページの角が折れた古いファイルで発見され、書面で保存された。

1954 年のこれらのデーターの 1 つは 12 才の男の子（アラン B.）のものであった。その診断は、網状・組織・肉腫とホジキン病による悪性腫瘍であるかの間で揺れていた。

男の子は彼の両親によってプリオリのもとへ連れられてきた。そして、プリオリは彼を装置で照射して治療した。

12 年後ボルドー医者の健康診断によれば、男の子は現在 24 歳で、放射の正確な性質はわかっていないが、病気は完全に直っていることが保証された。

古いファイルから掘り出された第 2 のケースは、喉頭ガンの患者で、摘出術を避けて、プリオリの新しい装置による治療の後、完全に治癒したことを示していた。

Berlureau（博士）はプリオリ光線の背後に奇妙な原理が横たわっていることに魅了された。

Berlureau (博士) は問題に興味があるボルドー大学の物理学者の何人かから協力を得ようとしたが、彼らは大学をやめさせられた。

彼は次にガンの専門医に目を向けた。そして評判が高い癌研究のセンターの Lachapele 教授 (Bergonie 財団の責任者) に依頼した。そして、その人はプリオリの方法論の有効性を証明するために動物実験を提案した。

Berlureau (博士) の嘆願は Lachapele の影響で、逆に石のような拒絶の壁が聳え立ったのが確認された。Lachapele と彼の同僚は新しい発見の必要がなかった。「Berlureau (博士) の病院で治療されたすべての患者は、治って、完全な健康体で出発していった。

「まるでこの装置によって完全に治るというそっけない答えが逆に作用したかのように、数年後に、Lachapele はプリオリプリオリのパイオニア的な研究に対する、恨み重なる敵の一人になった。

いくぶん落胆しただけで、プリオリは彼の研究の勢いを加速させた。

彼は、その翌年、より多くの周波数をもつ複雑なタイプのバージョンである、P-1 と呼ばれる新しい装置を造った。

それを造り終えたとき、彼はひそかに、非公式に、不治であると医者によって断念された何十人もの癌患者を治療し始めた。

昨年3月の彼の葬式で、会葬者の群衆の間にいた老人の小さな一団は、1950年代にプリオリによってもものすごい癌の苦悩から解放してもらったと言った。

彼の調査結果は興奮させたが、それと同時に、ものすごい失望も感じさせた。

科学または医療の世界で、その成果に注意を払う者が誰もいなかったからだった。

前に述べた、権威ある者からの拒絶によっても屈しない、彼の友人 Berlureau は、1959年の末、または1960年の初めにイタリア人の紹介で、ボルドーの医学部代理学部長 Tayeau 教授を得た。

Lachapele とは異なり、Tayeau は本物の医者と科学者だった。

彼は、2人の研究者、病理解剖学部長のビラバンと彼のアシスタントの Delmon をプリオリに送りだした。

2人は、2年間一緒にガンのネズミに取り組んだ。

特に動物に、移植された T-8 腫瘍は、パリで国際的に有名なゲランと Oberling のチームによって発見され、それはどんな方法でも治療しにくいことが、証明されていた。

全く思いもかけないことに、プリオリの機械で治療したネズミの腫瘍は大きさが 60% 減少した。どんな治療法でも効果がなかった悪性の T-8 腫瘍が、歴史で最初に治療成果をあげた。

それを知ったのはボルドーの市長である (ジャック・チャバン-デルマ) — そしてその人は長年、彼の地位を維持し、最後にフランスの首相になった — 彼はプリオリの研究に、最も強い興味を持っていた —

(チャバンはプリオリとおなじ仲間のレジスタントの闘士だった)、

彼らは、チャバン機関の一員であった。

すぐにジャック・チャバン・デルマとプリオリの2人は、チャバン機関としてでなく、ボルドーとパリの科学者からの委任という形でビラバンと **Delmon** の研究結果を詳細に調査するよう動いた。

両方の科学者の委任によっても、訴えは聞かれず、すぐにプリオリの研究と彼の装置は拒絶された。

それは、今日の科学から見ても興味深く、その結果は、否定できないとしても、すべての効果が十分に説明できるまでは、単なるうわさでしかないとした。

医学的研究者として資格のある2人の研究を断固として拒絶する表向きの理由と判断は、これだけだった：

ビラバンと **Delmon** は、プリオリの装置で発生する放射光線の性質を科学的に説明することができなかった。

人は、支配者の拒否の本当の原因を隠し、何か別のものにするために、表向きの理由を創り出す。

委員会による最初の拒絶決定は、実際、全員一致だった。

しかし、以前 **Berlureau** の援助を求める訴えを拒否した **Lachapele** 教授は、そのメンバーの一人だった。

彼の意見は、ガンが、自発的に発生したものでなく、移植されたものだったので、その結果自体ほとんど価値がないとした

今まで1Tの8の腫瘍の治療は全くされたことがなかったという事実は、全く無視された。

委員会の唯一の癌学者として、**Lachapele** の言葉は優力だった。

委員会による最初の不認可の裏側で、実は判定が割れていたことを、その時プリオリは知った。

ボルドー市長は、第2の委員会を形成して問題を再検査するように頼んだ。

方針が前向きに反転することを恐れて、**Lachapele** は彼の同僚の1人を仲間にして働きかけた。**Courtial** 教授は、パリのラジウム研究所の責任者でフランスのがん研究のいわゆる権威ある者たちの中の1人であった。それが決定打であった。

現在の新しい委員会にいる多くのボルドー市長側の医者には、1人だけでは投票で勝てないが、多くの仲間を作り出せば勝てる。その日権威あるガンの専門医達は、敵対するプリオリに再び勝った。

委員会はプリオリ自身へのインタビューも、委員会自身の下で補助実験をすることも、邪魔をして、決して許さなかった。

科学的な当局のこの一見理解できない態度は、何度も、長年にわたって、続くことになるいやがらせの予兆であった。

しかし、ビラバンと **Delmon** は、新しい実験を続けた。

彼らは新しい実験の確認項目を、移植した後、移植した部分をプリオリ放射線は正常なも

のにするか、病気の期間の長さを短縮させるかの、二つに修正した。

今度の実験も、明確で完全な成功を得た。

腫瘍は成長するのを止めた。そして、今もなお生きている細胞がそこから切除されて、好ましい対照動物に移植されたとき、どれも悪性にならなかった。

この結果は、通常どんな医療現場、または科学学校をも魅了させるはずだが、2 人の研究者はそれを発表しなかった。

なぜか？

理由はぞっとさせるか、うんざりさせる。

ビラバンはこの時、最高のフランスの学位と上位の大学での教育者としてのポストを得ようとしており、教授資格のための試験を受けようとしていた。

資格を認め裁定する委員会の中心人物は、Lachapele 教授以外の何者でもなかった：

Lachapele 教授は、彼に告げた。「専門家としての資格に必要な認定を得るか、または、研究論文を発表するか、そのどちらか1つを選ぶ他ない。

もし、あなたがこの報告をすれば、結局両方とも出来ない！」、落胆して、ビラバンは要求を認めたが、それでも、とても刺激的で将来性があるこの研究に取り組み続けた。

彼にとって最も不可解なことは、どのように機械は驚くべき結果を達成するのかということだった。

ピレネーの山で 1963 年にされた Biometerology の 3 回目の議会で、ケニス・マクレーンという名前のニューヨーク市の研究者は、腫瘍を縮小させ、3000 ガウス以上の強さの磁場を用いて癌患者の健康を改善できたことを伝えた。

このヒントから、ビラバンと Delmon は、4,500 ガウスの場を出す電磁石を得た

そして、T-8 腫瘍に使ってみたがすこしも成功しない。

明らかに、単純な磁場以外の何かが、重要な要素であった。

1966 年に、他の人が「T-8 腫瘍にプリオリ光線を照射することによって同じように成功したあと、「2 人の科学者ビラバンと Delmon は、Comparative Pathology Revue で、ついに覚書を発表した。彼らは磁場も X 線も T-8s の上で効果がないと述べた。

「磁場を高周波と結びつけて波動を出すある種の装置だけが、治療特性があるようである。」この結論の出た時はあまりに遅かった。

その頃には、現在まで続くプリオリのガン治療法と彼の電磁気的アプローチを鎮圧する運動が、進行中だった。

地元のボルドー医学コミュニティに関する限り、全権を有する Lachapele はプリオリ装置の運命を封印した。

そこで、獣医 Berlureau とプリオリは、パリに彼らの患者をつれてくるようにした。

彼らは、アメリカ（メリーランド州）ベセスダの国立ガン研究所のگران教授と、フランスの癌研究の主要なセンターである Villejuif の癌協会と連絡をとっていた。

t-8 腫瘍の発見者の 1 人であるگرانは、礼儀正しく彼の客を迎えて、その装置がどのよう

に生まれたか、全ての物語を聞いた。それは、t-8 腫瘍が、プリオリ装置で初めて成長を止めたことと、プリオリがオレンジが不思議なことに何か説明のできない電磁気効果で鮮度が維持されるのを見た時から始まった、彼の研究の話であった。

ゲランは、彼の同僚(マルセル・レネ・リヴィエ)に全ての疑問を調べるよう命じたほど、この話は十分興味深いものであった。

2 年間、このリヴィエ博士はビラバンと Delmon の調査結果を確認するために、絶え間なく研究した。(リヴィエはまた、ブルターニュのレンヌ大学で責任をもって教えていたことがあった)

リヴィエは 1964 年 12 月 9 日に、研究記録を書き、控え目に結論を出して科学のアカデミー・フランセーズの議事録出版部に送った：

「移植片への電磁界の使用は、生物学的作用の観点から、極めて面白いデータがあり、我々の最初の所見から見て、実験用の腫瘍に治療的な作用を及ぼしていると述べる事が出来る」

リヴィエ博士は、次に、プリオリ光線が別の種類の腫瘍に影響を及ぼすことができるか見ることに決めた

これまでリンパ芽球リンパ肉腫 347 には、効果的な治療法はなかった。

結果は、T-8 腫瘍よりいっそう感動的であった。

もたらされた効果は、幅広い範囲で、急速に発生した。

2 番目の記録は、アカデミーの出版部に送られた。

結論を、読むと：

「現在我々の研究は、電磁場が腫瘍の全く異なる種類に対しても、効果があるという証明を提供したと断言できる。」

さてこの時点で、この驚異的なドラマの中の鍵となる 1 人の人物が、登場しなければならない。

この段階で彼が現れ無かったら、ドラマは、まったく生まれなかったかもしれない。

この人物はロバート Courrier である。(著名な内分泌学者)そして、その人は、弱冠 30 歳代で、正教授になっていた。



premières expériences vers 1950



A. Priore - Pr Pautrizel - Pr Courier

Courrier はその時科学アカデミーの永久理事で、後になって医学アカデミーの責任者になった。

そのメンバーの 1 人によって紹介されない限り科学論文はアカデミーによって審査されない。

Courrier はリヴィエアを指導し彼の博士号を取ることを通して、その指導責任を果たしたので、良くリヴィエアを知っていたが、リヴィエアは、**Courrier** はとても名声は高いが彼の研究は公表されていないので内容を見る機会はなかった。

この時点で、フランスの権威あるいろいろな公的組織が行う科学的プロジェクトの資金管理の責任者は、**Courrier** であった。

こうしたわけで、**Courrier** はフランスの原子および宇宙の科学研究担当大臣に個人的な手紙を送った。すると彼はすぐにプリオリ光線について更なる研究ができるよう資金を出そうと申し出た。

Courrier はまた、プリオリとリヴィエアを迎えるため、個人的に **CNR** の責任者と連絡を

とった。（CNR はフランス全国のすべての研究活動を統合し、監督する科学研究センターであった）

この会合は失敗だった。その時、複雑な性格をもつプリオリは、彼自身の方法を、自分の作ったレジュメで説明できるだけだった。

彼の人生を通してプリオリはフランス語で理解し話すには、大変な問題点があった。そして、年月を経て、彼は自分の母国語（イタリア語）さえも少し忘れて、人に伝えるには不十分なときがあった。

さらにこの障害に加えて、彼の発見と発明品が盗まれる傾向があるという彼に生涯つきまとう恐怖が、機械から放射される複雑な放射の正確な性質とその多様なパラメータと管理設定方法を完全に説明できないように作用した。

しかしたとえプリオリが発明した機能を正確に説明出来たとしても、彼らの疑問には、的確に答えられなかったようだ。（我々が見るように、それは、ますます複雑な装置になっていった）

プリオリは、教科書的推理と論理より、神から与えられた直観力が優れていたエンジニアであった。

短く言えば、プリオリは同じような才能があった謎の個性の持ち主の 1 人ニコラ・テスラを思い起こさせ、誰かの発見の背後にある完全に提示されていないものを演繹的に推論した。

高い地位にいる科学的な管理者は、プリオリを単なる自薦の天才として同情もなく気楽に見、アカデミーの白い長手袋の権威ある手を動かそうともしなかった。

このように、CNRS のディレクターは、プリオリの、いくぶん理解できない、長たらしい技術的説明を嫌悪し、物理学者がきちんとその機能を解読できるよう彼の装置を、観察するよう勧めるだけだった。

同時にロバート **Courrier** のプリオリについての最高の推薦と紹介にもかかわらず、フランスの科学界の意思決定過程で、重要な役割りを果たす大臣と、科学研究のための科学界の代表団のトップは、共に発明の一つの項目も理解しようとしなかった。

さらにただ理解しないだけでなく、もう 1 歩進めて、プリオリが 20 年間にわたるジャングルの探検に 1 人で立ち向かわざるをえないよう追い詰めてゆく陰謀を企んだ。

これに対して **Courrier** は、断固として立ち向かい、彼が最大に信用している研究所の研究者の 1 人（**Colonge** 夫人）をボルドーに送り、彼女の個人的な監督の中でリヴィエアの実験を繰り返すことに決めた。

DGRST の責任者は完全に **Courrier** の決定に同意したが、その一方で、リヴィエア博士がプリオリによって、ちょっとした方法の点でだまされていると強く思っているとうっかりしゃべった。

Courrier が大臣に **Colonge** 夫人の旅行資金を支給するよう頼んだとき、そのような要請は「時期尚早」だと冷徹に拒否された：、

それに怒った **Courrier** は、答えを求めて電話をかけた。

「あなたは、ガンの問題についての研究計画と仮説のために数 100 万を使っているが、リヴィエラ博士は、すでに確認した事実を持っている！」、
プリオリの装置の仕組みの説明を受けるために送られた物理学者は、機械の全てを「上から下まで」完全に説明できないと伝えた。

Colonge 夫人の実験は、確認のために長い時間が必要だった。

彼女は、非常に注意深く、実験動物から一瞬も離れずに自分の目で確認しなければならなかったので、研究所で食べる昼食をサンドイッチに制限した。

彼女は、非常に強い印象を受けて、パリに戻った。

リヴィエラ博士も、この期間中、休んではいなかった。

彼は、**L-52** リンパ肉腫の実験をすることにした。（腫瘍の類似物で、**347** よりさらに悪性の腫瘍）

今度は、移植片の宿主として、彼はラットでなく、二十日ねずみを使用した。

今度も彼の結果は、とても成功したが、**Courrier** はこれを判断する権限を持っていなかった。**Courrier** はアカデミー議事録で、静かに印刷物で記録を発表する代わりに **1965** 年 **5** 月 **1** 日の予定された公式会議で、仲間のアカデミー会員の前で、完全な厳粛さの中で、個人的にスピーチで、プレゼンテーションしようと決めた。

その日は「プリオリ事件としてフランスで知られることになる事件の記念すべき分岐点であった」

「その時以来、フランス人全てと、さらに国際的、科学的なコミュニティは、少数派と多数派グループに分裂した。

研究を信じたものは少数派のグループで、多数派は、十分論証されていることを知らないなどの理由で信じない者、又は信じようとしなかった者、または、単に気にしない者達であった。

Courrier がプレゼンテーションの用意ができる前に、日程配分の技術的問題から、不注意に、報道機関に早まってリークされてしまった。

その後すぐに、ジャーナリストの群れが、ボルドーに到着した。

発表のために予定したすべての準備のうちの一つか二つしか完了していないのに、ジャーナリストの群れは彼の研究室へ力づくで押し寄せた。

プリオリはそのドアを閉めた、そして作った機械を詳細に理解できるように提供するよりは、むしろ、友人の助けを借りて、長年にわたって最後まで手伝った多くの人々に感謝の気持ちを強調する記事を書いた。

癌の専門家を指導する立場の、権威ある **Lachapele** 教授から説明を求めるため多くの報道関係者が町へやってきて、身動きができなくなった。**Lachapele** 教授は機械がほとんど役に立たず注目するに値しないことを辛辣に伝えた。

ジャーナリストのレポートは明らかに、うそと噂で書かれていて、彼らの新聞と雑誌の報

道は混乱を極めた。またはその装置の能力を完全に誇張して未来のガン治療法として書くか、偽のガン治療法を話すくわせ者として、書こうとしてプリアリに接近した。

それは、他の全ての科学的研究関係者を警戒させた。電子顕微鏡検査の世界的権威のウィルヘルム・ベルンハルト博士は **Courrier** の友人だったが、今度のアカデミーでのプレゼンテーションは **Courrier** のやっとな手に入れた評判をゲラン、リヴィエアと **Villejuif** のガン研究とおなじように、危険な状態にすると警告した。

過熱する報道合戦の中で、リヴィエア博士が、彼のレンヌの大学講座を使用して、慎重に正式に出した声明は、読まれさえしなかった。

「我々の実験は、実際興味深い。

人間のガン犠牲者に、どんな医療装置を使う場合でも、その前に、もちろん長い実験的研究がされなければならない。

これは科学と資金の両方の面で、多様なタイプの、多くの時間と努力が必要なことは言うまでもない。

我々の研究は、魅力的な展望を持つかもしれないが、必ずとは言えないが、社会の誰にでも希望を与えるが、その希望は現時点では偽りであることもありえる。」

5 月に、**Courrier** は、考えられない人数の科学者、新聞記者とテレビ・リポーターカメラマンで混み合う、好奇心の強い参加者のいるアカデミー会場で報告した。

治療の前後の動物の組織をスライドで詳細に示した彼の講義は、厳粛な沈黙の中で、最後まで聞かれていった。

そして、会場の明りが再びついたとき、**Courrier** の個人秘書である **Colonge** 夫人の診療所を通してリヴィエア博士の調査結果の有効性はすでに個人的にチェックされていると発表した。彼は、それから、アカデミーに 2 つの理由で 3 通の書類を出す責任を果たした、と続けて言った。

最初の内容は、熱烈な宣言であり、批評家と懐疑論者といったあらゆる特別な者達への挑戦状でもあった。

それを読むと

「少し光がさし始めて目に何かが見え始めたとき、人はこの光が示すものを見る義務がある。人は、それが価値があるかどうかわかる前に、それを無視することは正しくない。私にはそれを直視するかどうかは、ガンと同じぐらい、人間にとって深刻な問題ではないかと疑問に思う。

「第 2 の理由は、パイオニア的な仕事をした彼の同僚、特にゲラン博士、リヴィエア博士と **Colonge** 夫人の科学的証拠がある。そして問題の本質に対して、私は毅然と立ち向かう」と声明した。

それを、読むと：

「当然プリアリの考えと、造った装置を仔細に点検しなければならない。

それは、すでに数人の物理学者によって調査されている。

それはあまりに複雑であると見られている。

それはどのようにして可能なのか疑問が出て来る、とはいってもこれは事実である。

そしてゲラン博士とリヴィエア博士によって、得られた結果がある。

その得られたものを公的にしなければならない。

何が、そのような装置から放射されているのか？

私はプリオリに暇があるときに物理学者が公平にそれを研究することが許されることを望む。なぜならば、科学は神秘に包まれた装置を許容することができない」。そして、この時代のこの研究領域の歴史を説明するかのように次のように書いている：

「磁場の生物作用は、アメリカ合衆国で強烈な研究対象となっている。

専門学会において、組織培養、微生物、装置の形態、アミラーゼと、確実に腫瘍となったものへの、これらのエネルギーフィールドの影響を研究中である。

今まで、移植された腫瘍で得られた結果は、今ここで示された実験結果より重要ではない。」

Courrier が着席した後、主要な権威あるガン専門家である Lacassagne 教授は、すぐにこの論文に、今まで研究されてきた電磁場の腫瘍に関する生体効果に関する参考文献が含まれていない理由を、質問するために立ち上がった。

そして、これらの実験が「即席である」かのように批判した。

滑稽だと思って Courier がこの主張を否定しなかったとき、権威ある Lacassagne 教授は集会場の観衆の誰もが見える花道を大股で歩いて出て行った。

この会議は、激しい報道合戦を噴出させた。

いずれの報道も、残念なことに、次の 3 つの項目のうち、1 つの面だけに注目し、他の 2 つを無視し総合的に報道しなかった。

これらの 3 つの項目は、

- 1) は近い将来、ガンに対する奇跡的な治療法になるとして、明るい希望を書いた。
- 2) はいろいろなアカデミックな研究者からのデータと調和しないと云った反論である。
- 3) はプリオリの個性の謎についてである。

会議に出席していた科学者の間に、これまで目立って重大な議論は、起きなかった。

だがその時パリに存住していた外国人の科学者に注目された。そして彼らは「私には、わからない。」と論評した：

フランスで最も権威ある科学的な組織、「アカデミー」のメンバーで最も著名で敬意を集めている一人から、「アカデミー」に提出された報告書が、ここにある。その内容は全く公的な権威あるものに対して疑念が生まれるような書き方で、問題が書かれている。

科学研究の審査のための一般代表団は、資金をプリオリ光線に関する多くの研究に提供するというアイデアについて、この時点では許容的だった。

しかし、大きな障害は、あちこちの細部に関係している、科学界の権威ある上部階層に存

在していた。

資金配分に道を開くためには、代表団の中にある癌研究部門からの承認を義務づけていた。そして、その部門への指示は、アカデミーの集会場から偉そうに大股で歩いて出ていった **Lacassagne** 教授以外にはできなかった。

同時に、一般代表団は、ロバート **Courrier** 等の行なった研究の重要性を理解させるには、まだ詳細な情報がないとして、対外的に自身の決定の権威を守った。

Courrier には、単に彼がアカデミーに出した 3 通の論文を再読して、検討すると告げるだけだった。この後、**Courrier** がアカデミーへ再び短い事務手続きをへて復帰すると、癌研究所の専門家会議からの正式な招待状が届いた。

この短い歴史的説明では、一部始終を明らかにすることができないが、この会議も、それに続いて生まれた多数の類似した会議と同じように蒸発していった。

勇敢なボルドーのジャーナリストジャン＝ミシェル **Graille** が、4 年かけて書いた素晴らしい題の本：「新しいパスツールとなったプリオリ事件の関係書類 **Dossier** プリオリ, **A New Pasteur Affair**」の中には、次のような一節がある。

「この覚え書きは、短い概要である。

多くの一般人の感覚ではこの問題の性質を理解するには、これでは、説明が明らかに足りないと思うだろう。」

続けて **Graille** は書く：

「最初の章から続いていく名前と肩書きの列举と、管理会議でされた議論の内容を読むのは、退屈である：

高い地位にいる人物、またはそうではない人による個人的意見、会議そのものに続いて起こる書面のやりとり、その公式レポート。これらは退屈であるが、さまざまな理由のため不可欠なものなのである。

誰がこの関係者であったか、そして、この関係者の各々が何をしようとしていたかわかることは、重要である。

このような学会が『トップレベル』で彼らの仕事をどのように進めるか、この仕組みのノウハウは、理解にとって重要である。そして、最後に、プリオリ事件の関係者全ての、この特別なケースでの、行動と反応を学習し、理解することは重要である。」

こういうことについて読むことは忍耐が必要であるが、この本は唯そのような文だけで出来てはいない。

それでも、指示命令書類を自分でつくることのできるほど、その決定の筋道を理解することは必要である。そのことで個人の意見とその動機が明確になる。そして事実についての完全な知識をもとに、理解した後、初めてそれを議論し、その議論を聞くことができるようになる。」

私の考えでは、**Graille** ジャン＝ミシェルは、この一つの文章で、

問題の核心と困難の両方を指摘している。

この人間関係の仕組みを理解することは、プリオリの事件の背後の真実と事実の本質を見て、正確に理解するために、とても重要なことである。

科学の歴史の背景と人間の狭量と悪意、または人間の勇気と雅量の背景は塗り潰すことができる。

関係者の 1 人アンドレ・ルウォフ教授は、ウィルス学の研究でノーベル賞受賞者となるために、会議の中心問題を否定の方向に動かそうとして、激しく戦った：

本来は新しい高性能のプオリ装置を造るために、資金が使われるべきであった。

ルウォフ教授は、それだけでなく、すべての研究は完全ではあるが、

自発的に発生したガンでなく、移植されたガンで行なわれたので、装置の効果は、明確でなく、アカデミーに提出された 3 通の論文は決して発表されるべきでなかったと断言した。

しかも、彼は、書面でその後付け加えた、

1) プリオリの装置のために出された特許は、ナンセンスなものだ

2) 装置自体が、発明者が与えた説明によっては、決して複製できなかった、その再現性は、彼の話しだけのものだ。

3) 、移植されたガンだけで実験されたという事実を知れば、もはや何か言うべきことはない：

ルウォフ教授は、不思議なことに照射を受けた動物が、その後新しい移植片に完全な拒絶反応を示すように変化したことをつけ加え、全ての現象をみると、装置によって健康でない細胞が、癌細胞を殺害できるようになったとする、証明とはなっていない。

全ての現象からみると、免疫機能との関係を疑わせるが、発表者は、それは最も重要なことではないだろうと言っている。と批判した。

これに対して、ゲランとリヴィエアは、答えた：

「移植された腫瘍は外から移植されたものなので我々の実験は価値がないと主張しているが、このような移植された腫瘍を他の治療法が同じように治療したことが確認され、証明を受けたことは、知られている。

我々は、その治療法を使って、治癒を確認し、証明を認めた人を許すことが出来ない。

プオリが発展させた装置を使用することで、T-8 腫瘍に感染している動物を、他の治療法とほぼ同じパーセンテージで治すことができる。」

その後、この挑戦的な手紙に、誠意ある返答はなかった。

会議の NO2 の地位のガンの専門家（大きな影響力をもつ女性）は、動物のどれもが体重が量られていないので、実験には疑問がうまれるという、あら捜しをした。

この同じ動物が通常死に至るガンを生き残ったという事実は、彼女にとって重要でなかったようだ。

科学者が、真実を嘘に簡単にできるものなのだろうか？

前に述べたように、プリオリを研究所から排除し、広い世界でその存在を蒸発させるためにうわさを流すことになっていた。

プリオリはその時、その陰謀は知らず、科学アカデミーに、3 通に分けた論文で成果を伝えた結果、彼の装置がフランスの癌の最高権威によって使用された事実を大いに喜んでいた。

そしてこの場面で、ガラスの部品製造を専門とするフランスの大きな製造会社の市販責任者が、到着したことで、多分に勇気づけられていた。

この人は、今あるすべての基準からみて、おそらく世界のどこにも存在しないほどの大きな蛍光管をプリオリが必要とすることを聞いていた。

この蛍光管に入れた、（ネオン）を含んだ希ガスが、いろいろな周波数の電磁気を入力すると、プラズマが興奮して 1 つのプリオリ光線に変わり、そしてその光線は蛍光管の先端から急増して放射される。

蛍光管の中には、陽極と陰極があった。

それは望み通りの生体効果をもたらすために、陽極が、独特な回転をしなければならなかった。

しかし、これは特異なプリオリの器材の 1 つで、今日まで物理学者と生物物理学者は、この装置を説明することができなかった。

製造メーカーとして、国際的によく知られた会社（Saint Gobain）の子会社は、新製品を探していた。

特にそれが最後にガンを治療する機械に改造され、売り出されたならば、明らかに世界中に巨大なマーケットをもつ製品となるので、市場責任者は新しい蛍光管は採算が取れるかもしれないと思っていた。

蛍光管に関して多くの問題が、あった。（特にそのかなりの大きさと、抵抗と伝導性については問題があった）

蛍光管がついに完成されたとき、プリオリは彼の発見を会社の科学者に説明しなければならなかった。

これらの内の 1 人は、そのような説明を聞くために送られたが、いわば、プリオリの「熱い情熱の炎で打ちのめされて」帰ってきた。

それで、2 回目の試みは、会社の上級管理者とフランスの土木技師学会の会長イヴァン **Peyches** によってされた。そして、その人は装置を詳細に調べた。

彼のレポートは、その後無くなったと伝えられているが、主要なフランスの雑誌「科学と技術」に発表した論文は、残っている。（1978 年の彼の死の少し前に出版された）

それは興味をそそられるタイトルであった：

「いわゆる超常的な現象とは、何であるか？」、と、エンジニアは題をつけた：

「何らかの生体を刺激する成分が大きく蓄積した、

測定結果を証明することだけに今回は限定しているために、別の研究はできなかったが、

蛍光管から x 線のような特別の光線が出ているわけではなかった。

（プリオリは、生体を刺激するよう方向づけられた光線について話している）、
他方、チューブに直角に置かれたソレノイドの磁場の効果を見ることができる。
それは、波動を変化させ、さまざまな実験をするため、コントロールボックスで操作した。

16 メガサイクル（19 メートル）の電磁場の振動数と、その他にも高い振動数の場をいろいろ作ったが、（波長はメートル法で測った）全ての、超長波は1秒に1回パルスさせた。
このように複雑に変化させて作動させるので、必要で十分な条件を確定することは不可能だった。

プリオリは、いろいろな波動のプログラムを同時に作用させることが効果を生むのに不可欠であると思っていた。」

Peyches は、プリオリの装置の機能について多くの正確な定義を提供しよう説得しようと続けた。

Peyches は、発明家に手紙を書いた：

「あなたの部品についての寡黙さは、自身の仕事が部分的に盗まれるのを見ることに対する恐怖によって正当化しているが、権利を守るためにどんな安全装置を置いても、このことは結果的に、あなたにずっと大きな損害となる。

さらに、それが、治療を受ける多くの人々の健康に関係するので、疑問がうまれた時、もはや完全にあなた自身が1人でボスでいられるわけではなく、絶対に明白なものを太陽の光の下に出さなければならないのだから、あなたがこのまま単独で行うことができるとは思えない...第三者があなたの結果を再現することができるように、すべての特性を公開しなければならない。」、そのあと、彼はアカデミー会員のことばを引用して結論を出した：

「装置を取り巻く多数の現象が不合理で、ありえないことと思われたら、科学的な世界では拒絶される：

しかし真実に対する敬意を持って、対象を理解するために見ているのに、プリオリの試みを拒絶するとしたら、科学的誠実さの証明とはならない。科学はある日、このタブーを捨て去ることができるのか？」

結局、科学的な見解から見たら、プリオリは彼の機械で起きた現象について完全には何も知らなかった天才というのが、最後の **Peyches** の結論であった。

アメリカの **Coming Glass** 会社によってそれは外へ持ち出されてしまい、彼が製造法を教えた会社はもはや存在しない。

プリオリ装置の製造によって利益を得た企業は **Saint Gobain** の子会社に限定されていなかった。

次に製造に当たった会社は、「ルロイ・ゾマー **Anguoulem Leroy-Somer**」だった。

それは電気モーターと発電機を専門とし、その後は、太陽光発電の支所になった。

そのルロイ・ゾマーの社長（ジョージ **Chavanes**）は、1965 年にプリオリに連絡をとるため

に手紙を書いた。会社は発明者に必要な複雑な電気器材と強力な発電機を提供し、プリオリの作戦をともに展開することに興味をもっていた。

プリオリに「Anguouleme」の会社の責任者に会ってもらって、話し合った。

発明者はこれをはっきり拒絶したが、Chavanes はとりあえず、ボルドーにプリオリ装置を製造するための工場を建設することに同意をとりつけた。

ルロイ・ゾマーとプリオリの間の同盟は、せいぜい 2 年間の不確実な関係でしかなかったが、1967 年の聖木曜日に崩壊した。

この期間、両グループは同意をとりつけようとしたが、絶えず嵐が吹き荒れた。

プリオリは、彼の最高のものを作るよう、10,000 ガウスの強さの巨大な磁気の機械を造るよう Chavanes を説得しようとした。

結局彼は、すでにあった 620 ガウスを出す機械をもっと強くして、わずか 920 ガウス出るものにした。

プリオリは、文字通り巨大な機械の増大させたガウスの強い作用の場が、ガン犠牲者の全身またはストレッチャーの上に横たわった人間のあらゆる部分をプリオリ放射線にさらすことができる結論を出していた。

ところが縮小版の、小型機械は、小動物、または、人体の限られた部分だけを治療するのに効果的だった。

Chavanes と彼の会社は、より大きな機械を造るのは、相当な財政的な負担があることに気づいていた。

プリオリに負担があることを伝えるのと同時に、もっと小さなものをつくるよう計画を変えるよう、プリオリに大きな圧力をかけた。

Chavanes の言ったことでルロイ・ゾマーの従業員が減少したという単純な事実からみても、

Chavanes の存在は、新しい装置の製造で、小さいが不可欠で重要な歯車であった。

Graille の評価では、ルロイ・ゾマーの社長 Chavanes の精神的な部分の欠如は、彼がプリオリ「関係書類」で最も黒ずんだページと呼んだものを構成している。

「小型の機械でも、100 万ドルの半分は必要だった。（インフレーションのために、今日の価値ではこの 3 倍か、4 倍になる）

この段階で、ルロイ・ゾマーのチーフエンジニア、Ribeau によって設計された、中型の機械は正確にきちんと機能しなかったが、Chavanes はすでにかなり借金しており、プリオリに強制的にほとんどでっち上げの契約書にサインさせた。

その後、契約の中で変えられたことばが一つあったため問題となった。

「動物と人間のガンに関係するすべての国での治療」において、特許の独占的使用権とその後の特許修正権が会社が生じると読めるように、文章が、手書きで挿入されていた：

これは、「動物と人間に関係する」機械の使用は、プリオリではない他の人が権利をもつことを意味しており、彼らがそうだと思われたものはどれも、会社の権利となる。

こんなことばの勝手な変化は「特に」「無効となることば」と呼んで、プリオリの契約のコピーに関しては改められた、しかし、**Chavanes** のコピーに関して、「追加されたことば」として残された。

彼との契約を変更しようとしたルロイ・ゾマー社は、プリオリ自身に代わって、フランス政府の研究所の、新しい機械の研究資金の支給に関係する一般代表団の有能な管理者の席に、装置が、置かれるべきと思っていた。

プリオリは一般代表団とルロイ・ゾマー社長 **Chavanes** が接触していたことを知って、皆に周知させるように、書面で **Chavanes** には何も権利がないことを書いて提出した。

しかし、**Chavanes** は **Saint Gobain** 子会社を切り離し、自分の会社単独では、蛍光管を供給するようにしなかった。これは、国家資金の中で、装置のキーとなる部分が生産され、コントロールされることを意味した。その間に、他ならぬカストレル教授は、ノーベル物理学賞を得るために、今あるプリオリ装置を調べるために、急いでパリからやってきた。

彼は、**Delmon** をつれてきた。

前に書いたので、覚えていると思うが、その **Delmon** は最初の動物実験で **Berlureau** と研究していてプリオリ装置を否定していたが、今は、効果を理解して、こっそり外で自身のバージョンのプリオリ装置を造るとプリオリに告げて、試作していた。今になって、カストレルが **Delmon** をプリオリの研究室に連れてくることを知ったロバート **Courrier** は怒り、仲間にすべき物理学者カストレル教授にその怒りを向けたのは失敗であった。

Courrier はルロイ・ゾマー社が少なくとも 5000 ガウスのパワーをもつ機械を造るべきであるとカストレル教授を説得したが、ルロイ・ゾマー社社長 **Chavanes** はその製造を拒絶した。

このように関係する主要な実業家と最高の物理学と生物学者の間には、意見の一致点がなかった。

これら全てがごたごたする間に、多くのことが進行した。

イタリアのプリオリの姉妹は、ガンになった。

悲しみに我を忘れて、プリオリは、自身が先頭にたって彼の監督の下で、正しい中間の性能を持つ機械か、または、もっと性能のよい、5000 ガウスの機械を造り、姉妹を救助するか、または、全ての問題から手を洗うと関係者全員に告げた。

この最後通告で敢然と立ち上った、会社は 24 時間ぶっとうして中間の性能を持つ機械を仕上げ始めた。

しかし、関係するエンジニア自身は、その設計に関してはプリオリより優秀であると思っていたが、責任者から口を挟まないよう言われて会社を去っていった。

結果は、最初に機械を審理したとき、部品の大部分が爆発するか、または機能しなかった。そして、機械自体がばらばらになってしまった。

その後まもなく、プリオリの姉妹は、ガンで死んだ。

彼女の死の悲しみに打ちひしがれたプリオリは、誰とも話す気もなくなり完全に孤独になった。

プリオリ事件といえるような劇の全幕は、場面の鍵となる人レイモンド Pautrizel 教授が登場しなかったならば 1967 年の初期に、終わっていた。

レイモンド Pautrizel 教授はカリブ海のフランスのグアドループ島の首都バステールで 1916 年 6 月 3 日に生まれ、40 才で、彼はボルドーの医学部で研究していた。

彼はすぐに、世界中で、「寄生虫免疫学の父」として知られるようになった。（彼はこの肩書きを決して受け入れなかった）他の人にそれを知られると、彼は簡単に、「現代の研究者によって忘れられた考えを再発見するために、現代の研究にも意味のある古い科学的な出版物を探ただけだ。」と言った。そして、後で、つけ加えた：

「それは、本当にひどいことだが、研究者は、今日、時間に追い立てられて、数十年以上前の以前の研究を発掘しないし、それを振り返ろうともしない！

Pautrizel 教授は、免疫学のためにフランスで最初のアカデミーの椅子を与えられた。

そして、後で彼のために寄生虫の免疫学にとって、単純だが、答えを出すのは困難な問題のために、特別装置が、つくられた。

それは有機体の 1 部に侵略する特異な寄生生物を診断し、それをワクチンによって防止する方法、または血清の治癒的作用といった、いろいろな免疫学的な技術を、使用可能にすることと関係する。

寄生虫によって侵入されたとき、有機体は抗体をつくるよう反応し、特定の物質が、侵入者（別名抗原）を殺害しようとする。

これらの抗体は遊離し、攻撃する軍のように、血液に流れ込む。

ここまではとても単純である。

防護する大軍は、攻撃中に死ぬが、ただ寄生虫は死なない、複雑なものが発生する。

侵入者は、その「個性」を改良し変化してゆく、それに対抗して、宿主は侵入者の特徴と多様になるメカニズムを認知し、見つけて、侵入者を無効にしようとする。

このように、侵入者 A は破壊されるとすぐに、A-1 になるので侵入者 A は隠れてしまって、有機体が侵入者を認識できなくなる、したがって破壊できなくなる。

その新たな敵対者から逃れるために、有機体は、異なる防衛体制を創らなければならない。

しかし、その間に変身した寄生虫は、割り当てられた破壊的な仕事に取りかかる。

あるいは、寄生虫にはそれ自体で宿主の有機体の全体的な防衛能力システムを無効にしたり、絶滅させるもう一つ別の能力がある：「宇宙戦争と同じようなことが血液のなかで起き、侵略者との戦いが、顕微鏡レベルで続く。

この過程を良く理解するため、寄生虫に攻撃された有機体が次々に、敵に向かって発する体制をここでは武器と呼んだが、免疫学は、その内容を分類し研究している。

（寄生虫の正確な性質を定め適切な治療または対抗する武器を創り出す過程の一連の研究

をしている)。

これが、レイモンド Pautrizel の研究領域で、寄生虫の免疫学の本質である。

彼は、特にトリパノゾームとして知られている死に至らしめる寄生虫の専門家で、熱帯の第三世界の災いの 1 つである、もう一つは、動物と人間に生じる「眠り病」である。そして他には、馬の梅毒を、今もなお、研究している。

長年にわたって、彼がこの問題に関して集めた資料は小図書館となった。

(この問題は深刻なことが国の専門家に知られている)

とりわけ、Pautrizel と彼のチームはトリパノゾームがわずか 3 週間で、101 回も、何度も、変身することを発見した。

彼のトリパノゾームについての研究する以前の、1949 年には、薬 (特にヒスタミン) の両義的価値として知られている現象を発見した最初の研究者の 1 人だった。

ヒスタミンは、防衛機構の一部として有機体から排除されない隠れた物質である。

しかし、ある種の血液を循環させる細胞によって完全に内部に隠された存在になると、主に血管を拡張させることで、強烈な有害物質になる。

拡張した血管に水が浸透することで、浮腫となり、さらにこのことで死に至らしめる。

たとえば、ミツバチまたはハチに刺されると、過敏で、非常に影響される一部の人間にこのプロセスが、起こる。

Pautrizel は、ヒスタミンの有害な面の研究と発見に導かれた。

必要最低限の少量でも同じことが起こるが、これは有機体の防衛システムにとっては、とても重要である。

今日、彼は多数の研究領域で両義的価値の概念を強調しており、それを「明日の生物学の鍵と見ている。」

プリオリのドラマの舞台に彼を登場させる前に、Pautrizel の背景説明を終えるが、数年前に、フランスの医学エリートが参列した彼の公式歓迎会で、彼の優れた研究の証として、バスク地方の makila を与えられたことは、付け加えておくべきかもしれない。(木の杖に名誉ある言葉を彫り刻み、鉄の帯で束ねてある記念品)

杖には、鋭く掘られた銘があった：

「病を常に慰め、しばしばやわらげ、時に治す」

「Pautrizel 医学博士の同情あふれた性格の特徴を完全に現した、珍しい顕彰句が彫られてあった。

ロバート Courrier がボルドーに Colonge 夫人を送ったとき、彼女に出来る限りの援助を提供してほしいと Courrier が頼んだのは他でもない Pautrizel であった。

このように、Pautrizel はプリオリと彼の装置を認め導入した最初の人だった。

それで得られた結果を目撃した後に、彼は言った：

「対照動物が 3 週間で腫瘍で死ぬのを見て、私を仰天させられ、考えさせられ、疑問に導かれた。

私の、治療を受けた動物の腫瘍は文字通り溶けて消えていったと言えると同時に、この動物は、完全な健康体でパリのコレージュ・ド・フランスの **Courrier** の研究室へとつれていかれた。

「問題について彼が考えた結果、**Pautrizel** は機械の効果について、信じる方向に動いた、しかし、それは機能しているが、癌細胞を殺害するためには、まったく少しも作用を及ぼさず、これまででは不可解なメカニズムを通して、病気の有機体を励まし、彼ら自身で癌細胞を負かせる、新しい免疫学的な武器を提供した。

Pautrizel はこの問題の解明に光を投げ掛けるためには、ガンになった動物でなく、癌細胞の試験管培養の上で、実験することがシンプルな方法であると提案した。

彼はフランスとイギリスの両方の国の癌の研究者へこの提案をした。しかし実は、彼らはプリオリ装置自体が癌細胞を殺害する機能がなければならぬと確信していた。

彼ら研究者は、装置は癌細胞を直接殺害せず、体自体が癌を殺害するための何かをし、装置は直接的にその仕事をしないことが理解できなかった。

Pautrizel は英国人と一緒に研究したので、プリオリ光線をガン・マウスで実験したチームの結果は英国から送られてきた。

この短いレジュメのレポートではどんな事情が生じたか断言はできない。だが、信頼できる英国のガンの専門家の側の問題の理解不足と、悪意を黙認するパリの権威あるガン「上流階級」メンバーの側の間で、その実験は疑問視された。

機能しないと思われていた実験を成功したように見せるために、イングランドとボルドーの間の長い周の遊航海の間、たぶんマウスが取り換えられたのだらうと、いわれた。

これは、プリオリの装置が英国種のマウスに効果的であったことと、プリオリ光線が試験管内の癌細胞に対して影響があったかどうか、直ちに実験すべきだという **Pautrizel** の考えを、パリの会議が、支持し、ガン研究の名門であるチェスター・ビーティ研究所のチーフであるアレキサンダー**Haddow**卿も、同じように**Pautrizel**に同意して言ったために、やっかみでこのように言われた。

この **Haddow** の意見は、耳が傾けられなかった **Pautrizel** の推薦論文にもどって、研究し直そうという提案である。

プリオリと彼の機械の作用は、ガンに関する感情的な混乱と利害関係から生れる悪意で二重三重にとり囲まれていた。

Pautrizel は、トリパノソーマ症的病原体で生じる病気で試験することを提案した。すなわち、彼がとてもよく知っている領域で、完全に新しい試験をするよう示唆した。

しかしこれらを始める前に、研究に戻るには、今なお荒れて、すさんでいたプリオリを説得しなければならなかった。

理解ある人々には知られていたことだが、**Pautrizel** はイタリア人プリオリの発明した製品の可能性を本当に心配し、心を開いて協力し、ついに、研究に戻るよう発明家を説得した学者であった。これは、人との折衝で、機転をきかせることと、暖かい人間の同情という、

この世界では珍しい才能の組み合わせを持っていた **Pautrizels** だけが出来たことだった。一方、リヴィエア博士は以前に腫瘍 347 が治癒したネズミに、新しい腫瘍 347 の移植片を移植し続けた。

どれにおいても、腫瘍が成長しなかったのも、その結果は、もう 1 つの論争をつけ加えた。

この事実、機械の治療が動物の免疫学的な防衛システムに影響を及ぼしたという、**Pautrizel** の考えの正しさを確認させることになった。

しかし、リヴィエア博士が以前に腫瘍 347 が治癒したネズミに、**T-8** 腫瘍で同じ手順を試したとき、彼の動物は死んだ。

これは、リンパ芽球性リンパ腫 347 にかかった動物が、それで得た免疫は、そのリンパ芽球性リンパ腫 347 のタイプの腫瘍にだけ通用するものだったという結論に導いた。

Courrier の誠意ある診療所を通して、再びアカデミーに、この研究に関する論文が初めて送られたとき、不思議なことに、参加した研究者としてアントワン・プリオリの名前は省略されていた。

この侮辱的な行為はプリオリが単なる田舎者、または、更に悪いことに、単なる詐欺師と信じていた仲間の癌学者がやったことだった。

彼らは、リヴィエアにプリオリの名前が関連するどんな文書も公開しないよう警告した。この権威ある者達の不正とフェアプレー精神の欠如は、落胆と、鬱病の発作に、再びプリオリを送りこんだ。

この時、**Pautrizel** の同情と友好的な助言だけが、プリオリの、その微妙な屈折した思いからなんとか回復することを可能にした。



A. Priore - Pr Pautrizel

1966 年 7 月 25 日の、もう一つのアカデミーへの論文は、初めて項目を癌の研究でなく免疫学の項目で送られた。

それは、「トリパノソーマ属に感染しているマウスの免疫への電磁気の影響と磁気フィー

ルドの影響」であった。

結論を、読むと：

「この治療法は、生体がとても強い方向で寄生虫に侵略されたときでも、それから逃れることを可能にする免疫要因を特別強化する。」

このように、ガンの限られた分野から広大な免疫学の領域に、初めて研究範囲が動いた。そして、初めて、**Pautrizel** の名前が、権威あるプリオリ機械についての論文の著者として表示された。

そのように初めて、アカデミーの論文に表示されたので、もはやプリオリ機械で実験することに少しの問題もなかった。

しかしそれは、そうならなかった。

今もなおこの装置全体の評価を複雑にしているのは、プリオリ自身が自分の作った機械で直観的に別の設定で異なる種類の放射光を使用して生物実験をしたという事にある。

これらのプリオリ自身の詳細な設定方法は決して表に出てこない。

この点で、**Pautrizel** の忠実な仲間、若い女性の新しい研究者、**Pierette** ロイヤル・レーノー・デュブラが、この場面で登場する。

パリで研究する間に、彼女はプリオリ論争について学んだ。そして、ガン研究の上層の最高権威者の厳しいアドバイスを受けたが、彼女は **Pautrizel** にお目にかかって、詳しく研究するために、ボルドーに出かけた。

長年にわたってされた彼女の研究はこの本のためにはあまりに詳しすぎる。しかし、それは重要な結論を出した。

1 つはプリオリ光線がトリパノゾーム自体に対しては直接的な影響がなく、荒廃した生体の防衛機構を刺激し、補強したということであった。そして、治療が止められた後でさえこの効果は長く続き、問題がまるでなかったかのように永続的に、微生物の寄生の影響を拒絶するのを可能にした。

もう一つの結論はさらに重要で、一つは、英国の研究に関係していた。

それは、両方が同種のものでの移植、または同じ種の異なる 2 人の間でされる種族内移植、または、いわゆる同じ特徴がある組織適合性 **histocompatibility** の共通抗原をもつ、同じ遺伝子系統の異なる 2 人の間でされる移植でも、機械の効果が見られた。

結論は、プリオリ光線は、異型移植の拒絶反応を、速めたが、それだけでなくプリオリ光線によって、同じ種族内移植さえも、拒絶反応を強めたということであった。

要するに重要なことは、これは光線が生体の防衛機制だけでなく、その認識メカニズムも刺激し強めたことを意味した。

種族内移植の場合、これは非照射動物では認知されない弱い抗原への認識を可能にした。

他の表現で言うと最初生体の対空部隊は敵機を見ることができなかったのも、航空機は飛び出ることができなかった。

照射された、生体は敵機を敏感に見て確認することができるので、彼らは飛び出ることができた。

免疫学的な用語で言うと、光線は液性の免疫性と細胞の免疫性の両方に、特別の影響と、普通の影響とを与えた。

ここで、我々は装置の設定についての神秘に戻らなければならない。

彼に従って光線を活性化させ、それに似た光線と全く別のものとを組み合わせ、複合体として正しく設定して、新しく実験した結果は、全く異なるか、または正反対の効果が出た。

このように、光線の一般的な効果には疑問はなかったが — プリオリの個人的に作り上げた複雑な組み合わせのために、残念なことに、まだ解決されなければならず、説明されなければならない放射光の複合的な組み合わせの中身の問題が残った。それ以外にも、秘密にされた、どんな標的する人物も殺害できる一種の魔法の弾丸もあった。

このように、当初プリオリによって設計されたマシンは **PI** と呼ばれたが、それが **19-21** メートルの波長を出したとき、動物のガンと、一般的な病気ではないとしても、トリパノゾーマで病気にされた生体には、確かに、細胞防衛機制の上で、決定的な効果があった。

P-2 と呼ばれる 2 番目の機械は、これらの振動数を出すことが最初ではできなかった。2 番目の機械が出すものは、7 メートルの振動数で、一般的にトリパノゾーマ *equiperum* に対して効果的で、細胞以外にも、リンパなどの液性の防衛システムを活性化しようだった。

移植片の拒絶反応は、細胞防衛システムに依存するので、**Pautrizel** が **P-2** 機械を使用するとき現在の、微生物学で言うところの、**T e.** トリパノゾーマへのベクトル防衛機能に注目することで、効果の理由を部分的に説明できる。そして同時に神によって作られた、生体の液性の防衛システムに影響を与える。

従って、うまく達成された生体効果は、機械の放射とは異なる種類のものによっている。放射の性質によるという表現は正確ではないと言える。

あるところで、**Pautrizel** は実際に、マラリア原虫に感染した動物の実験をした。マラリアの媒介体が赤血球を攻撃する実験である — どうして治癒するか、または放射の正確な性質は必ずしもわかってないが、使用された設定は効果的だったと、見られる。さらに、プリオリには長年にわたって、人間の結核をうまく治療した症例があったが、どの振動数が、これを達成するか、明らかにされないよう彼自身秘密をまもっていた。動物にプリオリ光線を当てて成功した研究の多くの論文は、アカデミーに送られた。しかし、：どのように、機械が動いたか正確に知るという中心問題は存続した。この不明な点は、一般の科学者でなく、その問題を解決しようとしたフランス軍の研究部門によって疑問が示された

いずれも **Pautrizel** が 1968 年に財団に要請を送ったので軍サービスは、**DRME** で写真をと

った。(DRME の頭字語を翻訳すると「研究とテスト方法の管理」 as Administration for Research and Test Methods)

これは、現在のフランスの科学者としていずれもナンバーワンである三人の科学者の会議で問題にされたため、この調査の要請がされた。その三人の専門は1人が生物学、2人目は物理学、第3人目は医学であった。

後になって、このうちの2人はこの問題にお金が浪費されないよう勧める、好ましくならぬレポートを出して協力姿勢を一転させた。

しかし、生物学者は、とても好意的なレポートで反対を覆した、そして、彼は少数派だったという事実にもかかわらず、彼の意見は勝利した。

この生物学者は、なんと前に言った、あの反対していた学者のアンドレ・ルウォフで、このことは、この勝利と同じように、注目に値する、衝撃的で驚くべき事件となった。

このアンドレ・ルウォフは二年前に、プリアリ研究に断固として反対していた。

しかし、彼がペルオキシダーゼ（抗原性を解決する薬）を注射したマウスにプリアリ光線を当てて効果をみるという、秘密の実験をするため、最も信用していた同僚の一人を確認のため送ったあと、ルウォフは、完全に自身の意見を変える勇気を奮い起こした。

この確認はルウォフにプリアリ光線が免疫反応に重要な効果を生じさせるという信念をもたせた。

これらの成績は決して発表されなかった。彼らの結果に絶対に自信がもてるように実験を繰り返す前に、機械は果てしなく、何度となく故障し、苦しませた。

DRME の報告は、長く、詳細なものであったが、それ以後は軍の機密によって保護され公的には発表されなかった。

しかし、その集合版は、フランス生体電磁気学協会事務局長のハーバート Gossot によって1979年11月について発表された。表題は「プリアリ光線の科学的なバランスシート」であった。

その内容は以下の通りだった：

「軍によって担当させられた2人の物理学者は、プリアリ装置の磁場を起動した電磁放射線についての完全な分析をした。

彼らは、こうして、装置が放射した光の振動数のスペクトルを決めた。

彼らは、特に生体に到達する距離の可視光と赤外線振動数には効果がないことを確かめた。それは、X線またはY光線でもなかった；

パルス極超短波電磁波は、高周波の波に調整された。

彼らは、実験的な意味から、装置でいろいろな磁気と電磁気のフィールドの局所的な強さ

を精密に調査した。

特に、彼らは治療の面で使用する際の、極超短波の強さと密度の空間配分を精密に調査し決定した。その数値は非常に弱く、全体的には、ハイパー振動光線に分類された。

最終的に、最も重要なことは、彼らが学習したハイパー振動光線の分配と強さをを用いたものと、生体効果を得ることの間に、はっきりとした相関関係が見られたことであった。

彼らが観察したものはトリパノゾーマ病のマウスの、実験的なモデルで、ハイパー振動光線の強さと比例して寄生虫血症の進化速度の低下がみられた。

それを引用すると：

『実験での波の強さとの確かな相関関係は、興味深い：

今もなお、確認が必要だとしても、この装置の生物学的有効性は確認された。

"2人の物理学者 (Bottreau と Berteaus) は、更なる生物研究が進められるようにプリオリ装置を再び作ることに今もなお興味がある。

Pautrizel 教授が同時にした提案は、国がより多くの研究資金を出して、生物電磁気学のためにフランスの科学の管理組織で特別な研究所を建設することだった。

それはされなかった。そして、彼らのレポートは秘密にされた。

彼らの研究に関して科学アカデミーに出した論文には、彼らが働いていた研究所の名前を記入することは許されなかった：

場所の1つは、パリ近郊のベルヴェューの CNR 磁気研究所で、もう1つはボルドー近郊の Talence にある、ウルトラヘルツィアン光学研究所である。

なぜ隠すのか？

これらの研究所の責任者がプリオリ事件の泥を少しでもかぶることを望まなかったからである。

Pautrizel によってされた次の実験は、トリパノゾームによって睾丸がほとんど破壊されたウサギであった。

放射の後、ウサギは、同じように通常の睾丸の組織が現れ、再び生殖能力は回復して生殖能力はなくならなかった。

これは、一度完全に変質した器官の完全な再生を意味した。

それでも、ジャーナリストはさまよいながら、パリで最もよく、情報通と思われた高級官僚からプリオリ事件について今の状態についての情報を求めた。

たとえば、アメリカの科学的リポーターは、科学サタデー・レビューに1973年の状態について書いた。

「それは、本当に、科学とはほとんど無関係な不思議な軋轢についての疑問である。」彼は、15年間フランスの科学界で最高の管理ポストを握ってきたバーダー教授の本を引合いに出した。

バーダー教授はプリオリ研究の成果を支えるための必要な資金を、すべて差配してきた。

Graille の本が現れ暴露された時、バーダー教授はプリオリ事件に関係したことと、彼自身

の本当の思いを隠した著書を出した。

私がこの本を書いたバーダー教授の心の奥の動機を数人のフランス人に聞いたとき、彼らはバーダー教授のこの隠す理由を知らなかった。

次の数年間も、陰謀は続き、それは本当の渦になっていった。

裏面での陰謀、報道機関のゆがんだ説明、無気力な態度の事務官側の人達は、ますます厳しくなる難問を解決しなければならない義務を怠っていた。

この問題に深く関係するいろいろな権力を持つ人達に対する公然たる恐怖から、これら全ての人は、「首を危険にさらさないよう」、仕事を失わないように行動しており、毎日を「平常通り」続けるだけだった。

この状況を理解してもらうために、少数派の明敏なジャーナリストが評判が高い科学月刊誌、「科学と生命」に書いた観察を引用すると、：

「物理学者はプリオリレイの効果が非常に複雑なことを確信している。しかし、さらに分析するためには、最初に若干のことが明白にされなければならない。

1 つは、長年にわたって詐欺師だという誤解、侮辱と告発の多くの累積した壁に取り囲まれた男ムッシュプリオリは 1 人で戦ってきたことだ。

必要なことは、本当にスピーディーで効果的な、国家的努力が求められている。」

ついにパワフルなマシンの作成が決定されるまで、フランスの国家の意思決定過程は 2 年間にわたって逆にその道をふさいだ。この決定は、4 分の 1 の多数の科学者たちによって反対された。

ル・モンドがコメントするように：

「多数の科学者の不賛成にもかかわらずこれは決定された。

財政的に厳しいとき、人は特にそれがどのように使われるか注意を払うべきである。

だが、それは、必ずしも必要でない場合もある。

今新しいプリオリ機械の製造資金に約 350 万フランが与えられた。」(ほぼ 100 万ドル)、この記事が言及した反対する科学者達は、この決定に怒った。

彼らは事件に終止符を打つ唯一の方法は Pautrizel を排除することだと思った。

すでに彼の研究は成功しており、すべて正当な要求だったため、プリオリは、危険な競争者だった。彼の研究は、医療と科学、または国家的レベルの課題として、おそらく、世界で一番金額の多きい、スケールの大きなものの一つになるかもしれなかった。

Courrier 教授が 1979 年にノーベル委員会に Pautrizel についての長いレポートを送ることによってそれは世界に知られることになった。

手短に言うと、大きなパワフルなマシン (M-600) は造られた、しかし、その巨大な蛍光管は、ほとんど 1 週間機能した後に、爆発した。

1970 年代の急進するインフレにより、それを取り替えるには、もう一度 100 万ドルが必要だった。資金は、来なかった。

一方、Pautrizel は、今もなお機能している小型の機械で実験して、新しい事実を発見し

た。

たとえば、脾臓が外に取り出されたマウスに、T.le トリパノゾーマ *equiperum* を注射しても、生き残ることができた。

コレステロール分が高い食事を与えられたウサギでも脂質の数値が修正されたので、プリオリ光線は動脈硬化にも重要な治療効果があった。

この研究は、論文の形でアカデミー議事録に発表したけど、暖かく受理されることなく、一部のメンバーが Pautrizel の努力に反感を持っている心臓学会をいらいらさせただけだった。

特に毒性の強い天敵は、ボルドー医科大学のディーン Bricault 教授であった。

ほぼ 1980 年に、発表された治療成績は、科学的にばかげた数値で、これまで本当のことは報告されていないと彼自身の学生に告げていた。

しかしその学生達は、自分達だけで特別調査を行なった。

学生自身で、医学学部長が科学的に、ばかげた数値を出しているか判断した。

フランスの雑誌 L'Express、(フランスの知識人の少なくとも半数に読まれている)は、プリオリの研究の結果をスターリンの時代のロシアの悪名高いレイセンコ学説と比較するといった記事を掲載する悪辣さがあった。

傲慢に、L'Express は付け加えた：

「今日、プリオリの擁護者は、彼の機械がガンを治療するだけでなく、たぶん、マウスの免疫学的特性も変えたと説明する。これは、原子爆弾または月の征服よりずっと重要で、実際、すべての免疫学者、世界の遺伝学者が遺伝子の特性を変えることが可能な機械で、今世紀最大の発見だと断言する。

残念なことに、この装置の全ての歴史は、これまできちんと説明されなかったことばかりだ。論文は、プリオリ装置が特別に効果的だと視聴者に信じさせるためにフランケンシュタインを引用するように、選択された写真が示され、一方的にゆがんで、書かれていた。」

この有毒な雰囲気の中で、装置 M-600 を造る研究は、ゆっくりと進んだ。

この努力を貴重に感じる感受性は、誰も持たなかった

我々は、Graille の著作の一節をことば通りに正確に引用する：

"「プロトタイプ — M-600 — の建造と組立のためには、最高の電力と可変的な要素が必要で、そのため、多くの遅れと不確実性に満ちていた。

他方、これにはアントワン・プリオリのきらめく才能の特質の跡が残されている。

「発生装置から約 20 センチメートルのエリアに、1,240 ガウスを効果的にあてるところから始まり、技術的に、とても危険で、技術的賭けでもある 5000 ガウス発生させて 60 センチメートルのエリアにあてるところまで発展させた。

電気と、機械およびガラス職人の専門家は、未知の領域に突っ込んでいった。

頑固なプリオリは、先例なしに試行錯誤のなかから「細工」するよう、かれらに強制した。

彼らは、以前から利用可能な確かな技術的な注意事項を研究をせずに、ほとんど無計画に無数の構成部品を考え出し、改造しなければならなかった。

全ての部品が一緒に組み込まれて、初めて作動することが確認できるといった、初期段階だったので、部品の多くが不適切だった。そして、これらは修正されなければならず、取り替えるべきことが明かになった。

直径 60 センチメートルと高さ 6 メートルの蛍光管自体はパイレックス pyrex で作られ、それが内側に破裂したあと、二回交換されなければならなかった。

実際のところ、実質的に、すべてを再検討し、最適なものに作り変えなければならなかった。「すべて」とは、重さ 50 トンの発電機が動かすための多くの部品を意味している。

たとえば、磁場をつくるコイルは：

11 マイルの 5.5 トンの銅の導線。発電機の熱を放散させる、多数の冷却回路。

そして、その環境を、コントロールし調整し、光の設定を選択し、コントロールする命令回路は－6 トンの電気ケーブルで 15 マイル配線して遠く離れた場所から命令する。

「プリオリは、誰でも驚かした。

故障の後、再び続けておこる故障、事件の後に再び起こる事件、次に誰が何を行うべきか教えるのは、彼だけであった。

正確な方法と、正しい設定と、正しい部品を示せるのは彼だけであった。

彼は一人で機械を実質的に造っていた。そして、毎日、毎日エンジニアとして研究と努力の後、作ったものを結局、修正し修理した。いわばスケッチを描いて準備し試して、奉仕するだけだった。

プリオリがいけると感じたとき、機能し始めた。

機械が造られたあと：

「電気を発電させる全ての部分は、暫定的な基準で準備されたものだった。

作動している間、それはとてもうるさくて、近所全部を目覚めさせた。

機械が夜に使用されないように、実験回数はしたがって、減らさなければならなかった。

そして、突然、すべては停止した。

プリオリの装置を保護し、隔離させるファラデーゲージを建てるため、工事で至る所地面の中にセメント杭を打ち込み、そのショックで地面は裂けて、亀裂を生じた。

可能となった最高振動波数は何マイルか先の周辺の地元のラジオ局で放射されるラジオ放送と軍と、一般の航空機、を当惑させた。」

それでも機械の実験操作は 1 週間または 10 日間行われ、結果は恐るべきものがあつた。

まず最初、短い期間に約 280 匹という著しく数の多い動物で 40 回も実験をした。

その間に発見されたことは：光線で、治療した動物にとっても強い免疫力をもった。

免疫抑制剤によって、免疫力が低下した動物は注射された寄生虫の病気を解消することができなかったが、数日後に回復した。

したがって、1 つの結論は、光線で治療された人々でも、通常の免疫応答が低下している

者は極めて弱くなると言える。

プリオリ光線で治療されてもされなくても、免疫力のない生まれたばかりの動物は、死に至る寄生虫血症を著しく発展させた。死亡の時点で、寄生虫は、免疫力の防衛なしで生体に侵入されたことを見せていた。プリオリ光線は、中の寄生虫自体は直接叩かなかったことが、これで証明された。

しかし、微生物の影響を受けないようにする防衛システムの増強があった。

プリオリ光線によって彼らの免疫系が刺激されるにはまだ十分に成長していない、生まれたばかりの動物は彼らの寄生虫血症にやられた。

外部からの侵入の影響を受けないようにする防衛システムの刺激現象は、事実によって示された。

その動物には、全般的に外部からの侵入に対抗する力をもつ可溶性抗原が増大していた。

照射を受けた後は、対照のものより抗体の濃度はずっと上であった。

これらのことと、他のことを含めた結論は、1978年の Pautrizel と彼のチームによって科学アカデミーに論文として出された。

さらにその前の、ベルギーのアントワープでされた討論会で、同じチームは、

プリオリ光線による有機体の免疫防衛能力システムへの刺激は、アフリカ人のトリパノゾーマ病に効果を上げるのに、非常に重要であるという結論を提出した。

免疫機能促進剤としてよく知られている B.C.G. またはコリネバクテリウム肉腫 *granulosum*, が、同じように有機体の免疫防衛能力システムを刺激するが、プリオリ光線のように、治癒し、生命を延命させる効果や、トリパノゾーマ病の進行をすこしでも、止めるといった効果までは出せない。

これらの 3 つの科学的論文は、それを読んだ者がプリオリ研究と、実験の指導者レイモンド Pautrizel に、反対する衝動と、憎悪をむき出しにするよう刺激した以外は、癌の学者にはほとんど何も影響しなかった。

この癌の専門家は、ガンの生体に免疫刺激反応を刺激するために B.C.G. を集中的に、連続してワクチン接種をしてきたが、ほとんど効果のない治療法と知って 20 年間以上実践してきたなどという馬鹿げたことがありえるのか？

他の多数の医者は、多様な種類の化学療法、または生命を破壊するイオン化された放射線の古くからの信奉者であった。

または、最近では化学療法と放射線療法の 2 つを多様に組み合わせて適用するようになっている。

これらの医者はこの理由から、プリオリと Pautrizel を見て、単に異端の研究者という以上に、憎むべき者として、破壊されなければならなかった。

このキャンペーンの最初の攻撃の 1 つは、Pautrizel のために特に準備した装置-89 の研究資金要求を否定する書面であった。

調査のため多数の月日が経過したあと、Pautrizel はそれを知った

拒絶の本当の理由は、Pautrizel のプリオリの研究のためであった。

その次に Pautrizel は同じ研究装置の責任者としての指名がわずか 2 年間のみ延長されたことを知った。ところが通常、類似した装置の延長期間は 5 年間であった。

3 回目の侮辱は Pautrizel が彼の前の学生たちのいる部隊の中から、彼の魅力的な研究のアシスタントを担当する最高軍医を採用しようとしたときだった。採用しようとした者を誰かが、軍隊を辞めさせるようにした。

(Pautrizel は生涯ずっと密接にトリパノゾーマ病の問題と関連した熱帯医学に取り組んでいたが、この Pautrizel のアシスタントとなる予定の医者への資金要請は、説得力のある理由もなしに、続けて 4 回、拒否された。

彼はその間、無報酬で働くことを申し出、医者は気持的についにオーバーワークになり、医学経歴を断念して、アルコールにふけて田園地方へ退いた。

そして Pautrizel はもう一人の才能のある協力者のために有給のポストを得ようとした。

(その人は、彼と今もなお働いている)。

この新しい協力者がボルドーを離れた場合だけ、新しい仕事につけることができると、Pautrizel は、告げられた。

他にも多くの衝撃的な話を続けることができるが、我々は最後に Graille に結論を書いてもらおう：

「Pautrizel を孤立させるために出来る限りのことがされた。そして、彼を協力者から引き離れた。

あるいは、協力者のうち 1 人の経歴が危くされ、信用を落されるのを見た。」

最後の侮辱として Pautrizel は装置 89 の責任者だったが、それは書き換えられ交代した。新たな責任者は、限度を逸脱してゆく大胆さはなく、性能を改良しようとせず、単に装置を破壊してしまった。

Pautrizel だけでなく、ノーベル賞受賞者アンドレ・ルwoff 自身が背後から後押ししたプリオリの博士論文を、中傷し侮辱し、最後にボルドー大学の学長によって即座に拒否した。

この背後の不正についての詳細は、もはや言うべきことは何もない

それを書けば、本に 2 つの章を付け加えねばならず、読者の胸は引き裂かれるような思いにかられるはずだ。

次に何が生じたか？

1977 年の秋、ボルドーの外科医協会の大家の 1 人、ジョージ Dubourg 教授と Pautrizel の崇拜者の友人は、Pautrizel のところへ来て、ストレートに、単刀直入に言った：

医師の友としてあなたの到達した点には、まだもう一つやり残していることがある。

それは人間の癌患者を治療することだ。」

Pautrizel の役割はひたすら動物実験を続けることと信じていたので Pautrizel はためらった。



Priore bien entouré : entre
autres sommités :
Pr Joussaut - Dubien
futur Secrétaire d'Etat à la
Recherche

**Laboratoire Priore - seconde
version**

[haut de page](#)

そのための資金は、どこから来るのか？

そこで、彼の先生であるロバート **Courrier** のアドバイスを求めた。

Courrier は、ゴーサインを与えた。

プリオリの治療は、化学療法か放射線か両方によって免疫システムが、治療を受けつない
ほど、ひどく弱っている末期ガン患者に制限した。

少なくとも、それらの 1 人を、完全に治療した。他は、痛みなしで、しばしば、予測され
たより長く生きた。

Dubourg、**Pautrizel** と彼らの協力者は、結果を論文に書きあげて、公式通達として医療ア
カデミー・フランセーズに送った。

そのアカデミーの永久秘書から彼らが受け取った答えを、読むと：

「意見を聞いた専門家は、あなたの研究は我々メンバーの管区の中で大事件と考えられて
いる。それは多くの専門家のいる協会の中で、多くの人に発表することでその価値が理解
されるはずだ。

「**Pautrizel** は正式に答えた：

「我々の手紙の 4 人の署名者のうちの 2 人がアカデミーの会員なので、我々は、アカデミ
ーの意見とコメントによって得るものはない。

我々の論文を委員会は拒否するのか、適切と考えたのか、答えて欲しい？

軽率な要請をするつもりはないが、意見を聞いた専門家のメンバーの名前を知りたい。

他に類のない能力をもつ彼らからご指摘をいただくために、直接彼らと会うことを許して
くれないか？」

彼のこの書面は、4年間返答がないままだった。

レイモンド Pautrizel は、科学界にいる人として、常に注意し、研究以外は避けるようにし、多くのことに関わらないようにしてきた：しかし、この事件に関心がある、信頼できるジャーナリストが、幅広く読書界に、プリオリ事件の悲惨で嫌悪すべき面を可能な限り全て詳細に知らせた。このジャーナリストは、ジャン＝ミシェル Graille であった。4年間、Graille は調査し、彼の新聞である Sud-Ouest フランスに、3つの連続した長い記事に書き、最後に本にしたが、我々は、それを引用してきた。この本は、主にそれをまとめたものである。

Graille は 1980 年という早い時期に新聞に書いた。：

「プリオリ事件は、本質的に単純である。

それは、単純に言えば、権威ある医学界に対立する邪魔ものを無くすために起きた：

こうした理由で、アントワンプリオリによって発展した装置は重要でないものにされ、事件は終わっていったと思われる。

こうした対立意識がなければ、この装置は本当に明白な医学的収穫である。そして公式に認知されたならば、彼は研究に取りかかることも許されただろう。

このため研究は危険なジレンマに落ちいり、進展すればするほど再び無視され回避され、研究は抑えられた。

事件は長年、金融、医薬品業界、科学界といった権力を全て越えて、おそらく現在の責任ある決定を通して権力を統合し強めるという政治的課題に直接関係していたと思う。

これは 1980 年の Graille の結論であった。

4年後に出版された彼の本の結びの言葉で：

このように今後も永久に、プリオリ関係書類の公開は、最高水準の命令と決定に依存する。

最終的に、国家元首に、この決定責任は移る。元首は、それをするだろうか？」、アメリカ合衆国の大統領が、それをするのだろうか？

バードによって付け加えられた手紙：

現在アントワン・プリオリは、すでに死んでいる。

彼の機械は破壊された。

プリオリの装置は、何億人もの悲しい運命で無意味に死んでいった人間を守ることができたかもしれないことを考えると、官僚的な科学者の鉄のドグマと、電磁氣的医療装置に対する憎悪は、苦々しく、つらい。

ヒトラー、スターリンと毛沢東を合せても、これほど多くの大量殺人には関与していない。

トム・ビアーデン著

ガンと生物学の未解決の問題

電磁場と放射の影響

これはハンツヴィルのアラバマ大学、アラバマ科学学校の第 70 年次総会、での「電磁場と放射の長期的累積的生体影響のメカニズム」、という主に 1993 年 3 月 25 日の著者のプレゼンテーション、からとられた。

要約

従来の電磁気生体効果モデルは古典的電磁気学と同じように、両方とも仮定が間違っている。ここでは古典的電磁気学における大きな間違いを、示していこう。

すべての電磁気現象がフォース・フィールドでなく、ポテンシャル「潜在性」から生じるという量子力学の見方に到達する。

ホイッテカー/ジオルコフスキ (W/Z) 内部構造スカラー・ポテンシャルを使用すると、アラノハ・ボーム効果の量子ポテンシャルと隠されていた変数でおこる変形が解明できる。

(アラノハ=ボーム効果とは、電場、磁場が存在しない空間でも電子が電磁ポテンシャルの影響を受ける現象である。)

心、思考、長期記憶と深い細胞コントロールシステムのメカニズムのために意識主体が使用している内部物質として、一番有力な候補が、ホイッテカー/ジオルコフスキ (W/Z) 内部構造スカラー・ポテンシャル「潜在性」であることが理解される。

環境のマイナス要因とのフィードバック機構は、長期にわたる累積的な突然変異の原因となり、シェルドラックの形態形成場となる。それは種の量子ポテンシャル「潜在性」にも影響する。

新しい電磁気生体効果モデルを利用すると、電磁気で病気と細胞の死も、発生させたカザンチェフ Kaznacheyev 効果の実験も、説明出来る。

ガンのための新しい定義が得られる。そして、「がん」は長期の累積的なメカニズムで生じる。フランスのプリオリの示した実験動物の末期の腫瘍の治療メカニズムは厳密な科学的な手順で、説明できる。電磁気フィールドと放射光の生体効果の大きな累積的なメカニズムが、解明される。

自己ターゲッティング・メカニズムとは、「細胞が示す複雑な WZ 電磁気双波(スカラー波)のポンピング運動である。

非線形の位相共役ミラー物質(スカラー波)は病気の特異性細胞の、正確な電磁氣的な解毒剤となる。

これは安くて、速い、手術などのように患者を衰弱させない治療法と考えられ、大部分の恐ろしい病気、ガン、動脈硬化、エイズの治療を含めて、発展することが可能である。

このスカラー波を意識的に使ってはいなかったが、フランスのプリオリの研究室での、末期の腫瘍にかかっていた動物の不可解な注目に値する治癒例は、この新しいタイプの治療法の適用と考えられる。

基本的な電磁気生体効果理論の誤り

よく知られているように、生物への電磁気フィールドと放射能の影響の問題は実はちょっとした混乱状態である。

40 年以上の慎重な研究者による研究と実験でも、結果は矛盾している。そして再現するのが不可能と言えるほど、通常困難で、結果も同じではない。

再現を試みても、不規則で、しばしば矛盾した結果を与える。

例えば、研究者は最も単純な疑問に厳しく答えることができない。「送電線の電磁気放射がもしガンと白血病の発病率に影響するならば、どんな状況でなるのか?」、原因となるメカニズムは、長い期間、永続して研究が避けられている。

強力な既得権をもつ組織は、研究機関の多数に資金を供給している。

従って、多くの分野で論争が存在する。

古典的な電磁気学は、深刻な欠陥がある

よく知られているように、古典的電磁気学（電磁気）、一般相対性理論（GR）と量子力学（量子力学）の間にはひどい矛盾が存在する。

現在非常に困難な努力を重ねても、3つの理論は統一することができない。

特に電磁気現象の第一原因に関して、量子力学と電磁気学の基盤には、深刻な考え方の違いがある。

古典的電磁気学はフォース・フィールドを主因と考える。そして、潜在的ポテンシャルに注目するが、主に数学的にそれら进行处理している。

他方、量子力学では、以前からフォース・フィールドは、単に荷電粒子システムの影響で生じたとし、フォース・フィールドを主因とはしなかった。「1959 年以降」量子力学はフォース・フィールドの代わりに、潜在的ポテンシャルがすべての電磁気現象の主因である

とした。

潜在的ポテンシャルは干渉することができ、荷電粒子システムを生み、フォース・フィールドが完全に欠如した状態で、アラノフ=ボーム効果のような観察可能な電磁気現象を生じさせることができる。(アラノフ=ボーム効果とは、電場、磁場が存在しない空間でも電子が電磁ポテンシャルの影響を受ける現象である。)

(アラノフ=ボーム効果の最終的な確認実験結果を図 4 に示す。小さな棒磁石をぐるっと曲げてN極とS極をくっつけ、ドーナツ状の磁石を作る。磁場はドーナツの中をぐるぐる回って外部に出ない。さらに、磁場の漏れを完全に除くべく、ドーナツの周りを超伝導体で覆う。電子の波をドーナツの孔の中と外側に通し、波面がずれているかどうかを調べた結果、波長分だけずれており、アラノフ=ボーム効果が存在することが示された。かくして、この1枚の写真で、マックスウェル以来100年以上にもわたって議論を呼び、数奇な運命をたどってきたベクトル・ポテンシャルの存在が確定しよみがえった。

図 4 ABアラノフ=ボーム効果の検証実験

(a) 電子線の干渉縞 位相差 = 波長

(b) 模式図

(c) 走査型電子顕微鏡像

日立製作所「外村彰」の証明

この潜在的ポテンシャルに現在の、電磁気生体効果研究が困難に直面している原因が、ある。

さらに説明すると：

電磁気論は、J・マクスウェルによって当初4個一組で明確に述べられた。

4個一組の代数学には、現在の電磁気を表現するのに使う「ベクトルとテンソル」という数学の方法より高度な、「位相幾何学」があることに注目すべきである。

現在一般的な「マクスウェルの方程式」は、マクスウェル自身が考えたオリジナルなものは決して教えてこなかった。

今の精密な要求に、かなうものは、マクスウェルの考えた本来の方程式で1873年の本に含まれた4個一組の方程式である。この基本的な方程式は、ほとんど理解されていない。

現在の4つの「マクスウェルの方程式」は、主に、O・ヘビサイドの紹介したもので、もっと範囲の小さいものがギブズとヘルツのものである。

当時マクスウェルの1番親しい関係者は、ヘビサイドであった。(非常に才能があるが、大学にいかず、独学であった)

その時に、マクスウェルの著作は出版され、ヘビサイドは独学で微積分学と微分方程式を学んでいた。

本を見て、彼はショックを受けた。そして、マクスウェルは彼の不滅のヒーローになった。

胃癌の、マクスウェルは、その後ほどなく死んだ。

ヘビサイドは、その時代のほとんどすべての科学者のように、中世からの伝統でその潜在的ポテンシャルの力がすべての物質的な効果の原因だと思っていた。

その時代の人にとって潜在的ポテンシャルを理解するのは大変な問題点があった。「神秘的だ、理論から抹殺すべきである」とその時代の人たちは述べた、

今日我々は現代の場の量子論で、その潜在的ポテンシャルの力の効果を知っている。

実際、それは多数の仮想粒子のやりとりですべての力を発生させていることになっている。

ヘビサイドも、4個一組の論文を嫌った。

3つの方向のベクトルの構成要素とスカラー構成要素を組み合わせることは、ヘビサイドの視界からみると、「リンゴとオレンジを混ぜるようであった。」ヘビサイドはその操作方法を決して知らないが、主人マクスウェルはその問題点のために、4個一組数学を使用した。

理解困難なことを知って、ヘビサイドは4個一組のスカラー構成要素を切り捨てて、単純な数学にし、この「位相幾何学を切り捨てたベクトルの」新しいバージョンの公式を明確に述べた。

彼が知らずに彼方へ捨てたものは、ベクトル性の電磁気組織の中にある潜在的スカラーポテンシャルで、現象を内部決定論的な方法で理解可能にするすぐれた4個一組の理論の能力であった。

[ヘビサイドはスカラー構成要素をすてることで電磁気と重力の統一を放棄した。しかし、それはこの私の講演の範囲外のことである。] 小さな二階のアパートの孤独な隠遁者として、彼の死の数年後に、床下に隠されていた彼の長年の研究文書によると、ヘビサイドは重力理論に関する仕事では4個一組に戻っていた。

彼の数学的方法は「野蛮」だと思われたため、当時の学術雑誌は、ヘビサイドの論文の出版を受けつけなかった。

そこでヘビサイドは、今日のサイエンティ

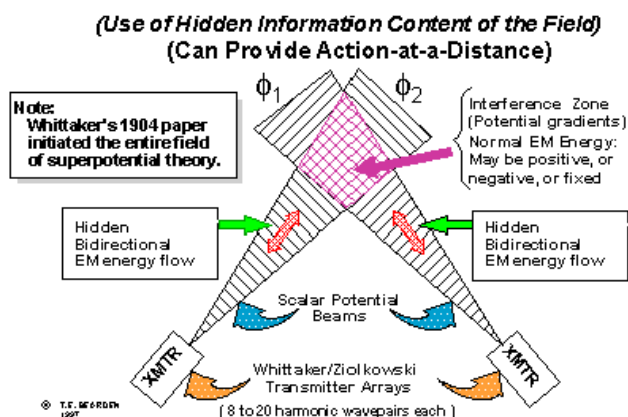


Figure 5. Scalar potential interferometry (between the two sets of bidirectional longitudinal EM wavepair functions) produces all EM force fields and waves.

フィックアメリカンにほぼ等しい科学雑誌で、非常に实际的な論文を発表し始めた。これらの实际的な文書は伝送線、トランス、その他の電信装置を設置する方法で論戦していた初期の自称「エンジニア」や、海中海底電線、その他の工事に非常に有用な数式を与えた。そして、ヘビサイドによって利用可能にされたベクトル数学はわかりやすく、適用するのがとても簡単だった。そして、彼の研究は著しく实际的であった。

従って、それは熱心に研究され、応用された。

その結果ヘビサイドの電磁気理論が一般的に使用されることになった

それは古典的電磁気学の標準になった。

なお、その時、世界で約 30 人ほどの少数の科学者だけが、ベクトルの見地と、4 個一組の見地の両面から、電磁気学を本当に「理解する」ことができた。

しかし、实际的な仕事は、4 個一組の公式によってはほとんどされなかった。

ベクトル主義者は 4 個一組電磁気論をすてて、単純なベクトル理論のヘビサイドとギブズを採用した。

これによってマクスウェルの実際作った理論から重要事項が削減されたことに注目すべきである。

言い換えると、実は電磁気の場合と回路は「現代の」電磁気論で示されているより多くのことが可能なのだが、「最新の」電磁気分析法ではそれが出来ない。

実際特許を受けたバレットのテスラ回路の往復振動する巡回回路の分析は、明らかに、これを示している。

また生体系で不可欠なコントロール機能は、電磁気のこの捨てられた 4 個一組の電磁気論を使用すると理解可能になるが、従来の理論と方法論では重要事項を見つけられず、「見てもいない」ことになる。

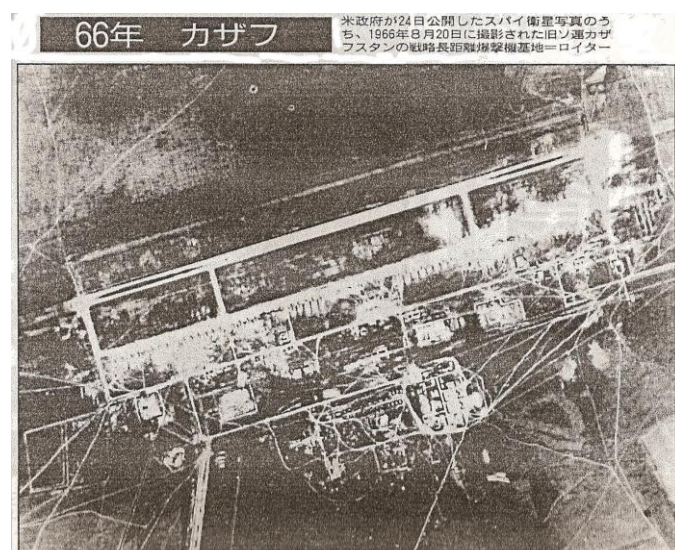
このように、これを捨て去った従来の電磁気生体効果理論による努力は、根底から壁にぶち当たったようになった。

現在の古典的電磁気学は、電磁気学の理解において不完全なものである。

それで、現在の電磁気論で生体系を誤って理解することで、我々に深刻なことが発生している。当初、本来の電磁気理論の一組はこれらのことを成し遂げ、利用できるように、作られていた。

現在の古典的電磁気学は、無意識に、最も深い生体系のコントロール機能のために利用している、正当に考えるべき種類の電磁気を除外している。

古典的電磁気学はまた、電子と重力の関係も除外している。



第二に、マクスウェルの理論は、実はエーテルのメカニカルな仮説に基づいて作られており、物質の力の主因を「真空」または「エーテル流体」に割り当てたことを意味していた。ヘビサイドはベクトル理論に転換し、スカラー部分を削減したことで、この「物質の主因としてのエーテル」と「真空のフォース・フィールド」仮説を無視した。しかし、1887年に、マイケルソン・モーリーの実験は、はっきりと、エーテルが質料であるという概念を破壊した。

もしエーテルが本当に薄い質料の流体ならば、力と電磁気・フォース・フィールドはその中に本当に存在するだろう。

しかしエーテルは質料でなく、その中にただ潜在的な力だけがあり、物質はそれに影響されるだけである。電場 **E-field**、磁場 **B-field** もエーテルには存在せず、非物質的な真空の中にエーテルは存在するだけで、そこには何もなく、そして、表面的には何も決してしない。

ファインマンは電磁気・フォース・フィールドの 3 つの物理的特性量において、ポテンシャルは真空だけに存在すると指摘した；

結局、真空の中に存在する唯一のものは、潜在的ポテンシャルである！

真空は、干渉し相殺しあっている大きな潜在的ポテンシャルの集積と潜在的なポテンシャル勾配だけがある。

我々が利用する探針という手段で見つける電場と、磁場は、厳密にいうと、電子気体の中だけに存在する。(干渉し相殺しあっている大きな潜在的ポテンシャルの集積量は計れない)

これは少数の基礎物理学者には良く知られていたが、電磁気理論のこの基礎的間違いをこれまで訂正してこなかった。

マクスウェルの 4 個一組電磁気方程式もヘビサイドのベクトル・電磁気方程式も、電子スピンの効果は含まれず、実際の「電子の薄い流体としての典型的な電気だけが含まれている。」それゆえ、どちらのモデルの電磁気方程式も、電子の流体の変化を表す方程式である。

厳密に言うと、真空の電磁気波はこのような横波でなく、縦波(媒体の希薄化と圧縮の交互の波)である。

我々は測定装置の伝導体で、自由電子ガスの電子前進波を見つけて、測定しているので、我々は横波を感知器で測定している。

しかし、テスラが指摘したように、真空には横波のヘルツ波はない；

その代わりに、真空の電磁気波は、縦に「移動する」波、

または媒体の希薄化と圧縮の交互の波がある。

現代の量子力学からみると、媒介物は何であるかわかっている：それは、仮想粒子の束である。

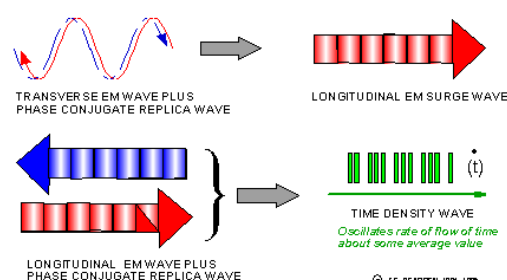


Figure 1. Transduction of EM wave types by successive phase conjugation.

今まで見てきたように、古典電磁気理論の真空の電磁気波の表現の中に深刻な誤りがある。

我々は、今はこれをさらに追いつけない；

古典的電磁気論には深刻な欠陥があり、基礎的な研究によってそれらの欠陥を訂正しグレードアップすべきであることが、2、3 の物理学者には良く知られている。（ただ大部分の電気技師と電気物理学者にはこの理解がない！）

1959 年以降量子力学で有名なように、潜在的ポテンシャルは現実ですべての電磁気現象を生じさせる。そして、フォース・フィールドがない場合でも、潜在的ポテンシャルは荷電粒子系の電磁気効果を妨害することができる。アラノハ・ボーム効果はその例である。そして、その他のいくつかの誘導効果が、論文で確立されている。

たとえマックスウェルのオリジナルのもの(ベクトルによるもの)が 1897 年にストーニーによる発見されて、1903 年にはホイットカーによって拡張されたとしても、潜在的ポテンシャルとして、組織化されている内部構造は量子力学でまだ無視されている。

スカラー・ポテンシャルのこの内部構造は、マクスウェルの 1873 年の 4 個一組の理論に暗黙のうちに存在し、4 個一組のスカラー構成要素のうち、肝要な部分は、2 つまたはそれ以上の相互作用である。

潜在的スカラー・ポテンシャルは、本質的に双方向性のペアーの波の組織である。

E.T.ホイットカーの深遠であるが、無視された 1903 年の文書の桁外れの結論は、スカラー電磁気ポテンシャルを双方向性の波のペアのハーモニーに分解した、1897 年のストーニーのオリジナルな仕事の拡張である。



Edmund Whittaker

E.T. ホイットカーは電磁波でこれをする方法の決定的な方法論を書いた一方向性波組織で電磁波を包みこむ方法である。

それは、外部からのフォース・フィールドのないスカラーポテンシャルの縦波の双方向性波組織がもたらす。

2 つのホイットカー文書は、(1 つは)「数学的な物理的特性の偏微分方程式」で、数学年報 *Mathematische Annalen*,

第 57 巻、1903、333-355 ページ；

そして、(2 つめは)「2 つのスカラー・ポテンシャル機能による電子の電磁場の発現に関して」*Proc. Lond. Math.* である

各々の波の一組は、相が一致している波の接合と複製から成る（つまり「反対の波」または「時間の向きが反対に入れ替えられた双子の波」のペアで成っている）。

このように、スカラー・ポテンシャルには、本質的に双波組織が豊かにある。

[さらに、単に必要な波動を複数集めることによって潜在的スカラー・ポテンシャルにすることができる。そして、利用する波動の組み合わせを変えることによって自由に潜在的ポテンシャルの内部構造を変えることができる。]、1904年に、ホイッテカーは恐るべき第2の文書を公開した。そして、電磁気理論全てが潜在的スカラーポテンシャル干渉計(隠された複数の波動干渉)に取り替えられることができることを示した。

言い換えると、現在の古典的電磁気学のフォース・フィールドで理解するより、スカラー・電磁気学はより広範囲に多くのことを根本から理解可能にする。

例えばSchroedingerシュレディンガーのポテンシャルの内部構造を変えることができ、不確定な量子力学の「隠れた変化しやすいもの」の中に決定論的な双波 biwave の構造組織を置くことができる。

それによって外部手段でこれらの「隠れた変化しやすいもの」、つまりシュレディンガーの潜在的ポテンシャルを「設計することができる」。

言い換えると、量子力学的変化そのものを、少なくとも限定されたものに操作できる。

この声明が実験的に調査できることに注意すべきである。

それは、今日、量子力学で最も大きな問題である、混沌状態をなくし、隠れた秩序を明らかにして、この問題を解決する：

1989年に、Ignatovich はアメリカの物理的特性の雑誌にシュレディンガーのポテンシャルと類似した内部双波組織を説明する論文を書いた、しかし、この深遠な意味は認識されたようではない。

我々が、これらの証明された電磁気学の数学的な拡張を使用するならば、研究室で行なうものだけでなく、アラノハ=ボーム効果によって示された現象の理解に沿って、潜在的な隠された変化を現在より高い位相幾何学の論理で、操作できる。

その後のジオルコフスキによるホイッテカー理論の拡張は、ハイパー空間コミュニケーションを可能にした。

1985年に、アリゾナ大学教授のジオルコフスキという名の才能ある電磁気科学者は、独立してホイッテカーのスカラー・ポテンシャルの内部双波倍音分解を再発見した。

彼はこの「内部構造」論を拡張した。それは、総合設定だけでなく回路などの作製過程の設定も含んだ。

ジオルコフスキのすばらしい仕事はスカラー・電磁気・ポテンシャルを内部に構築する際の設定方法で、作製された波は、転調を示し、直接的な情報コミュニケーション能力を可能にした。

Nobelian リーによって書かれた真空工学という観点から見ると、ジオルコフスキのこれは、4次元仮想状態の工学を達成しており、この内部経路の1つは、仮想空間の状態にある。

人がミンコフスキーの4次元空間のモデルを使用して考えるならば、ホイッテカー/ジオルコフスキの経路情報はサブ空間通信(4次元空間通信)として見るべきかもしれない。

また、 n が4を超える n -スペース Kaluza-クライン・モデルを利用するならば、ホイッテカー/ジオルコフスキ経路情報は超空間通信として見られるだろう。

すでに生体系は、身体内部で、この電磁気経路を使用している。

生体系は、内部の超空間通信コミュニケーションを使用している。

ドイツのポップ博士によっても、生体系でのホイッテカー/ジオルコフスキ (W/Z) メカニズムが正確に発見され、心、思考、長期記憶といったものを含めて、最も深い部分の機能と管理システムである、細胞調節コントロールシステム (MCCS= master cellular control system) がホイッテカー/ジオルコフスキ (W/Z) メカニズムを利用していることがわかった。

我々が、一番最初に述べたこと、つまり、心が体をコントロールするために、「最も深いところに基底的なソフトウェア」がある。その基本的なメカニズムと、直接それをプログラムする方法を、我々は現在、知っている

コミュニケーションは超光速に見える。

光の速度の制限はポテンシャルの「表面の勾配」だけに適用され、ホイッテカー/ジオルコフスキ (W/Z) 内部構造の双方向性波はその制限によらない。

理論的には、4次元または4次元以上であることで、内部波は、超空間か三次元部分空間に存在するかの2つに分かれる。

その4次元以上の点に、量子ポテンシャルも W/Z 内部構造ホイッテカー/ジオルコフスキも存在している。

そして、その組織は、外部手段で故意につくることができ、設計することができる。

遠隔作用が可能であるだけでなく、操作できる。

生体系と量子ポテンシャル

生きている人々の生体の意志の力、人の深い部分でのコントロールと心と思考は、量子ポテンシャルを利用している。この特別なスカラーポテンシャルは生体の原子核内部までの、すべての部分に関係する。これによって、生体系をさらに平明に定義できる。

生体系はこのスカラー・ポテンシャルとしてある、内部 W/Z ホイッテカー/ジオルコフスキーを利用し、その人のすべての原子（核）の質量まで関係する、生体の最も深いコントロールプロセスを構築している。

これが存在せず、活動していないシステムは、生きた生体系ではない。

このことを理解すると、どのように精神は物質的な反応を生じさせるかという長年の哲学の疑問は、氷解する。しかし、それは私のプレゼンテーションの範囲外である。

またウイルスがなぜ結晶として水溶液から凝結することができるか、そして、結晶は何十年も保存されるか説明出来る。

その水晶のような結晶が再度融解すると、個々のウイルスは分離してこれらは「生きている」状態になり、再び結晶化するために動き始める。

ウイルスが仮死状態となっても、彼らの身体的な物質を組織化する量子ポテンシャルが無傷ならば、同じように物質が存続していたかのように、保存されたホイッテカー/ジオルコフスキー (W/Z ホイッテカー/ジオルコフスキー) W/Z 組織の量子ポテンシャルは原子核から組織化する。

さらに体の中のすべての原子核レベルまでの、トポロジカルな深いレベルに、すべての種自体に関係するような、とても弱い量子ポテンシャルがあることが、わかる。

これは、シェルドレークの形態形成場と一致する。それは種の量子ポテンシャルともいえる。

ガンの新しい定義

ガンと白血病_そして本当にすべての病気の原因は、電磁氣的性質にある。そして、実は J・マクスウェルによって書かれた、電磁気学をより高い位相幾何学によって拡張した W/Z 面(スカラー波) (W/Z ホイッテカー/ジオルコフスキー) を利用するならば、それは直接的に治療されることができ、電磁気で治療することができる。

この声明は、実験的な証明に基づく。

それは、推測でない。

我々は、下記の証拠を議論する。

最初に個人の量子ポテンシャルの MCCS 支配システム(細胞調節コントロールシステム)の集中支配から離れた、脱細胞分化の段階は、細胞を破壊する。

これらの脱細胞分化した細胞は、独立した細胞または小さな独立した細胞グループになる。

血液細胞で起こるならば、彼らは腫瘍または白血病を構成する。

たとえ体の実際の配分サービス(栄養分、酸素、その他)が提供され続けるとしても、こ

れらはもはや個人の単一の量子ポテンシャルの体の MCCS 支配システム(細胞調節コントロールシステム)の管理下でない。

この点で、腫瘍はその体の環境で生きている独立した細胞生体である。宿主はその食糧と酸素を提供し続けるが、その宿主の免疫系細胞は攻撃し破壊すべき異邦人として変化した細胞を認知しない。

従って、「大きな生体」は腫瘍の成長を中心からコントロールすることができず、腫瘍細胞は分裂し、急速に増えてゆく。

生長の集中化した支配の喪失と、野放しになった結果で生じる細胞の区分と複製の損失は、ガンと白血病の大きな特徴として、科学者によって実際認知されてる。

中心コントロールを失って、癌細胞または個々の癌細胞のグループは、体の循環システムを通して逃げるかもしれず、体で他の場所に転移するかもしれない。

これは転移（体の他の部分へのガンの拡散）に終わる。そこで、彼らは免疫系細胞に戦うべきではない「身内」として認知され続け、引続き成長のために酸素と栄養分が供給され続ける。腫瘍は、寄生組織になる。

しかし、多細胞生物の各々の細胞は通常集中化した電磁管理システムの下にあり、生体のいずれの機能も、より高水準の個人の量子ポテンシャルによってコントロールされている。そのことで、生体は生きている。そして、生体は全体として高次の機能をもつ装置である。

細胞（または細胞のグループ）がこの集中化した電磁気・コントロールから分離するならば、今もなお生きて、機能していても、明らかに、細胞は全部の生体の MCCS 支配システム(細胞調節コントロールシステム)と個人の量子ポテンシャルのコントロール下にもはやない。

しかし、その本体から分離した細胞には今もなお、それ自身の管理システムとそれ自身の量子ポテンシャルがある。

分離した細胞は「大規模な中心コントロール」から離れたために「宿主から離れて集中化した細胞調節のレベルは独立し「代表したものとして」、新しい多細胞の寄生生物として 宿主本体が野放しの増加率で育てる腫瘍となる。

また、我々はこの問題の性質が電磁氣的であると論ずる、そして、それは電磁気で「直し固定することができる」。

累積的な前癌状態

このガンと白血病のための長期の累積的な原因となるメカニズムを理解することで、前癌状態がもっと良く理解されるようになった。

前癌状態は、細胞分化命令からの逸脱によって生まれ、隠れた電磁氣的状態の変化で、種の細胞進化の動きが低下し、生体の量子ポテンシャルの中に大きな状態の変化がゆっくり進行することである。

最終的な観察可能なガンは、実際に起きている、細胞分化命令からの逸脱(生体集中管理システムからの逸脱)である

局所的に量子の通過許容限界値が破られ(局所的にバランスが崩れ)、隠れ積み重なった電磁気的な細胞分化命令からの逸脱によって集中コントロールから離れ、細胞が無気性の状態の方へ戻る。



Becker's Profound Experiments

ベッカーの深遠な実験

ベッカーは、息をのむようなすばらしい研究によって、電流のピコ・アンペアが、局所化された細胞分化命令からの逸脱(ガンと白血病に向かう方向)と再分化(再生し治癒する方向)を十分生じさせることを繰り返し証明した。

ホイッテカー・スカラー干渉計の使用でピコ・アンペアを発生させることができ、累積的な応答信号のメカニズムで直接、生体集中管理システム (MCCS)と細胞に影響することができる。ベッカーのパイオニア的な研究に続き、スカラーポテンシャル/ポテンシャル干渉計の使用で細胞分化命令からの逸脱のメカニズムは、基本的にガンと白血病に関係すると仮定した。

最近この推測を強化するように、Hsue(Professor Hsue, Chen-Shiung)も実際直流電圧は、2つの双方向性電磁進行波と等しいことを示した。(1993年)それはベッカーの深遠な研究が直接ホイッテカー/ジオルコフスキ (W/Z) タイプを意味していることを示した。このように、ベッカーは直流の電極の間の電圧勾配の中に実際に隠れている、双方向性 WZ 波組織を利用し、血液細胞を脱細胞分化させることと、再分化をさせた。彼は決定的に、細胞分化命令からの逸脱(ガンと白血病に向かう方向)と再分化(再生し治癒する方向)の両方を示した。そして安定した内部双波電磁気組織は、持続的なスカラー電位勾配を生じさせ、実際遺伝子の変化を可能にする。

ベッカーは、これらで細胞遺伝子が種のダメージ状態から反転する方向に、変化することを自己目標とするよう誘導できることを示した。(次章にベッカーの業績の紹介記事がある。訳者注)

前癌状態と治療効果の予測

要約するとガンまたは白血病が検出されたときはいつでも、ガンが発生した場所に関係なく、前癌状態が残りの体の中に存在し、一般に免疫系も影響を受けている。

さらに、この前癌状態は、実際の腫瘍の発生より前の段階から存在している。

新しい電磁気生体効果の理論から見ると、従来の治療効果は効果があるのか、患者の残った生命の間に続けられる「治療」として最適なのか疑わせるものである。

累積的な癌への信号はゆっくり点火し、病気を生む量子許容限界値より十分下ではあるが、前癌状態は前から存続している。

そして、たとえ従来の切除のようなガンの治療によって、腫瘍を除去し、前癌状態の増加が遅くなるよう変化したとしても、正常化する前に死に発展してゆくかもしれない。

言い換えると、除去した場合、患者は、本来のガンの場所以外にもあった、前癌状態の累積的な病を生むマイナスの信号は、量子の許容限界値にはまだ届かず再発に至らない。

他方、前癌状態で病を生むマイナスの信号が蓄積し量子許容限界値に非常に近いならば、腫瘍の再発は非常にありそうである。

最初のケースでは、治癒は予測される。

第2のケースでは、治癒は難しい。

また、我々は多くの現在の治療自体（例えば放射線治療）が免疫系を更に悪化させ、その細胞にかなりのストレスを与えると指摘したい。

これらは、個人の量子ポテンシャルレベルに更に病を生む「マイナスとなる信号」を発生させ、生体の前癌状態のレベルに、結果的に癌の要因を増大させる。

治療の際、前癌状態との関係で、治療によっては、かえって前癌状態が増加することを考えると、量子ポテンシャルレベルで破綻が十分考えられるならば、その治療は患者にほとんど効果がないことが証明される。

更に治療したかどうかに関係なく、たまに大規模に腫瘍は転移し、腫瘍状の状態は繰り返される。

前癌状態が低下し、腫瘍細胞が、集中化した細胞調節コントロール下に戻り、免疫系機能も効果的に回復し、病気の細胞が除去されない限り、患者は死ぬ。

現在、絶望的に悪い「末期の」ガン状態の患者が回復させるため、従来の治療法ではこの3つの必要条件を達成できない。

完全なガン治療を求める

ガンと白血病といった、この恐ろしい病気に対抗する現在の医療の体制は、病気の新しい電磁氣的な定義と、累積的な原因となるメカニズムを出来るだけ理解させないようにしているように見える。

従って、原因が全く電磁気ならば、効果的治療は電磁氣的治療に求めることができるだけである。

電磁気の原因が拡張されたスカラー電磁気学の理論の範疇にあるので、効果的治療は拡張されたスカラー電磁気学の理論の範疇に求めることができるだけである。

ガンと白血病のための完全治癒は、患者の生体管理システム(MCCS/personal)の量子ポテ

ンシヤルにある累積的なホイッテカー/ジオルコフスキの病を生むマイナスの信号の効力を完全に消す、あるいは、「ゼロ設定」にすることで可能になる。

この蓄積が明白に身体の病気として出てくる前に、あるいは、その段階に届いた後も、その処置をすることができる。要は、解毒剤の信号を用いて、電磁氣的に治療することができる。

それは複数の時間反転した波と組み合わせた電磁気波動で、生命にとってマイナスの病をうむ反信号の蓄積信号それ自体を目標にするよう正確に数値を合わせて、行なわれる

これは科学的な事実である。そして、それはプリオリの例などで治療実績は厳密に証明された。しかし、方法論はこれまで技術的に説明されることができず、理解されることができなかった。

末期の腫瘍と他の病気のプリオリの治療

著名なフランスの科学者 [例えば科学のアカデミー・フランセーズの生物学部門の責任者ロバート Courrier、とその時代のアカデミーの秘書 Perpetuel]によって、厳密な科学的確認手順と監督の中で、フランスでアントワン・プリオリによって 1960 年代後期と 1970 年代初期に、生きている動物実験でトータルなガンの治癒方法が、繰り返し確認された。

プリオリタイプのアプローチの長所は、細胞の集中コントロールシステムから分離して脱細胞分化した細胞の影響を受けた（腫瘍）を、速くもとに戻すことであった。

単に腫瘍状の細胞は、生体管理システム MCCS/personal の量子ポテンシャルの集中コントロールのもとで、正常細胞へ再度復帰し再生した。

（腫瘍が成長したため、コントロールから抜け出た細胞があまりに多いならば、その再生化の前に、通常の体の機構は病んだ過剰な細胞を吸収して、処分する）。

さらに、その治療法は、体に残っているすべての前がん症状の状態を除去した。（再発と腫瘍の拡散を阻止する、）

それは唯一のガンの「完全なる治癒」である。そして、これまでに科学的に示されてきた前癌状態を含める。

そして、今までの治療法のように、手術が原因の体の外傷、または制癌剤によるひどい免疫系への外傷なしでこの結果を達成した。今までの治療法と正反対だった。

プリオリと働いていた、著名なフランスの科学者 Pautrizel はプリオリ治療が免疫系の機能を正常に回復させ、刺激することを示した。それは我々が提案している現在の理論で当然予測された。

科学者は、その時に、理解のために必要な知識がなかった

プリオリ装置の実際のメカニズムがプリオリ自身によく理解されていなかったことはひどく悲劇的である。だが、装置の試用に立ち会った非常に知識のある物理学者によって、機械のメカニズムは確認されている。1972 年にソビエト文献がオープンにされて発見されるまで、位相共役または「時間の向きが反転した」電磁気波は知られていなかった。

そのような波についての我々の知識のほぼ全てが、その日から得られた。

同じ年に、2 人のソビエト科学者は、光学位相共役に関してローレンス・リバモア国立研究所でアメリカの科学者に説明した。

その後、一部のアメリカの科学者は、光学位相共役に関して強烈に研究を始めた。

しかし、波動方程式の解としてある、時間の向きが反対の波は、電磁気波だけでなく、ありとあらゆる波に適用される。

例えば、音波の位相共役は、すぐに成立する。

Barus によって「時間の向きが反対の波」の解が科学論文として、紹介されたのは 1898 年だった。Barus はこの変な解が「時間の向きが後ろ向きの波」だと指摘した。1974-75 年に、フランスの国家によって、プリオリ計画の資金はほとんど撤回されたが、西側の世界には「時間の向きが反対の波」が存在することの理解がほとんどなかった。そして、もちろん、ホイッテカーの仕事は常に無視され、また、知られていなかった。

文字通り、その時にフランスの物理学者、生物学者と腫瘍学者には、プリオリ実験のメカニズムを理解するのに必要な技術的手段と、チャンスが全ったくなかった。



プリオリ治療の性質

手短に言うと、プリオリは巨大な蛍光管の回転プラズマで約 17 の振動数を調合した。我々は、今日、彼が使用したプラズマの機能が、相共役複製波を入力させたものであることを知っている。

このように、プリオリは知らずに彼の装置で連結波/反対向きの波動のペアの放出を可能にした。

プラズマ・チューブの出力は、かなりの強さの「(変調された) リップリング磁場」と連動していた。

その磁場は全身のあらゆる細胞への侵入を保証した。そして、それは調整されたホイッテカー/ジオルコフスキ内部ポテンシャル構造を生みだした。

核磁気共鳴を通した磁場の「波紋」は、原子核への侵入とそれに対する相互作用を確実に保証した。

プリオリまたは秘密にされた科学的なチームは、原子核レベルにまで関係している個人的量子ポテンシャルの内部 W/Z 組織へ働きかけた。

このように、プリオリは、W/Z 組織のカウンターシグナルを慎重に編成しアプローチしたすなわち、(1)プリオリは、特効薬としての電磁氣的解毒剤を造った。

(2)は、核磁気共鳴によって治療している体のすべての原子核に、その解毒剤をもたらした、

そして、

(3)相互作用を生じさせて、内部の W/Z 組織にある細胞分裂の命令からの逸脱信号、つまり病に向かう信号を無効化した。

また、治療している体のすべての原子核まで影響して、個人の量子ポテンシャルを、ゼロに戻すか、または腫瘍状のものと、体の中に存在している前腫瘍状態をキャンセルした。

結果は、

(1) 腫瘍細胞に蓄積された対立し逸脱させる病的信号は除去され、無酸素の細胞に戻した、

(2) 体自身にある腫瘍細胞の細胞調節機能は、回復し集中化した。

(3) そして、個人の量子ポテンシャルに蓄積された、全ての前癌状態を生み出すマイナスの対立信号と、対立する病的信号パターンは、除去された。

短く言うと、個人の量子ポテンシャルにガンを誘発する信号が長期にわたって蓄積していたが、個々の生体は「白紙の状態」にもう一度戻された。

正統的なフランスの腫瘍学者による凄まじい反応

プリオリの資料、装置、手順と結果のすべては、仲間に確認され、フランスの医学文献として、きちんと記録されている。

プリオリは、装置と、彼の治療プロセスについてフランスと米国の特許を取得した。

ロバート **Courrier** (科学アカデミー・フランセーズの生物学部分の責任者) は、プリオリチームの仰天するほどの結果を、個人的にアカデミーに報告した。

それは、正統的なフランスの腫瘍学主流派に、騒動と不潔な対立反応を生じさせた。

どのようなメカニズムが動いたか、誰も理解することができなかった。「科学には、ブラックボックスがあってはならない!」といった騒がしい大きな主張があり、プリオリの主張が再現され、科学的にも非の打ち所がない結果が増加していた時、このあまりに非現実的な反対意見は奇妙であった。アスピリンのような薬はその有効なメカニズムが理解される前から、何十年間も利用されてきた。

ワクチンのその他は明確なメカニズムがよく理解されていないとしても、疫学的な取り組みに基づいて統計学的に効果が示されれば許可されていた。

フランスの国家が 1970 年代中頃に左派政権に変わったとき、プリオリの仕事への執念深い敵意は優勢となり、新しい左派政権は更なる資金提供をすべて撤回した。

その後プリオリは死んだ。そして、それはその終結でもあった。

プリオリのすべての領域での治療アプローチは、実験動物で厳密に、科学的な方法の下で果たされ、基本的に 100%効果的であることが、科学的に証明されたことは、研究者に知られている。

それが医学界と生物学界によって無視され続けたことは深刻な悲劇である。しかし、関係者に周到な意図があるというより、多くの者がこの治療法の積極的なメカニズムについて不案内であったことにもある。

周到な隠蔽工作も、あった。

しかし周到な隠蔽工作が、あったとしても、それだけではなかった。

数年前、私はプリオリ装置を復元する努力において特別なグループとともに個人的に関係した。そのとき、プリオリはまだ生きていた。

我々のグループとプリオリグループとフランス政府とは、両方で、ともに仮の同意を得た。

プリオリの機械は、フランスのボルドーでプリオリ自身の管理の下で、作り直されることになっていた。

彼と働いた科学者の何人かは、今もなお継続して、プロジェクトに関係している。

我々のグループは、一部の裕福な後援者によってプロジェクトの資金供給のために約 1600 万ドルが約束されていた。

ほぼ我々のグループが仮契約の締結の同意に成功した直後に、我々の後援者の生命と彼らの家族の生命は脅された。

応援していたすべての人は、撤回した。

我々のグループのリーダーはナッシュビルのビジネスマンであるが、個人およびビジネスへの継続的な攻撃を受けた。

彼は、結局、彼の得たすべてをほとんど失って、彼の生命を守るためにこの国から逃げた。

彼は、今日まで今もなお隠れている。

アントワン・プリオリはそれからしばらくして死んだ。そして、その試みはそれで終わった。

結局このプロジェクトで唯一残った部分は、注目に値する成功したプリオリの治療方法と詳細なメカニズムを提供することだったが、それは私自身に課せられた厳しい義務であった。

ガンの原因を完全に説明し、プリオリグループが仰天するほどの科学的な成果を得た方法の有効なメカニズムを明らかにするという目標は、10 年間の厳しい努力の後、最終的に成功した。

私はアントワンプリオリと働いた有名な科学者によって得られ、証明された制癌作用の結果について、医学界に改めて理論的にも、実験的にも、確かな観察をするよう強く訴えたい。

私はまた、その再検討のために、新しい考え方、新しい理論と新しい実験的な装置が必要だと強く訴えたい。

私は新しい考え方に基づいて、必要とされる装置と測定装置の正確な性質を明らかにし

た。

エイズのような他の病気はどうか？

現在、他の病気（特にエイズ）についても治療出来るのかといった疑問が起こる。

拡張されたプリアリの方法論は、ガンと白血病以外の恐ろしい病気にも、等しく劇的な治療を提供することができるのだろうか？

おそらくエイズも治療することもできるのではないだろうか？

答えは、完全に「イエス」である！

我々が輪郭を描いた「拡張された電磁気生体効果理論」の意味から見ると、ほとんどすべての病気は、電磁氣的性質のものである。

病的な疾患状態に特別な治療力のある信号で対抗する基本的な方法は多くの他の疾患に、そして、エイズにも拡大することができる。

拡張された電磁氣的方法によって、細胞分裂の命令から逸脱した細胞への「自己ターゲティング」効果が引き起こされ、病気にかかった細胞に対抗する信号を与えることで、最終的に遺伝子を元に戻す。

HIV 感染細胞の場合、その遺伝的性質は、標準的な健康なものから感染した性質に変えられる（区別される）。

その内部 W/Z 組織に、結果として生じる最も強い信号複合体は、HIV 感染症を無害化する司令部となる。

その人の、スカラー・ポテンシャルにあわせて、内部双方向性 WZ 波構造のポンプでくむとき、

「非線形の位相共役ミラー物質としての細胞」は、正確にきっちりとエイズ細胞遺伝子から回復させる脱分化シグナルを生み出す。

細胞は、通常の遺伝的性質の正常細胞へ戻る。

このプリアリの仕事とベッカーの結果に加えて、エイズの拡張された電磁氣的反転についての我々の驚くべき発表の実験的な基盤は、ソビエトの研究者 Vlail Kaznacheyev.により数十年前の 1950 年代後期_という早い時期に、確認された。

カザンチェフ Kaznacheyev の実験の意味するところ

約 17,000 回の実験で、Kaznacheyev はどんな細

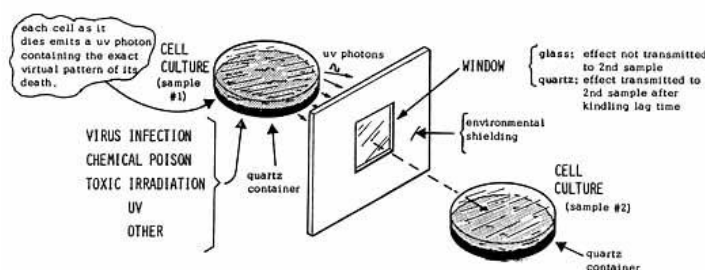


Figure 73. The Kaznacheyev effect. Thousands of experiments proved that (1) cellular disease is electromagnetic, and (2) it can be induced electromagnetically at a distance. Also called the cytopathogenic effect.

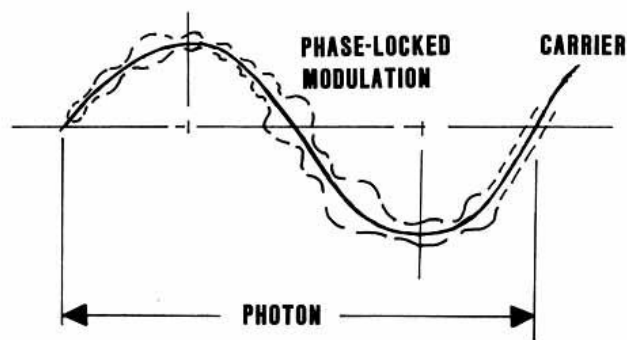


Figure 74. A photon is one oscillation of an electromagnetic carrier. It may have substructures that are modulations. Such a structure is called a "giant photon," or a "compound photon."

胞の病気または障害でも未知の方法で「電磁氣的に」培養基細胞にうつすことができることを示した。

グラビトン格子組織も含めて W/Z 組織の概念と理論を、少し拡張したならば、この理論は Kaznacheyev の結果と、メカニズム、その他を完全に説明することができる。

Kaznacheyev によって示された、疾患の電磁波による伝達は、細胞病原性ミラー効果として知られている。そして、オーストラリアのシドニー大学と、ドイツのマールブルク大学の研究者によって、そして、米国の少なくとも 1 人の研究者によって再現され繰り返された。

短くいうと、Kaznacheyev の研究はそれが存在することを示しはしたが、古典的電磁気学によっては、不可解な、いくつかの特別なパターンを出すと、その信号パターンを吸収した一群の細胞に、特異な細胞の病気を誘発するという不可解な性質がある。

我々が細胞の健全な状態を「コンディション A」とし、特別な病気にかかった状態は「コンディション B」と考えるならば、その時、特別の電磁波信号パターン C はコンディション A からコンディション B となるよう細胞が動く原因となる

すぐに続けて C の共役相として C の反信号があるとすれば、それは、C の時間を逆にしたもので、細胞が病気になっているコンディション B から、コンディション A へと変化させ、疾患を治療する。

時間を、反転させると「病気が」「治癒する

「Kaznacheyev の研究を続けると

(1) 、

各々の特別の細胞疾患の原因となる誘導的な要素として特別の信号パターンが、存在する

(2) そして、特別の「解毒剤」となる信号パターンが、存在する。

その特別の疾患の原因への治癒的な要素は、単に時間が反転しただけの波動、または解毒剤信号である、細胞病原性信号の相共役複製波動だけである

Kaznacheyev は決して公的には細胞病原性メカニズムを明らかにしていないが、そのようなメカニズムは電磁気を W/Z まで拡張することで明らかになる。そして私は、長期の原因となる病気-誘導メカニズムを理解可能にしている。

特定疾患においても、それに当てはまる「電磁氣的な解毒剤」をつくれる。

細胞の変化は（その遺伝的性質に含めて）、信号の連続的な連鎖、累積的な電磁氣的原因によると考えられる。

それらはタマネギの層のようになっており、外側の層が最も新しい。

「前方に流れる時間」の動き、または異常な細胞「分化」の動きは、タマネギの層に次々に付け加わる。我々は今、治療のためこの、タマネギの「皮をむこう」としている。それはまた相共役」、あるいは、「時間反転」作戦を成就させるための、連続的な動きである。

これはコントロールから抜け出た、異常な細胞分化の動きを連続的に戻してゆく結果とな

る。

「非線形の物質組織である細胞とその遺伝的性質の部分、位相共役ミラー物質で、治療する。

「双方向性電磁波によって細胞とその部分を位相共役ミラー（PPCM）のポンプでくみ、細胞を「ポンプで揚げて変えることができる」

正統的な非線形の位相共役光学素子論に立脚した、PPCM 位相共役ミラー信号波を、位相共役ミラー細胞に入力すると、正確に位相共役複製波（PCR）を放射する。

我々がポンプ状の双二重波の複合体を入力して、細胞のポンプを稼働させるならば、細胞は、複雑な信号波の入力に応じて、正確に位相共役波の複合体を放射する。

我々は病気にかかった細胞と、病気の源因を、電磁波を病原とした細胞の異常な分化として見ている。異常な分化の主因を個人の量子ポテンシャルの中に含まれている複雑な W/Z 波動の組み合わせにみる。

（すべての体の細胞の性質はその内部信号変化に関係している）。

PPCM 位相共役ミラーのポンプである細胞の病原である部分に、正確に拡大した「電磁的解毒剤」である位相共役複製波の複合体が放射される。

各々の部分は位相共役複製波の複雑な信号命令を受けると、その部分は最初の段階に、戻る。

患部組織は、通常の部分へもどる。

通常の部分は、通常の部分のままである。

病気にかかった細胞は、このように全く通常の、正常細胞へともどる。

PCR 位相共役複製波複合体は増幅されるので、異常なものから正常なものへ戻す。この正常なものへの脱細胞分化は本来の異常なものへの脱細胞分化より速くなければならない。

脱細胞細胞分化した HIV 感染細胞は、このように病的なものが「睡眠中」となる休止期間が拡張され、今もなお正常細胞へ、戻ることができる。（つまり HIV-を治癒してしまう）

病気を生むシグナルに対抗する自己ターゲッティングするシグナルは、自動的に「発展することができ」、体の病気にかかった細胞、特異な細胞の病気、または障害の状態ごとに、治癒のためのシグナルを発生させて治癒することができる。

隠れたスカラー・ポテンシャルの電磁気双方向性組織のポンプでくまれるとき、これは「細胞のPPCM 位相共役ミラー」の動きと連動して自動運動の段階になる。

実際には、プリアリは異なる病気状況のために特定の振動数混合物を調節して使用することが必要なことを理解した。

我々は、特定の病気の種類またはグループに、複雑で正確な PCR 位相共役複製波、つまりポンプ状の波の複合体が的確に到着するよう放射するために調整が必要だったと仮定する。

光生物学者がミトジェネティック放射線が細胞の光学的部分から放射されていると定期的に報告しているが、細胞で期待される効果は、非線形のハーモニックな、異なる振動数の、ハーモニックな共鳴現象で起きることは、よく知られている。

W/Z 組織は和声的音程と関係があることは基本的に重要である。測定される W/Z 組織の振動数のシステムはハーモニックに、または、下位のハーモニーに移すことができる。

例えばプリオリは、レーダーの振動数の低いギガヘルツで研究した。

単純化すれば、我々の振動数の複合体は複数のトーンから成る一種の「音楽的なコード」とみなしてもよいかもしれない。

高いスケール、あるいは、低いスケールであっても、同じ「コード」で演奏され、トーンの振動数と相互関係が保持されているならば、同じ曲として認知される。

プリオリの方法論の簡略化の可能性

我々が現在使われている古典的なベクトル/テンソル電磁気理論に背を向け 4 個一組またはクリフォード代数学のようなより高い位相幾何学電磁気理論にするならば、電磁気生体効果モデルは拡張され実験によって数式化されることができ、洗練することができる。

たとえば、バレットは非線形の位相共役光学素子効果が光学材料を使わずに普通の回路で得られることができることを示した。そのとき、それらの回路は 4 個一組のようなより高い位相幾何学電磁気と一致するよう機能設計されている。

このように、電磁気放出装置自体の回路は通常の光学材料または手順の使用で、電磁気波の時間反転を果たすように造ることができ、相を接合して、複製して、4 種の波を混ぜ、位相共役ミラー効果をポンピングする。

プリオリは巨大なガス入りのチューブでプラズマを利用し 17 の振動数を混ぜて、（その時代の科学者に知られていない）位相共役を達成した。

バレットの仕事は、必要な位相共役と拡大が全く通常の電磁回路で成就することがありえることを意味し、より高い位相幾何学代数学（例えば 4 個一組またはクリフォード代数学）で機能する回路がデザインされれば、よく理解されるし性能も向上する。

プリオリは、ガン以外の病気に対する治療法を示した。

異なる設定で眠り病に対する治療法をもたらした。例えば、動脈硬化はプリオリの治療によって、完全に回復した。

そのうえ、プリオリと働いていた Pautrizel は旺盛な回復を実証した。そして、動物の免疫系に機能して自然に治癒させた。

すでにカザンチェフ Kaznacheyev は、ウィルス性の病気が細胞培養で全く電磁気的方法で誘発することができることを証明した。

これが意味するものは、細胞遺伝子の変化も根本的な基礎的段階から電磁気によって誘発

できるということである。我々は、これを細胞分化として認識する。

しかし、拡張されたスカラー・電磁気によって、ベッカーとプリオリは治癒能力をもたせる脱細胞分化が電磁気で誘発されることもできることを示した。

エイズを含めてウイルス性で生じた病気を、病気にかかった（分化した）細胞にむけて、単に正常なものへ復帰する脱細胞分化信号を複雑に作ってあてることで、全く電磁気的手段で治療する。

病気のもつ、正しい病気を治癒する誘導信号のひな型（病の状態のものからの脱細胞分化）を決定するためには、病気を誘発する複合信号に相を共役させなければならない。そして、相をあわせた複製波を拡大しなければならない。

低い振動数の信号複合体で、相共役複製波の振動数の特性が刺激できるかもしれない。

それゆえに、生物学的な細胞病原性の、光学信号複合体を見つけだし、これらの PCR 位相共役複製波に対応する、低い振動数の（例えばミリ波ベルトの）正確な信号複合体の照射が治療に用いられるかもしれない。

結論として

また、我々は「音楽」からのアプローチをしなければならないことを強調する：

病気パターンまたは治癒的なパターンは特別な振動数とこれらと反対の波の複合体である。そして、音楽的なコードと類似している。

その同じコードは高いキーと低いキーでも出すことができる。そして、体には低い調の波動振動と正確なハーモニックな関係のものがある。「メロディー」とそのバックに流れる伴奏は同時に認知される。

個々の振動数は変わっても、これらの関係は変わらない。

すべての生化学、遺伝的性質といった細胞のもつ特性の効果は、内部スカラー・電磁気ポテンシャルの W/Z 組織の正しい操作で、その効果がコントロールできる。

我々は、生きている人々の生体がすでに、心、考えと長期の記憶のためのコントロールシステムを内部スカラー電磁気波を利用して構築していると述べた。（我々が強調した細胞調節システムと同様に）

初めて、心の「ソフトウェア」と身体の「ファームウェア」は、直接利用できるように見える。（これは科学の中にこれまで存在しなかった何かである）

私の研究で進められている理論は医学で、重要な価値あるものとして、使用されることが予想される。

絶望的な多くの疾患の治療法は、現在高い医療費がかかり、治療時間がかかり、しばしば苦しく、病人自身が、衰えてゆく。それに対して、より健全で、より効果的で、はるかにより安い治療を達成する。

我々は科学界の直接の関与と正しい資金のサポートで、ガン、白血病とエイズのような恐ろしい病気のための非常に低額の治療が、ほぼ全面的に急速に発展することができると強

く思っている。

我々は、またプリアリチームが研究室の動物で、直接動脈と他の血管の障害を除くことと同様に、眠り病を回復させたことを、指摘したい。

病気にかかった細胞に、人工的に体系化されたスカラー・電磁気ポテンシャルの内部 W/Z 双波組織によって、位相共役ミラー物質が「ポンプ輸送される」時、「自己ターゲッティング」の自動運動が起きることが特徴であることを、強調したい。

細胞の病原性病気-誘導信号複合体は、細胞と身体のすべての部分に存在する。

内部双波組織のポンピング・ポテンシャルの振動数が変化することによって（それゆえ細胞の・PPCM をポンピングして）そこに生まれる、特異な病気の細胞相共役複製波動複合体からすべての病気の細胞の部分がつくられる。

それゆえに、それ自身の特定の疾患状態に対して特定の電磁気的特効薬が存在することになる。

正しい PCR 共役波信号複合体がもたらされるまで、我々は人工的にポテンシャルの周波数を調節しなければならないだけである。

さらに、その PCR 共役波複合体は、ポンピングによって、生体で拡大される。

したがって、「治療時間」は非常に短縮でき、古典電磁気の細胞病原性の信号の複合体を積み重ねて出すために義務づけられた当初必要な時間は必要ではない。

今日、いろいろな恐ろしい病気は、人類を悩まし続けている。

100 万人の莫大な数の人は苦しみに耐えて死んでいる。そのとき、基本的にガン、白血病と他の病気を 100%の治療できる効果的、速い、安価な治療手段の始めは 20 年以上前に示された。

この新しい治療手段のための基本的なメカニズムの解説で、おそらく、科学界はこの将来性がある領域を発展させ、今日広範囲に存在する死亡と苦しみを軽減する力を書き換えるはずだ。

倉田大嗣博士のスカラー波(非線形電磁気学)の解説

Maxwell はファラデーのアイデアを数式化するとき4元数(Quaternion)を使って非線形の20個の方程式で表現しました。保存則なども含みますので厳密な意味で現在使われている Maxwell の方程式に対応する方程式の数は12個です。

さて、この Maxwell の方程式は難解で厳密に適用しようとすると数値計算が必要です。100年以上前では使える代物ではありませんでした。現在の線形の方程式に改ざんしたのは Heaviside ヘビーサイドです。

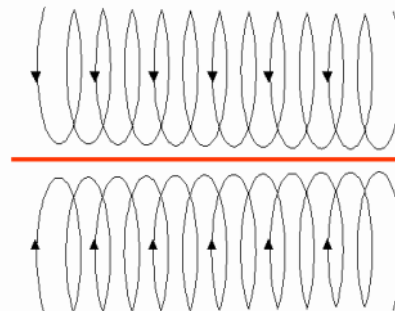


普通の学者や技術者が使えるようなものにしたいとの思いと、スカラーポテンシャルとベクトルポテンシャルの混在する方程式が心底嫌いだったためのようです。幸いか不幸かフォトンの質量が観測にかからないほど小さかったため、線形の方程式が100年以上まかり通ってきました。

ここへ来て電磁気の非線形性がなければ説明できない現象が現れてきました。ついに本来の Maxwell 方程式の再登場が必要になりました。

光の干渉から特異なスピン磁気生まれる

右回り円偏向の光(電磁波)



静磁場(B3磁場)
(スピン量子担体)

左回り円偏向の光(電磁波)

実験物理の世界で Inverse

Faraday Effect が確認されています。光磁気効果のことで、円偏向した光(電磁波)からその進行方向に時間的に変動しない磁場すなわち静磁場が得られる現象です。永久磁石や通電されたコイルに依拠しないで非常に強力な静磁場が作れることで、ハーバード大学では間接的に MRI にこの現象を利用する実験を進めています。

これを理論的に説明するために、Myron W Evans は一般ゲージ理論を使って最低限の非線形化を行ないました。現在の Maxwell-Heaviside 方程式の $U(1)$ ゲージを $O(3)$ ゲージに拡張することで、右回りの円偏向電磁波と左回りの円偏向電磁波が干渉した時に電磁波の進行方向に静磁場 B3 フィールドができることを理論的に示しました。右回りの円偏向磁場を B(1)、左回りの円偏向を B(2)で示し、進行方向の縦波の磁場を B(3)で示したので、この磁場のことを B3 フィールドと呼んでいます。あるいは、最初の $O(3)$ 電磁気学の本の共著者である Jean-Pierre Vigiér に因んで Evans-Vigier Field と呼ばれることもあります。

B3 フィールドが Inverse Faraday Effect であることは次のように考えられます。

レーザ光で円偏波をつくるには、水平偏波をある種の物質に当ててつくります。このとき、大部分はある回転方向の円偏波になりますが残りの部分は逆回転の円偏波になります。これは電気技術者だったらご存知のとおり

正相電流に対する逆相電流の關係に当ります。すなわち、実験的に得られる円偏波の中には大部分の正相と少量の逆相があり、正相と逆相間で干渉を起こしていることになります。これによって静磁場 B3 フィールドが現れるわけです。O(3)電磁気学によれば、光子は電荷を持たない量子磁気 (photomagneton) であることが分かります。通常の光は photomagneton がランダムな方向を持つため光磁気効果が顕現しません。しかし、左右両回転の円偏光が互いに干渉すると光の持つ量子磁気がマクロに顕になります。

Myron W Evans はまた B3 フィールドの時間変化は電場を生じないこと、B3 フィールドが量子力学におけるスピン量子担体であることなどに加え、O(3)電磁気学がベクトルポテンシャルを物理量とすることから、電磁気の位相情報が扱えることとなり、古典論の範囲で AB アラノハ=ボーム効果や光ジャイロの基本原理解であるサーニャック効果などが正確に算出できることを示しています。

また、スピン量子担体であれば、化学結合を始めとするあらゆるレベルの物質の結合を B3 磁場をコントロールすることで間接的にコントロールできることになります。この意味で B3 磁場をスピン磁気と呼べるでしょう。

さらに、Myron W Evans は O(3)電磁気学が空間の回転に関連することから、アインシュタインがやり残した一般相対性理論の電磁気部分であることを理論的な手法を使って示唆しています。

確かに、アインシュタインの一般相対性理論はリーマン幾何学で4次元時空を表す時に用いるひずみテンソルのうちの対称成分の10個のみを使っています。反対称成分の6個は使われていません。O(3)電磁気学はこの反対称成分6個に相当します。

対称部分はひずみテンソルに例えれば、垂直ひずみを表します。反対称部分は剪断ひずみを表します。また、流体に例えれば、対称部分は平行な流れであり、反対称部分は渦です。

対称部分+反対称部分=非対称であり、物理空間の非対称性が導き出されます。

Myron W Evans は一歩進んでこの電磁気学を含む統一場理論としての拡張された一般相対性理論に基づく統一場理論と統一場波動理論を完成しました。その結果、統一場理論および統一場波動理論は Tetrad あるいは Vierbein と呼ばれる形式の4×4の行列によって表現できることが分かりました。またこれら方程式からニュートン Newton の4つの方程式や量子力学的な方程式であるシュレディンガー-Schroedinger 方程式、クライン-ゴードン Klein-Gordon 方程式、Dirac ディラック方程式、Gell-Mann ゲル-マン方程式などが時空の4つの座標のみを使って導出されることが分かりました。さらに、波動物理学における位相の問題をアラノ-フボーム Aharonov-Bohm 効果や Sagnac 効果を例にとりて検討し、その物理的な意味を明らかにしました。また、エバンス Evans 自身は Vielbein 形式からマトリックス力学が因果的に導かれることを検討し、ハイゼンベルグの非因果的で主観的な不確定性理論は因果律に基づく別の制限に取って代わられることを示しました。

もっともこのような拡張された一般相対性理論は 1986 年に米国の物理学者メンデルサックス Mendel Sachs によっても完成されています。Sachs の一般相対性理論は慣性の法則に従いこの世のあらゆる力を考慮して理論

を構成している統一場理論でもあります。その証拠に、非線形・非対称の波動理論である拡張された相対性理論を線形化することで線形の波動力学を導き出しています。

残念ながら、量子力学全盛のこの時代に量子力学が一般相対性理論から導出されるなどと言っても、少数意見として省みられることはありませんでした。

しかし、電磁気の非線形性が実験的にも証明されたとなると O(3)電磁気学と拡張された一般相対性理論がにわかに脚光を浴びることになります。

O(3)電磁気学の展開に関しては米国エネルギー省 (DOE=Department of Energy) がバックアップしていましたが、2003.12.30 にサイトが削除されました。

倉田は1958年にアインシュタインの一般相対性理論に磁場すなわちスピンの欠けていることを発見した。また、物理理論は磁気現象で説明できるとの考えを長年検討していた。それらを追及するうちに、一般共変な統一場理論に到達した。また、B(3)磁場がこの統一場理論に基づく種々の予測を実現するための手段であると気付いて B(3)磁場の波動と物質の共鳴関係を20年以上にわたり実験研究してきた。

その結果分かったことは、物質は物理空間も含め全て磁性体でできているということであった。これはサックスのすべてはフェルミ粒子でできているとの解釈に通じている。

B(3)磁場波動は一瞥するとただの磁場波動であるが、電場を誘導しないので電磁シールドされることがなく、物質の奥深く影響を及ぼすことができることと B(3)磁場がスピン量子担体であることが重要である。B(3)磁場の任意の波動を作れば、あらゆる物理現象をコントロールすることができる可能性があり、いくつかのことに関しては倉田が実験確認している。

倉田 具体的にいえば、水素と酸素にはそれぞれ原子波動があって、幾つかの分子が集まると共鳴して物性波を出すから、それで水の振動数を確定するのです。振動数というか共鳴数を見つけた上で、ある種のイオン係数を充てて共鳴させ、シンフォニーを生むような形に工夫したら、簡単に水が水素と酸素に分離するのです。

電磁共鳴と原子転換の秘密

倉田 生命現象をモデルに使えば分かり易いが、小さなエネルギーを効果的に使うことによって、スピン量子の運動で磁気共鳴が起こり、それが大きなエネルギーに変わっていくのに、そのことを忘れ果てているのです。しかも、大きなエネルギーの領域は計量化し易いので、熱力学のやり方で理解しようと考えて、大きな単位での変化として捉えるために、線形的な考え方で終わってしまう。そこで技術ではなく科学の原点に立ち戻り、物質の陽子や中性子の問題を突き詰めたことで、原子転換の問題に結びついたのです。

藤原 原子転換と言えばケルブランの仕事が有名で、生体内でナトリウムがカリウムやマグネシウムに、カリウムがカルシウムに変わる反応を見つけて、原子転換が現代の錬金術だと示しました。

倉田 そうです。また、中性子の仕組みについて知ることで、常温常圧でも核融合が起きることが分かるし、それが原子転換であることからしても、**生体内では当たり前**に起きている現象です。素粒子(クォーク)も磁性 NS の問題にと組み換えて、スピン磁気の励起に焦点を当てるなら、波動性が物質の核心にあることが分かります。また、水の結合電子の固有振動数に合わせて、**磁気共鳴させるよう**に条件を整えれば、結合電子が弱いエネルギーで軌道から弾き出され、分解とイオン化で大きなエネルギーが生じます。物質は総ての面において磁性体ですから、20 年前までは理論の組み立てをやって、私はニュートリノに質量があると論じたりしたので、理解されないで徹底的に叩かれました。

古代の叡知と錬金術のメタファー

藤原 それではズバリ言ってしまう。電磁場と触媒の組み合わせで水を燃やすのは、倉田さんのノウハウの核心であるし、触媒に秘密を解く鍵があると思うのです。

そこで、触媒はセラミック化しているのかという点や、どんな鉱物組成で成り立っているかについて、差し障りが無い範囲で教えて下さい。

倉田 そういうことなら分かりました。11 種類の元素を組み合わせ熔融と融合をし、**多孔質に作ったセラミック触媒**ですが、水の中に入れると猛反応を起して、水素の泡が続々と湧き出すのです。物質の基に中性子や陽子とかクォークを始め、ニュートリノなど色いろいろありますが、四つの基元素から総ての元素が成り立ち、原子転換によってウランまで行くわけで、**変化の原動力は NS の磁性共鳴**にあります。

これから先は企業秘密になってしまいます。

藤原 四つの基元素という考えは四大と同じで、ギリシアのエンペドクレスが唱えた四元素説を思い出すが、それは錬金術の発想とも共通ですね。

倉田 錬金術師たちは水銀や硫黄を考えたが、私は四つの基元素が総ての根幹であるから、金の基になるのは塩素だと考えます。そして、四つの基元素の表と裏の組み合わせによって、原子転換で 146 まで行くと考えるので、新しい元素が未だ見つかるはず。そう考えて機械屋と違う装置を作ったら、**液体を気体に変えるエネルギーが激減して、熱解離で水が燃えた**という次第です。

倉田 バルザックといえば「人間喜劇」ですね。そうそう、フランスといえばルルドの泉の水があって、この聖水の性質について調べたら、活性水素が普通の水に比べ 60 倍もあり、それが聖水の秘密だと分かりました。私が作った触媒を水の中に入れることで、活性水素が続々と出るだけでなく、ルルドの聖水に良く似た性質になるのです。

触媒と電磁共鳴作用を働かせたことで、水素と酸素に分かれて水が燃えた以上は、この組み合わせが秘密の鍵だと思います。

藤原 私も去年ルルドに行って水を汲んで来たが、あの水はピレネー山脈を構成するジュラ紀の石灰岩で、Ca が Mg に変質してドロマイト化した、自然の手による錬金術が生んだ産物であり、地球が原子転換で実現した大傑作で

す。

倉田 それにしても自然の営みは偉大ですね。人間が全力を上げてやっとたどり着いた新境地が、大自然の中には既に存在しているのに、われわれは技術の威力を不当に過信している。また、人間は文明の発展に自惚れていて、万物の霊長だと地球を汚染して恥じないが、所詮は釈尊の掌中の孫悟空と同じです。

ベッカーによる電磁気医療の奇跡

我々の、政府がなかったとしたら 15-20 年前に再生技術が得られていた！

ベッカー博士がやって来るまで、誰も、サンショウウオがどのようにその四肢を再生させるかわからなかったと、ラス・ハービーが叫んだ。代替医療の個人的な研究者の、彼女は最初にウィリアム F. コッホ博士の物語を私にした。

第 3 章でラスは、世界に名高い整形外科の外科医で電磁気医療で開拓者的な科学者のロバート・O・ベッカー博士に言及した。彼は何が生物を生かしているかわかっていた。

1958 年から 1980 年まで、ベッカー博士は、シラキュース、NY 復員軍人庁 (VA) 病院の整形外科の研究部門のチーフであった。

それらの年月の間に、彼は 150 の論文を医学専門誌に発表し、二回ノーベル賞候補者として指名された。

残念なことに、彼の電磁気医療に関する研究は、政治的圧力をかけられ、妨害された。

彼の資金のほぼ全ては、復員軍人援護局から来た。

ベッカーの電磁場 (EM) への無制限の露出の危険に対する警告についての国防総省の苛立ちのため、1980 年に、全ての研究資金はカットされた。

ワシントンの友人は、彼の VA の資金提供への反対が国防総省から来ており彼らの仲間はこの人をどのように黙らせるかと言っていたと？と彼に話した。

しかし、彼の資金がカットされても、ボブ・ベッカーはやめなかった。

アジロンダック山脈の山麓の丘へ引退して、彼は (1985 年) そして、「クロスカレント」 (1990 年) を書いた。

最初の本は「ボディエレクトロニクス」、彼の電子医学発見について非常に魅力的な説明である。

最初それらの全ては、医学専門誌に専門的な言葉で発表された。

しかし、「ボディエレクトロニクス」では、ベッカーは作家ゲイリー・セルダンに援助されて、素人の言語でそれらを書いた。

「クロスカレント」の中で、ベッカーは電磁気医療の素晴らしい効果を、電磁気的な汚染の危険—電磁 (EM) 場への不注意で無差別の露出の潜在的危険性と対比している。

19 世紀後期に、シアーズとローバックは、関節炎の痛みの緩和のための電氣的なコルセツ

トを彼らのカタログに載せた。

それらが、作用しないで、何も起こらなくてもよく売れた。

多くの医者は、1 つのまたは、それ以外のもう一つのタイプの電気治療器を使ったが、これらが機能する理由の根底にある理論はなかった。

生化学の場合は、他方、新しい発見を絶えず生み出していた。

20 世紀の始まりには、人体が化学創造物であり、生命が多数の化学反応であり、現代医療は、化学的な性質を持つ製品でなければならないという感覚が発達していた。（ボディエレクトロニクス）

この理解によっていくつかの優れた、いくつかの危険な化学薬の取引によって、製薬会社のたいへんな基金が用意された。

治療の基礎として化学製品が容認され、こうしたことに対する反応は、典型的に染みついたようになった。

私が、ライフ装置を、説明すると相手は薬以外のものが医薬品になれるとは決して心に浮かびませんでしたと、私の話に口を挟んだ。

医薬品の化学性質が当然のことと思うこの認識は 1910 年のフレクスナー報告によって用意された。

1910 年に、ロックフェラーによってこうした研究が委任された。

そして、現在までカーネギー基金が医者に用意された。

研究方針を定める、ディレクターは（A・フレクスナー）であった。

電子医薬品のための定まった科学的方式は、そこにはなく、その時以来徐々に、消えていった。

1930 年には、モリス・フィッシュバイン博士は、彼の JAMA 全米医療連盟ジャーナルの社説で電磁気治療器のインチキ療法について警告した。

電気的なコルセットは、シアーズ・カタログから消えた。

それは電子医学研究の最初の波の終結であった。

1940 年に受け入れられた科学的なパラダイムは、生きている人体の場への電磁気の流れまたは場の効果を、たとえば電気毛布の熱効果または電気椅子の電氣的刺激といったものに制限させた。

それが、ロバート・ベッカー博士がやって来るまで、人が立っていた見方であった。

彼は、生体電磁気学として知られる研究領域の創始者と考えられる。

彼は、生きている人体の非常にごくわずかな電流と非常に低い強さの電磁界の根深い生物学的効果を示した。

電子的治療器の復活が認められ、そして、医学研究で尊重される分野になったことは、主に彼の仕事による。

さらに大学において、ロバート・ベッカーは、失われた四肢を再生させるサンショウウオの能力に魅了された。

整形外科の外科医として、彼は完全な切断手術を行っており、人間でこの偉業を繰り返す方法を発見することを夢見ていた。

人間または動物の怪我、そして傷、さらに茎または枝が除去された植物で電流が、存在することは長く知られていた。

従来の見方は、この流れが単に最後の細胞から漏れているイオン（帯電した分子）であったということで、そして、電流は結局先細りになって、消えるということであった。

ベッカーはこれを信じず、動物の怪我においてそれらの電流が再生の妙技ができるかどうかに関連すると思っていた。

奇妙なことに、誰もこれまでにこの電流がどれほど長く続くか測りさえしなかった。

1958年の彼の最初の研究プロジェクトでベッカーは、それを行うつもりでした。

彼は、再生されたサンショウウオで、そして、そうならないカエルでその測定値をとり、四肢を再生させるのと、非再生の電流を比較した。

その時、ベッカーはシラキューズの VA 病院の、整形外科の手術を担当していた。

そしてそれは NY 医科大学州立大学と密接に関係していた。

彼の提案を提示した 2 ヶ月後に、彼は 2 つの機関で研究を支配していた委員会の病院ディレクターの事務所の、特別な会議に呼び出された。

ベッカーの本「ボディエレクトロニクス」で話しているように、それは本当に妙な話であった。ディレクターは、研究プログラムにほとんど注意を払いもしなかった。

また、ディレクターの研究施設は、バーベキューが開催されるのに十分な広さのものでした。

それは、まさにバーベキューでした、そして、私はグリルで焼かれました。

委員会の椅子は、とてもよいものでした、

我々は、あなたの提案に対して非常に重大で基本的な疑念がある。

電気が生物と関係があるというこの概念は、先日の会議で全く信用されなかった。

全然有効性がありません、そして、あなたが引証している新しい科学的な証拠は役に立たないものである。

全ての考えは、偽医者と騙されやすい市民の訴えに基づいている。

私は、無駄なことに関係せず、この医学部はそのようなふざけた、非科学的プロジェクトに関連しない。

ベッカーは、これに答えました。

正統的なドグマに逆らったようであれば、残念です、

しかし私は、彼らが結局しなければならないようになる提案を撤回するつもりはありません。

ミーティングの後、委員のうちの 1 人は、彼にいくらかの優しいアドバイスをするために、ベッカーをわきに連れて行った。

学校に戻って、やりなさい。

その時、あなたはこの全てが、がらくたでナンセンスであることを知ります。

2 日後に、ロバート・ベッカー博士は、ブレークした；

委員会は彼の提案をチェスター Yntema 教授にするように任せた。そして、その人はサンショウウオで耳の再生を研究していた。

Yntema は、彼のプロジェクトを承認した、

しかし、私は彼が観察するために、1 分かけたとも思いません。

それは研究されたが、私はあなたたちが、いずれこれを再び行わなければならないと思います。

我々は、若い研究者を勇気づける必要があります。

それは、ロバート・ベッカーの歴史的な研究が始まった時であった。

彼の最初の歩みは 14 匹のカエルと 14 匹のサンショウウオの各々の四肢の先端で電流を測定することだった。そして、8-10 ミリボルトの負電荷を各々で見つけた。

実験は、結果を生み出すのに長くかからなかった。

動物を麻酔した後に、ベッカーは動物の各々の右の前脚を切断した。

彼は、受傷後、神経軸の両極性が正にプラスに逆転にすることに気がついた

2 日目までに、電流は両方の種で 20 ミリボルトまで上がった。

しかし、サンショウウオ電流は、3 日目にゼロまで速く消えて、落ちた。

ベッカーは、ほとんど実験を打ち切る準備ができていた。

しかし一方、カエルは最初 20 ミリボルトを保っていて、少なくとも、彼らの怪我の電流は消滅しなかった

6 日と 10 日目の間で、サンショウウオの、電位はマイナスへ戻って、マイナス 30 ミリボルトのピークに上がった

その時、芽株は形をなした。

芽株は、全てのいろいろな細胞に分化することができる最初の未分化の少量の細胞のふくらみである。

これは失った手足を再生するために必要なものである。

失った手足を再生させるために、芽株は、動物の軸で、常に形をなす。

The frogs positive voltage began to decline

カエルの軸は完全に治癒したので、カエルのプラスの電圧は下り坂になり始めた。（これは再生はしない）

サンショウウオは彼らの失った前脚を再び成長させ始めた。

カエルの傷が完全に治癒し、そして、サンショウウオ四肢が完全に再び成長したとき、両方とも再び最初の 10 ミリボルト（マイナス）が測定された。

彼の最初の実験で、ロバート・ベッカーは、このように、誰も、前にかつて見なかった何かを見る興奮があった。

彼は、疑いなく証明した

死にそんな細胞には怪我で発生する電流はなかった。

サンショウウオの電荷は、マイナスに変わる時には完全に無くなっていた。

さらに、カエルとサンショウウオによって示される逆の極性は、2つの種での電気特性の深い違いを示していた。

マイナス電位は非常に大切な芽体を出させるようだった。そして、それなしでは、再生は起こらなかった。

その時、ベッカーはサンショウウオがそのような優れた効果を使うのを見て、マイナス電流を、前脚を切断した後のカエルの軸にあてることに決めた

彼は、通常非再生の動物で再生を生み出した最初の人であることを夢見た。

「ボディエレクトロニクス」でベッカーは書く、「カエルは私の栄光には興味を持っていなかった。」

彼らは、電極付けられて、最高半時間じっとしていなければならなかった。

彼らは拒絶したので、私は毎日彼らを麻酔した。だが、彼らは大目には見てくれなかった。

私のノーベル賞の夢は1週以内に、無残な死んだカエルのコレクションに終わった。

ベッカーは、世界で最大の評判が高い整形外科のジャーナル「骨と接合手術ジャーナル」に、彼の研究結果を書いた。

そして、基本的事実を指摘した彼の研究は受け入れられた。

彼は始めて、電磁気治療の研究の先頭に立つ、先駆者と認められた。

ベッカーは、簡単にやめる種類の人ではなかった。

そして、カエルが四肢を再生させるのを最後まで手伝うことを根気強く続けた。

彼は、いくつかの再生の原因となるものを見つけるのに成功した。

しかし、それは最初のものではなかった。1940s 年、スミス・カレッジの若い解剖教授の、S.メリル・ローズ博士は、カエルで部分的な再生を達成していた。

それは通常その能力が不足している動物で初めての達成であった。

ベッカーの研究の公表の後、彼はローズ博士に訪問され呼び出された。

ベッカー博士の妻（リリアン）は、彼を覚えていた。

彼女はスミスと研究し、彼の実験で使ったカエルを処置するのを最後まで手伝ったことがわかった。

ロバート・ベッカーが電氣的な生物学で彼の地位が再評価され始めたとき、彼は、ビタミンCを発見したノーベル賞受賞者のアルバート Szent ゲオルグという重要な協力者を得た。

Szent ゲオルグは実験者が生物の構成要素を分類したとき、途中で、彼らの指を貴重なものが通り抜けたと指摘した。それによって彼らは自身が問題とすべき大切なことを研究しているのに気づいた。

いくつかの基本的な生命の現実を依然として見ていなかった様だった。

そして、その失った部分として、Szent ゲオルグは電氣的要素を提案した。

彼は、細胞の多くの部分の分子構造が超伝導現象をうむのに十分規則的であると指摘した。

その電子の動き方は（コンピュータと固体電子工学に基本的な）、整然とした分子構造を持っている材料、例えばクリスタルだけで起こる。

半導体は小さな電流だけを伝えることができるが、これらは長距離移動させることができる。

ベッカーはボディエレクトロニクスで次のようにメモ書いた

1960 年ビタミンCの発見者が時代に先んじている証拠として、生命の基本分子にこの概念を提案することで導入された。

Szent ゲオルグ s 提案が心にあつて、ベッカーは作業仮説をまとめたと書いた。

私は、この最初の情報システムは密接に神経に関係があるが、これら自身は必ずしも神経繊維に依存しその場所に位置するわけではないと仮定した。

私は、このシステムが、単独で、または、神経インパルス・システムと協力して、半導体の直流電流を使うと推理した。

これは成長や、治癒や、おそらく他の基本的プロセスも調節している。

問題を理解するのに、ベッカーには2、3年かかった、

しかし、彼はすべての生きている人々と動物で、直流システムの存在が証明された。

それは、神経細胞に沿った周囲の細胞を動かす。

脳の大きさの半分を神経の周囲の細胞が構成し、さらに最も小さな神経繊維にも付随している。したがって、このシステムは、その半導体の性質の能力で少量の電流を運搬し、全身に浸透する。「ボディエレクトロニクス」より

ベッカーは、このシステムが、サンショウウオで、成長と治癒と再生を支配するのを見つけた。

怪我の電流は、このシステムのローカルな直流の表れである。

体の半導体の特性を理解することでの彼の進展はノーベル賞級の、驚異的な発見であった。

電子の流れがある所に、磁場があるという事実は、電気の基本である。

ベッカーはクロスカレントで書く、「1960 年前半に、私は脳のこの直流の流れは十分な感度の磁力計を持ってくるならば、頭の外側に少し離れて観察できる磁場を生じていると予測した。私が学会でこの声明をしたとき、かなりの笑いが観衆からあった。

私は、そのような装置が決して製造されない、そして、たとえそのような磁場が測定できたとしても、その強さはそれが、完全に生理的結果であるとするには、少ないと話された。」

固体物理学と電子機器の2、3の進歩は、結局、超伝導量子干渉探知器または SQUID としてベッカーが予測した装置の開発を可能にした；

そして、**SQUID** は磁気脳造影図または **MEG** と呼ばれて、頭から数フィートまで簡単に脳の磁場を読む。

1960s 年に、ベッカー博士は予測した。

生きている人の身体は、外面的な電磁界によって影響させることができる。

彼は、体の中に流れている直流と外部の場が相互に作用することを発見した。

精神病院で研究を実施して、太陽黒点が原因とされる地球磁場の攪乱の直後—太陽の上の磁気嵐で一患者のふるまいは、より動揺したことをベッカーは見つけ出し、それは強く承認された。

ベッカーは再生を引き起こすためには、どのように芽体を誘発するべきかわからなければならぬことを知っていた。そのためには最初に非分化の細胞を必要とした。

これらは、胚の中の細胞で、成長すると結局、差異が認められ、皮膚または骨または目、その他に専門化する。

従来の科学において、細胞が差異化していくことは事実として認められ決してその初期の胚形成期の非差異状態へその来た道に戻ることができない。ただ骨髄細胞は例外であった。

そういうわけで、人間の骨折の治癒で、再生が起こるとすれば骨髄細胞を利用するだけである。

ベッカーが、彼がカエルで治癒している骨折を研究したとき、骨髄細胞でなく、赤血球に非差異を認めこれを見つけて出して驚いた。

そのような細胞が骨髄細胞からの長い道のりで出来たことを考えると、これは思いもかけないことであった。

カエル赤血球は **DNA** を含む核を持っていることがわかった。そして、それは細胞に復活することができるよう、その最初の状態に戻るよう指示する。

他方、人間の赤血球は、再プログラムする核と **DNA** を含まない。

したがって、人間に再生のために必要とされる最初の芽体、または茎細胞に再分化する原料を生じるには、赤血球は、役立つことができなかった。

この目的にかなうのに十分な骨髄細胞がないので、ベッカー博士は、人間は一彼の夢であったこの再生が、多分不可能だろうという不承不承の結論に達した。

しかし、ロバート・ベッカーは、再分化するカエルの赤血球を得ることに成功した。

これはこれまで不可能であると思われてきた。彼は、細胞を 5 億分の 1 のアンペアの電流にさらすことによって、これを達成した。

この流れへ 4 時間の露出の後、実験の全赤血球は、彼らの **DNA** を復活させた

そして、明らかではない形になった。—これらは、非分化のものだった。

起こったことは、**DNA** の再開を示していた。

照射が全て終わった後でさえプロセスは継続していた。

これらのプロセスは白血球でなく、カエルの赤血球で働くだけだった。

実験は電子顕微鏡写真の上で撮影された。そして、写真が電子顕微鏡によってとられた。チャーリー・ベックマン（ベッカーの研究チームのメンバー）は電子顕微鏡を開発するのを手伝った。そして、彼の存在はベッカーの信憑性に貢献した。それでも、ベッカーが NY 科学学校で写真を示したとき、それを視ても誰も信じなかった。

彼らは見たが、誰もが、細胞が非分化されたものにはなりえないことを知っていたので、信じなかった。

そのような研究の 4 年後に、ベッカー博士は、観察していた電流が人間の骨の回復を速めることができるかどうか見ることに注意をむけた。

彼は、その結合していない骨折で実験した。

ー骨折は、簡単に治癒しないー

弱い直流または、低い強さでゆっくりパルスする電磁場でそれができる。

1970 年に、彼は骨折を治癒させるための原理と電気のコントロールのからくりを解説した。

ベッカーは重大な研究に関する記事を書き、整形外科と関連した客観的研究を発表した。

彼の出版物で最も貴重なものを、出した。

彼が最初に研究をした時から願っていた、直接患者をたすける技術を導きだした。

骨を回復させるための電気刺激は、臨床医学によって速く受け入れられ、すぐに広い用途をもつことになった。

しかし復員軍人庁から研究をするための補助金を得ることは、ほとんど他と同じように難しいことがわかった。

他の支持を探すために、ベッカーは直流は、傷の治癒を促進するかもしれない、そして、大勢の傷はしばしばたいへんなビジネスを生み出すと示唆する提案を陸軍省に提出した。

彼は、そこには関心がうまれるかもしれないと考えた。

しかし、彼が期待したものはなかった。

最初に、彼の補助金提案は、しばやく断られた。

およそ 1 ヶ月後に、彼を拒絶した軍の委員会に勤めた著名な整形外科医から電話がかかってきた。外科医はベッカーに話した、私には直流が治癒している傷を促進するかもしれないという可能性を研究するのに多くの研究費がある。

そしてこれを使用するために、あなたが最高のアプローチを提案するとしても私は懸念がある。実際的なボブ・ベッカーは、すばやく、彼の補助金をどうすべきか、彼の訪問者に話した。これには隠されたもう一つの提案が、あったがベッカーは断った。

彼の監督したものすべてを組み合わせた予算以上を公表し、実際の研究資金の総計はマイナーなものにする提案であった。

ある日、そうした 1 つの、申し入れが彼のところへきた。

ー申請できる全ての VA 基金は、ベッカーの全ての、出版物に監修者の、名前が加わるこ

とを、拒絶することができない。

そんなことで、ベッカーは政治活動の研究をすべきことをしった。

彼の整形外科の研究の間、ベッカー博士は、多くの人々にとっておそらく、これまでなかった、たいへん価値のあるものを発見した。

ベッカーは、ボディエレクトロニクスで説明した。

その骨は、全身の主な構造材料でもあるコラーゲン、そして、リン灰石、結晶質の材料、つまり主にリン酸カルシウムから成る。

両方の材料は、半導体であることがわかった。

ベッカーと彼のアシスタントは、他の研究者が骨について知らなかったもの—銅—を発見した。

彼は、銅の電気の力は、リン灰石の結晶とコラーゲンで、一緒に保たれることを見つけ出した。

まさに古い椅子を木の釘と一緒にさせているようにである。

Writes Becker, Unfortunately for victims of osteoporosis,

たとえ 1970 年の出版だとしても、ベッカーは残念なことに、依然として骨粗鬆症の被害者を治す銅の釘の発見は、ないと、書いた。

再生のための成長は我々の主要な目標だったが、私はしぶしぶ骨粗鬆症を再生の対称から下ろした。

ベッカー博士のもう一つの実験は、麻酔による不快なふらつきを知っている者にとって興味深い。

サンショウウオで磁場の効果を調査したベッカー博士は、電磁石の棒の間にサンショウウオを置いて、徐々に磁場を増やした。

麻酔されたことを特徴づけるデルタ脳波は、2,000 ガウスで現れた。

3,000 ガウスで、動物は刺激にじっとして、完全に感受性が鈍くなった。

彼が磁場の強さを減少させると、通常の EEG パターンに突然帰った、そして、サンショウウオは数秒で意識を回復した。

ベッカーは、直流でサンショウウオを麻酔した。

それは働いていた、しかし、電流をとめた 12 時間後でも、化学麻酔の後のように、動物はよろよろして感受性が鈍いままだった。

電磁気の麻酔法は、副作用なしで迅速な回復を可能にして、最高なものだとベッカーには思われた。ベッカーはこれを追求しようとしたが、VA 病院はさせなかった。

大きな動物と人間の上でより大きい電磁石でこの方法をためそうとしたが、結局我々は答えを決して得なかった。

ラザロの心臓

(ロバート・ベッカーのボディエレクトロニクス) のラザロの心臓の章で

彼の最も驚くべき実験のうちの1つを記述する。

サンショウウオの赤血球を研究するとき、この動物は、とても小さいので心臓を2つにカットして血を引き出して、死体を捨て去ることがその唯一の実際的な方法であった。

ある日私がこれらの三つを縫い合わせるならば、なにが起こるだろうと彼のアシスタント（シャロン・チェイピン）が尋ねた？

ベッカーは、動物の心臓の大きな傷を修繕することができないことは知られていたのに、彼らが数分で死ぬと彼女に保証した。

数日後に、シャロンは3匹のサンショウウオをもとに戻した。そして、全く健康に見えた。

驚いて、ベッカーは奇跡的に蘇った生きものを麻酔して、彼らを解剖した。

彼らの心臓は損害を受けた兆候を示さず、全く普通だった。

ベッカーはサンショウウオ心臓が台無しにされた後に4時間で標準に再び成長するのがわかった。そして、怪我の徴候を示さなかった。

赤血球は30分の範囲内で怪我の部分に芽体をつくった。そして空洞部分があった胸の全てのスペースを占有していた。

2-3時間後に、大部分の芽株細胞は、心筋に再分化していた。

4時間後に、心臓は外観上普通で、血液をポンプで揚げていた。

ベッカーはネイチャー誌に調子を下げさえして、これについてのレポートを書いたが、それはSFのように聞こえた。とー彼はボディエレクトロニクスで書いたー

これは理想的な治癒である。そして、彼はまとめた。

流出された血は、体のセンターの傷を閉ざし、2、3時間で失った部分を取り替えた。

あなたは、これよりずっと効率的なものをえることができない。

ニクソン大統領が1970年に中国に行ったあと、鍼に対する関心は急増した。

ベッカー博士は、鍼が電氣的に働いたかどうか見るために、補助金を国立衛生研究所（NIH）から得た。

彼はその命題を確かめた。そして、鍼のつぼの上に少ない抵抗とより大きな伝導率を見つけた。ベッカーの研究は鍼で言われている経絡が電流のコンダクターであることを示した。そして、そのつぼが体の電磁気システムへの出入口であった。

彼が研究の次の段階を始めようとしたちょうどその時、NIHは補助金をキャンセルした。

ベッカー博士は、脊髄損傷のショックが長く正電荷を発生させるとわかった。

負電荷が再生の電流であるので、これは脊髄修理への主な障害物のように見えた。

しかしベッカーが、推測するーそのポジティブな極性をキャンセルして、成長刺激的な負電荷に入れ替え適切な電流を用いることは、可能でなければならない。

十分な資金で、ベッカーは彼が脊髄再生を達成できると思っている。

彼が知る限り、彼の仕事をアメリカの最も有名な脊髄損傷犠牲者（クリストファー・リーヴズ）の注意を引くように誰もこれまでに示さなかった。

ロバート・ベッカーの研究が進歩したので、人間と本当に植物と動物界の全ての生きものが電磁気のシステムの範囲内で存在し—実質的に、みんなは電気本体によって生きる。みんなが基本的に事実上電磁気のことにもますます気づくようになった。

体のこの鋭敏な認識は、電磁気特性によるものである。そして、どんな具合にそれらに影響を及ぼすかほとんど取り上げない。

こうしたことから彼は、常に世界中に存在するようになった世界的な電磁気汚染のスモッグに懸念を抱いた。

クロスカレントで、ベッカー博士は、特定の周波数の潜在的危険の一部を説明する。

彼は、標準のテレビから EM 頻度までさらされるネズミのスウェーデンのテストを解説する。

テレビ装置は、1 日につき 4 時間、動物より上におよそ 12 インチ置かれた。

雄のネズミは 35~50 日の間露出して、検査された。

睪丸の重さが、かなり減らされるとわかった。

保護されてないテレビ電磁気の周波数への長引く露出は、20 世紀の後半に特有である。

人は、スウェーデンの研究と世界の至る所で観察される人間の男性の精子数測定値の急激な低下と関係がないか疑問に思う。

ここで、また別のベッカーを心配させる種類のものを例示する。1970 年に、胎児性鼓動を監視する機械が開発された。そして、それは受動的でなくて、侵襲性である；

それは、胎児に電磁気信号 (EM) を出す。

研究は 1989 年にされ、それらの装置でモニターされた赤ちゃんは、時代遅れの耳によって、モニターされた赤ちゃんと比較された。

18 ヶ月の期間にわたって、EM 装置でモニターされた赤ちゃんは、耳によってモニターした赤ちゃんより非常に高い脳性麻痺の率を持っていた。

この研究結果は、鳴り出したアラーム信号のようである。

ベッカーは、NYS 保健省によって電磁場にさらされたネズミの研究と等しく 1990 年に産まれた 40% の子供たちがかなり電磁場にさらされた点に注意している；

ネズミは、後で学習障害になった。

ガンについての現在の従来の概念は、ガン細胞は決して非分化なものへなることができず、通常の細胞に戻ることができないと仮定する。

そのように考えるために、かつてガン細胞であったものとガン細胞は、常に手術で除去するか、放射線または化学療法で殺すことになっている。

他方、ベッカーの研究は、異なる理解を示した；

おそらく、ガン細胞は不完全な非分化の状態にはまり込んでいる。

速く増殖する最初の細胞の能力をえているように、すでに十分非分化の状態になっている。

通常の最初の細胞になっているのだが、十分そうはなっていない、

そしてそれはどんな臓器の細胞の部分にでも本来、専門的に分化してゆきます。
最近の発見は細胞は、遺伝子の変更で、ガンのようにになると、示唆している。（具合が悪い遺伝子配列が表現される）

どんなものも原因となる。

悪性の遺伝子のプログラムによる細胞は非分化のものにほどけることができ、通常の細胞として再プログラムされることを許す

ベッカーは、これらが完全に非分化されることができれば、ガン細胞が標準に戻るだろうと思っていた。

国立癌研究所（NCI）で、再生とガンの可能な関連が、若い研究者の心に浮かんだ。

彼が資金提供の要請のため彼の提案を上司に提出した 1 ヶ月後に、彼は NCI から出るよう強制された。

19 世紀に、銀には抗菌性特性があることが知られていた；

大草原を横断している間、初期の先駆者は、ミルクがすっぱくならないようにするために 1 クォートのミルクに銀のドルを入れたと言われる。

銀の価値についての知識は、さらに前に戻りさえする。

中世の、医者は銀のスプーンを流行病から保護するため幼児の口に入れることを勧めた。

金持ちだけが銀のスプーンを持っていたので、これは「口に銀のスプーンを入れて生まれてきた」という格言の起源だったかもしれない。

ベッカー博士は、銀を再発見した。

この時まで、彼は負電流で成長をオンにすることができ、陽電流でそれをオフにすることができることを知っていた。

彼が負電流を適用するならば、彼は骨の成長を刺激することができる。しかし、それはバクテリアの成長も刺激するか？

事前研究室テストでは、彼は電氣的にプラスにすると、明らかに培養菌に入れたプラスの銀イオンの電圧によって、銀の電極がさまざまなバクテリアを殺すのを見た。

一つの抗生物質はさまざまなバクテリア全てには作用しなかったもので、これは刺激的な発見であった。

これは人間の細胞に無害な電圧で達成された。

彼の銀の電極に関する大きな問題は、しかし、この影響が電極から 1 インチだけ広がるローカルなものだったことだった。それで銀でできているスクリーンのような、より大きな何かを必要とした。

ベッカー博士は、銀のイオンで充満したナイロン布を偶然みつけた。

銀が非常に導通するので、布中に直流を届けることができる。

ベッカーは、銀のナイロン布をためすために、すぐに挑戦的な症例をみつけた。

彼の患者（ジョン）は、スノーモービル事故でひどく折れた足で苦しんでいた。

骨は、感染性骨髓炎になっていた。

それは整形外科の外科医にとって結合していない骨折よりのさらに悪い悪夢として、存在していた。

ジョンの足の空洞は、5種類の異なるバクテリアに影響されていた。

ベッカーは、最初にバクテリアをコントロールするために陽電流で銀のナイロンを使い、後で骨を癒やすために負電流を使う計画をジョンに説明した。

傷をきれいにするため、ベッカーは銀のナイロンの大きな布で傷の穴を包装した。それはジョンのひざから彼の足首までほとんどを巻きつけた。

彼は、その時銀のナイロンにバッテリーをつないだ。

それは、傷の様子に適した電極として作動した。

2週間末までには、5種類のバクテリアは全て、消えた。

最初の問題は解決された。そして、これは骨髓炎の克服を意味した。

ベッカーがレントゲン検査をすると一体の全ての部分是一緒にスムーズに動かなかったが、若干の骨の発達があったのがわかった。

彼は陽極を使い続けて、1ヵ月の終わりに、結合していない骨折がほとんど癒やされたのがわかった、そして、2ヵ月だけ過ぎると、患者は足で歩いていた。

これはどうして可能だったのか？

使われた電流は、ポジティブで、バクテリアを殺したが、骨折の治癒を助けはしなかった。

ミステリーは、すぐに解かれた。

銀のナイロンによる彼の骨髓炎処理の間、患者の傷から菌を確認している間、ロバート・ベッカーは運が良いことに、完全に予想外のものを見つけ出した。

それは決して予測されることができなかった。そして、それは人間の再生の彼の古い夢を蘇らせた。

彼は非分化にされた細胞なしでは再生させることができないという事実直面していた。

それは人間が再生するためには確かなことであった。

ベッカーは、人間の再生がありえないと悲しげに結論を出した。

しかし、培養菌を調べているとき、彼は最初の、非分化のヒト細胞を見つけ出した。

彼はこれに驚いてとびあがり、彼は体の傷の中に、共通に見つけ出される人間の非分化の細胞のタイプである線維芽細胞を、電氣的に生成した銀のイオンと化合させた。

疑わしかったが、彼はすぐに非分化の細胞でペトリ皿がいっぱいになるのを見た。

その時まで、一度、細胞が分化すると、または、専門化すると、その過程は終結し、非分化の細胞への帰り道はないと、考えられていた。

しかし、ベッカーは非分化な人間の細胞への道を見つけた。そして、それは彼さえ不可能であると考えていたことであった。

これは、人間の、再生能力にとって主要な障害（非分化になる細胞が欠けていること）が除去されたことを意味していた。

さらに、例えば手術の後、組織の治癒が必要なとき非常事態のために大量の患者の彼らの最初の状態の細胞を保存しておき、非分化の細胞をえるためにベッカーのこの銀の電極テクニックを使うことができることがわかりました。

生まれたばかりの子供たちの臍の緒から茎（原始的な）細胞を保存するために会社が設立されたことは、そのような目的のためである。

2000年6月1日に、ナショナル・パブリック・ラジオは幹細胞の研究に興味を起こさせるためそれらを発表した

我々が幹細胞を生み出す方法を知りさえすれば、医薬品に革命をもたらす。

幹細胞が非分化の細胞のためいかにこれを行うか、我々はこれから知るべきです。

ボブ・ベッカー博士は、上記の研究を1970年後半に発表しました。

しかし、誰も注意を払いませんでした

その時、正しいことであつたので NPR アナウンサーの誰かがそうしたが

それは、本当に医療に革命をもたらす。

ベッカー博士は、彼の銀の電極テクニックの特許権をとった、

特許を説明すると

銀は有毒でなく、組織に有害でなく、発癌性はなく、突然変異誘発性はなく（遺伝子変化なし）、細胞障害性也没有

バクテリアと菌類の破壊者で、細胞を非分化にさせる要因となる。

この方法を、ベッカーは説明する。

銀のイオンによって作業が行われる。

それは治療されている領域を、正しく結合させる。

これらは、血流に入らない。

したがって、皮膚が灰色になる銀沈着症の原因となることができない。

時折、多くのコロイド銀を飲んでい人々にそれらの症状が、起こった。

彼はまた、ガンにそれを適用する方法を見つけた。

彼が研究室で、ガン細胞に銀の電極によって正電荷を届けると、細胞分裂（有糸分裂）は完全に止まった。

発達する組織が負に荷電する間、ガンは最も否定的な状態である。

これは、しかし、電極から自由にされた銀イオンのポジティブ電流ではこの結果にならなかった

使われる電極が銀以外の材料でできていたならば、電気電圧と電流はガン細胞が有糸分裂する率または成長率を増やす原因になる。

ガンの電気は、長い歴史がある。

1880年に、英国の医学雑誌ランセットは、稲妻に打たれた後に癌が2週にわたって徐々に消えた患者のことを伝える医者からの手紙を発表した。

1880sにも、アポストリ博士（フランスの外科医）は、腫瘍に挿入した電極に100と250

ミリアンペアの陽極性直接的な電流を通すことで腫瘍を縮小させたと報告した。

アポストリの作業を知って、フレデリック・マーティン博士（その人は後でアメリカの **Surgeons** 大学を設立した）は、アポストリの作業を確かめるいくつかの書類を公開した。

最近の方法による装置では、スウェーデンの Björn Nordenström 博士（その人は、針生検を発明した）は、直接腫瘍に入れられるステンレス鋼電極によって届けるプラスの直流 10 ボルトで、腫瘍を縮小させた。

ベッカー博士は、体で 1.1 ボルト以上の電流なら何でも（すなわち水を水素と酸素へ分解させる）電気分解を起こすと述べた。

クロスカレントで—ベッカーは、この電気分解は生物学的組織で、水素のような細胞にとっても有毒なガスを生産すると述べている。

水素はすぐに塩酸に変わる。そして、それは細胞を溶かす。

Nordenström はこの原因電気分解のため、電流を 10 倍使った

ベッカーは Nordenström の結果はアポストリとマーティンのそれと同様に、電気分解から来ていて、生物学上大きな電流または両極性からはきていないと仮定する。

ベッカーが両方の負と正の流れが腫瘍の発達を刺激するのを見たので、彼はこの方法が加えてこの領域に他の腫瘍をつくるよう刺激する結果になることを心配している。

この現象は Nordenström のケースの一部で生じたと、ベッカーは述べている。

しかし目標とされた腫瘍は破壊されたので、たとえベッカーが指摘する方法で、電気分解によってつくられた塩酸によって細胞崩壊を成し遂げたとしても、それは働いて、役に立つ。

ベッカー博士は彼の研究室を閉じる前に、ペトリ皿で銀の電極を設定することによってプラスの直流を流して、銀のイオンを放出することで 1 種類のガン細胞の非分化を実証した。

そのような方法は、一度は通常の細胞であって誤った状態に進んだガン細胞の心臓部分にうまく届く。

ガン細胞の性質を逆にし最初の細胞にさせ再分化させる。

どんな臓器の部分でも最初は通常の非分化の細胞としてある

ベッカーは、2 つの皮膚がんを逆にして縮小させるために、後でこの方法を使用した。

ベッカーは、クロスカレント（我々には今度は確固たる証拠がないが）で、おそらく銀のイオンがガン細胞膜の表面で若干のレセプター・サイトにつながっているために起こると述べる。

何が抹殺するようにするのか！

つまり、1980 年 1 月 1 日に復員軍人庁からの彼の資金を絶たれる直前にこの研究がなされたので起こった。

その最悪の原因は、政治であった。

彼の研究の流れから人間の細胞は最も非常に小さい電磁気の量にたいしても感度を示すので、ベッカー博士は、20 世紀の後半の驚くべき電磁気のスモッグに人間の健康が影響を受けるかもしれないと理解し始めた。

彼は **Sanguine** プロジェクトに関してアメリカ海軍の特別な環境委員会でアドバイスするよう依頼された。

この計画は冷戦の頂点に国防総省によって原子力潜水艦を 120 フィートの深さの水中から、通信を可能にするよう頼まれた。

桁外れのアンテナから 45-70 ヘルツのシグナルを発するシステムが北ウィスコンシンの大部分の地下に埋設される。

ワシントンでの会議で委員会はこの研究を知る

志願した 10 人から 9 人は、そこで 1 日 **Sanguine** のシグナルの磁場素子へ暴露され血清トリグリセリドの重大な増加を示した。

トリグリセリドの増大は、体のストレス反応の一部である。

システムは棚に載せられた、しかし、海軍は影響評価を決して公表しなかった。

ニューヨーク州に戻って、ベッカー博士は、10 の極超短波 (765KV) 伝送線を国中に造る計画を知った。

潜在的に有害な **Sanguine** 周波数は、提案された送電線のそれと類似していた。

彼は **NYS Public Service Commission (PSC)** に書いて、海軍には提案された線の近くの住民に対して可能な危害の相当な証拠があることを知らせ、電話すべき人の名前を話した。

数週間後に、PSC の男性はベッカーに電話して言った。

ベッカーに彼の名前を伝えた海軍士官は、言った

Sanguine プロジェクトなんてものは、ありませんでした、

そのような委員会はありませんでした、

まったく、ベッカーについてこれまで耳にしませんでした。そして、その人はそこにいませんでした。この冗談に、ベッカーは答えた。

私は、今朝海軍研究の官庁から

ちょうど何分か前活発な委員会プロジェクトについてメールを受けとった。

ベッカーがそれを PSC の男に保証したとき、

彼は、何分か間を置いて、

彼らが秘密ではなくなったのを理解し、

男は、明日私の役割は終わっていると言った。

会合の時間を読んだ後、海軍の委員会は決して開かれてはいない。

それは、存在するとは思われないといった。

しかし、結局 PSC は、提案された方針で公聴会を開いた。

ベッカーその他は、証言した。

Project Sanguine に関する情報が出たとき、ウィスコンシン s ゲイロード・ネルソン上院議員は海軍とともに、彼の有権者の提案した実験について激怒していた。

ヒヤリングの後、PSC が採用したベッカーの提案は、ラインを設置するのを 5 年間保留することを推奨することである、

そして、5 年（危険の可能性を 5,000,000 ドルかけて研究する）

提案されたラインを一般大衆と有用性を評価する。

最終的な放射性降下物のため、PSC は電線のためにより広い通行権を必要とした。

ベッカー博士のヒトの細胞に対する可能な脅威と舞台裏で高い圧力ラインによってもたらされる振動数を、除外するよう警告したことに対する国家レベルで、かなり配慮を払う誰もいなかった。

一方、他の声は上がった。

ニュー Yorker のスタッフライター・ポール・ブローダーは、1977 年に「Zapping されるアメリカ人」を書いた。

「In Electromagnetic Man」(1989) で、英国の研究者 C・スミス（博士）は、イングランドのドーセットの小さい村落の、Fishpond の大部分の村民がどのように大通りの上に主な送電線が正しく造られたあと、何らかの方法で病気になったかを述べた。

ガン、更には精神的な妨害の多数のケースが、あった。

Fishpond へ移って、スミスも病気になった。そして、それは彼を EM 周波数の研究と彼の本を書くようにさせた。

1990 年 12 月 14 日に、アトランタジャーナルがレポートしたが、環境保護局（EPA）が子供たちと電磁場と白血病と脳ガンを関連づけた研究をしたとき、ブッシュ政権のホワイトハウス側近は市民がレポートの結論を誤解するかもしれないことを心配してレポートの公開を延期した。

EPA 研究の以前の版は、クラス B の発癌物質（人間のガンの見込みがあるもとを意味する）として電磁波を分類するつもりだった。

この提案は、改訂と同時に取り除かれた。

1997 年 7 月（ニューイングランド Medicinepublished ジャーナル）に

国立癌研究所（NCI）によって行われる研究は電線の電磁場は、小児期白血病の危険性を増したという証拠は、そこにはなかったと主張する。

しかし、Nexus 誌の 1997 年 10 月～11 月の号の記事は、特に高い磁場にさらされた子供たちのために白血病危険が 24%増加したとする統計を研究者がまぐれだとして退けると指摘した。

NCI 研究者は、彼らの計算のための分割要点として 2 ミリ・ガウスをレベルに設定することによってこの事実を忘れ去った。

ネキサスは、ロス・エイディー博士（アメリカで最も尊敬された生体電磁気学研究者のうちの1人）にコメントするよう頼んだ。

エイディー博士は、NCI が彼らの分離点として 3milligauss レベルをとったならば、すなわち、結論は正確に小児期白血病の重要な危険性があるとして正反対だっただろうと指摘した。

ついに、1999 年前半に、国立衛生研究所（NIH）内に設立された委員会は、子供たちの白血病と EM フィールドへの露出統計学的に有意の関係があると認めるレポートを出した。

ベッカーは、再び潔白を証明された。

ベッカーは指摘した、

我々は、惑星にこれまで存在しなかった人間と他の種がこれまで共存しなかった周波数のあらゆる種類の周波数の電磁スペクトルで満たされた

彼の PSC 証言の後、ベッカーは彼の研究資金だった VA 病院の研究費を書き換えることへの妨害が増えると注意される

ついに、全ての補助金は終わった。そして、彼の研究室は 1980 年 1 月 1 日に閉まった。

再生の研究行なうのは、世界でただ一人の人であった。

ラス・ハービーは正しかった；

Dr.Becker へ資金提供が続けば、彼がおそらく、四肢を再生させる方法を明らかにした。

それほど多くの米国の退役軍人のために重要性があるのに彼に資金を供給するのを止めたのは復員軍人庁であったことは皮肉であった

そして、彼はおそらく、ガン細胞が非分化して、標準に戻る原因になる実用的な方法を示した。

以前に書いたように、引退しても、ベッカーは黙ることを拒否して、Body Electric を書いた。

私は、社会にそれを知っていて欲しかった

彼らが新聞で読んだ方法では、科学は行われていない

研究は評価されて資金を供給されても、我々は、ますます少量のことしか学習しなくなる。

そして、科学は我々の友人の代わりに我々の敵軍になっている。

12 年の間に、彼の研究室は動いた。そして、ロバート・ベッカー博士と彼のスタッフが次のことを発見した：

- 1) サンショウウオがその四肢を再生させる方法の秘密；
- 2) 全ての動物の中に、神経に沿って神経周囲細胞を流れる半導体のような電流が流れていて、DC コントロールシステムが成長をコントロールし、回復させる；
- 3) 一体化していない骨折を癒やすことを含む骨治癒の電気刺激の技術；
- 4) 人間の細胞の低周波電磁気（EM）フィールドの影響；
- 5) 不可能であると知られていたカエル赤血球を非分化のものにする方法；

- 6) 不可能であると知られていた人間の線維芽細胞を非分化のものにする方法;
- 7) 不可能であることを知られている若干のガン細胞を非分化のものにする方法;
- 8) 鍼のシステムの電気性質;
- 9) 体で電気分解を引き起こす電圧の量;
- 10) 感染した骨の骨髄炎を治癒させる方法一;
- 11) 電磁気による麻酔方法;
- 12) 骨粗鬆症の原因と治療への手掛かり。

全てのこれらの発見は医学専門誌で発表された、そして、多くはノーベル賞級の材料である。

とくにベッカー博士が発見するまで知られていなかったサンショウウオが四肢を再生させる方法についてベッカーにノーベル賞を与えられなかったのは大きなミステリーであった。

制癌剤は癌の転移を促進させる？

シェリー・ベーカー Sherry Baker によって (NaturalNews)
www.naturalnews.com/029042_cancer_cells_chemotherapy.html

化学療法に一極端な疲労と吐き気と脱毛と衰弱から始まって副作用の長いリストがあることは、知られている。

そして、多くの場合、ガンの進行は停止せず、または治療もしない。

しかしこの数十年間に、化学療法が何を行うのか、使用する前に、誰もわからなかったのか？

化学療法が、ガンが体に広がる転移として知られるプロセスを実際は活気づけるのではないか？

それらの疑問に対する答えが「本当」であるかどうか見るため (UAB) バーミングハム癌研



究センターのアラバマ大学の研究者と、UAB 化学部門は、米国防総省乳がん研究プログラムから 805,000 ドルの研究費を与えられた

研究は、これが非常に真実である可能性を調査してきた。

化学療法の後、その死んだガン細胞は、体の他の部分への広がるガンとして完全に残って活気づけた。

化学療法は、ガン細胞を殺すことによって我々は、不注意に、より浸潤性をもつガン細胞を生き残るよう DNA 構造を変化させ誘導しないか？

この考えは、本当に深刻である。

UAB 腫瘍学と血液学部の助教授「Katri Selander 医学博士、

そして、研究費にかかわる共同指導者研究者は、メディアへの声明で言った。

「基本的に、この疑問には、知識基礎を固めて、ガン治療の全ての危険性と利点を知ること、答えられなければならない。

この研究は、多数の科学的な分野全体で到達することが可能となる。

そして、ある日、世界中の患者の命を改善するだろう。

UAB 科学者は集中して、乳がんとなって、化学療法にさらされた細胞は、不活性な状態か変化した遺伝物質（DNA）として体に残る現象を研究している。

研究チームは、化学療法の結果として生じた DNA の変化が特別の分子経路を通して、恐れられた転移のプロセスを活気づける致命的な要素になると述べた。

ガン再発と治療失敗の原因は転移がナンバーワンであるので、化学療法がガンの転移の原因となることができるかどうか発見することは、腫瘍学の間にとって、非常に重要である。

死んだガン細胞の、タンパク質が通行料金のようなレセプター9 または TLR9 を体内に豊富にさせるので体の経路を通過させ活気づけるのが見つけ出された。

つまり、こうしたことが、化学療法後の免疫系、多くのガンの性質において見られた。

「TLR9 が転移を拡大させるならば、その時、研究者はこの分子経路をふさぐか、調節する目標のための治療を見つけて出す研究を続ける」と、セランダー博士 Selander が述べた。

電磁気は使い方によって治療に効果があるが、使用によっては危険性がある。その意味であえて電子レンジの危険性を述べた記事を参考に挿入する。著者

マイクロ波での料理

電子レンジによる料理の隠れた危険性

by Anthony Wayne and Lawrence Newell

A・ウェインとローレンス・ニウエルによって

何百万もの人々が電子レンジの利便性と引きかえに彼らの健康を知らないで犠牲にしている可能性はあるか？

なぜ、ソビエト連邦は 1976 年に電子レンジの使用を禁止したのか？

誰が、電子レンジを発明し原理を考えたか？

これらの疑問に対する答えは、あなたにショックを与えて電子レンジをゴミで放り投げるかもしれない。

90%以上のアメリカの家は、食事準備のために電子レンジを使用する。

従来のオーブンと比較して、電子レンジがとても便利で、エネルギーも効果的なので、極めて少ない家またはレストランがないだけである。

一般に、人々は電子レンジの中で料理される食品に対する少しもマイナスな影響はないと思っている。もちろん、電子レンジが本当に有害であるならば、国家は市場でそれらを決して売らないようにするだろうか？

彼らはそうするだろうか？

何が電子レンジに関して「公式に」リリースされたかに関係なく、我々は本稿で輪郭を描いた研究事実に基づいて使用するのを個人的に止めた。

本報文の目的は、マイクロ波料理が自然なものでもないし、健康的でもなくて、誰でも想像するより、人体に全く危険であることの保証付きの一証拠を示すことになっている—。

しかし、電子レンジ・メーカーと、ワシントン市政と昔からの人間性は、事実と証拠を封印している。

このため、人々は影響とその危険を知ることなく — 至福の無知で — 彼らの食糧を電子レンジで調理し続けている。

どのように、電子レンジは動くか？

電子レンジは電磁気のエネルギーの形の、光波または電波のように、電力またはエネルギーの電磁スペクトルの部分を使用する。

我々の現代の技術的時代には、マイクロウェーブは地球全体で、または、宇宙衛星、長距離電話信号、テレビ番組とコンピュータ情報を中継するのに使用されている。

しかし、マイクロウェーブは食糧を料理するためのエネルギー源として、我々に最もなじみがある。

あらゆる電子レンジは、マグネトロンが装備され、磁気および電界の影響でチューブの電子が 2450 メガヘルツ (MHz) または 2.45 ギガ・ヘルツ // (GHz) 近辺のマイクロ波長の波長の放射を出す。

このマイクロ波放射は、食品の分子に相互に作用する。

すべては、波の各サイクルで、プラスからマイナスまでエネルギーが変化し、両極性に振動する。

電子レンジにおいて、これらの両極性の変化は、毎秒、何百万回も、生じる。

食品の分子 — 特に水の分子 — は、磁石に北と南の両極性があるのと同じように、プラスとマイナスの極性がある。

市販モデルにおいて、オーブンはほとんど 1000 ワットの交流の電力が投入される。

マグネトロンから発生するこれらの電子レンジが食品を攻撃し、これらは 1 秒につき何百万回も同じ振動数で回転するために極性分子を生じる。

このような振動は分子「摩擦」を引き起こす。そして、それは食糧を加熱する。

この変わった種類の加熱は周囲の分子に重要な損害を生じさせる。そして、しばしばそれらをバラバラにするか、力強くそれらを変形させる。

太陽からのマイクロウェーブは、比較的、摩擦熱を引き起こさないパルス化された直流 (DC) の仕組みに基づいている；

電子レンジは、摩擦熱を引き起こす交流 (AC) を使用する。

電子レンジは使用する電力のすべてが、最も限られた振動数で動くエネルギー・スペクトルだけを刺激

する波長の、エネルギーをもたらす。

太陽からのエネルギーは、広い周波数スペクトルで動く。

説明する際に多数の電磁波の専門語が、使用される：(例えば波長、振幅、サイクルと振動数)

- * 波長は、放射の種類(すなわちラジオ、X線、紫外(見える)赤外線、その他)を決定する。

- * 振幅は、出発点から正確に計った運動の範囲を決定する。

- * サイクルは、装置の振動数で決定する。(例えばヘルツ、ヘルツ、Hzまたはサイクル数/毎秒)

- * 振動数は、所定の時間内での(通常 1 秒)、総振動数で決定される;

一定の時間内に繰り返されるプロセスで発生する総数(すなわち繰り返される毎秒のヘルツ数)。

- *放射=電磁波のエネルギーを拡散する

我々全員、食糧を電子レンジで調理することは、(放射線「治療」)で照射することと同じではないと告げられた。

2つのプロセスは、完全に、異なる強さのエネルギーの波を使用すると思われる。

最新のFDAまたは公式にリリースされた国家研究では、電子レンジを使用した料理が、有害であると、証明されていない。

しかし研究の有効性は、故意に、制限されることことを知っている。

これらの研究の多数は、不正確であることが後で証明された。

消費者は判断において信頼できる程度の常識を使用すべきだと思う。

卵の例をとると、これらは、1960年代後期に我々の健康にとっても有害であることが「証明された」。

新しい手法で製造されたイミテーションの卵の製品はメーカーに大きな利益を出したが、そのとき従来のほとんどの卵農場が破産した。

現在、最近の国家が提出した研究は、卵が結局我々にとって良くないと言っている。

そうしたことから我々は誰を信じるべきか、そして、我々の健康に関係がある問題を判断するどんな基準を定めるべきか？

それは現在電子レンジは — 公的な話によれば — きちんと使用されて承認されたデザインのとき、環境に漏れないといわれている。

電子レンジによって熱される食糧を食べ、それを購入するほうを選ぶかどうか決定するための真実の基礎情報を、各々の消費者に伝えていない。

母の本能は、より人間の命に即していて正しく、母のもつ「第六感」は、理論以上の何かがある。

あなたは、これまでにそれを経験したことはないか？

子供たちは、母の直観力に決して勝てない。

それは、力をいれて論じるようなことが — ここでもそれは示されるが、母がブレーキをかけて罵って、あなたの背中を椅子に押しつける。

同時代の人々の我々の多数の、

母と祖母は、現代の多くの食品のために料理するものを「適当でない」と主張し、「本能的に」疑った。

母は、なんといっても電子レンジで焼くことを拒否した。

彼女も、カップ 1 杯のコーヒーを電子レンジで熱するとき経験することが好きでなかった。

私はそれに完全に同意しなければならず、その事実を論ずることなどできない。

彼女自身の常識と本能は、彼女にマイクロ波の料理は自然なものでないし、食品を作る方法ではないと告げた

「これらの味が彼らにそう思わせた」。

母は引退する前にしづしづ、作業スケジュールのために電子レンジで残り物を再加熱することに屈した。

他の多数の人は同じことを感じる、しかし、最初の電子レンジが市場を圧倒した 1970 年代以前の日付の「オールドファッションドカクテル」の彼らは少数派と考えられる。

電子レンジが当たり前になった時から大部分の若年の成人は、私の母の直観的な知恵を無視することを選んだ。そしてこれまで、マイクロ波料理が非常に便利であると思ってそれを信じた大多数はそれで悪くなっている。

彼女は科学的な技術的な、健康の理由を知らないし、おかあさんたちの勉強のために黒板にチョークで書いたりもできないが、彼女は電子レンジの中で料理されたとき、食品がどんな味がしたかによって良くないことを知っていた。

彼女は、電子レンジで料理された食品の質が変わる方法が、好きでなかった。

赤ちゃんのミルクのために電子レンジは安全でないといういくつかの警告が社会にあったが、かろうじて少数の者に気がつかれた。

たとえば、(ミネソタ大学のミネソタ拡張サービスthe Minnesota Extension Service)「若い家族」は、1989 年に以下の記事を書いた：

「電子レンジは速く食糧を熱するが、加熱のために哺乳瓶は勧められない。

ビンに触れても熱くないかもしれない、しかし、内部の流動物はとても熱くなるかもしれない、赤ちゃんの口とのど笛にやけどをすることもある。

また、密閉された容器(例えば哺乳びん)の蒸気の蓄積によって、それが爆発するかもしれない。

電子レンジでビンを熱することは、ミルクをわずかに変化させる。

特殊な調整された粉ミルクに、ビタミンの損失が、多少あるかもしれない。

しぼり出された母乳では、若干の保護特性は破壊されるかもしれない。

水の中に瓶を入れて暖める、またはボウル、1 杯の温水でビンを暖め、与える前に手首で熱さをテストすると、2、3分長くかかるかもしれないが、それはより安全である。」

ハワイのLitaリー博士は 1989 年 12 月 9 日にランセットで伝えた：

赤ちゃん調合ミルクを電子レンジで料理すると、確かに転移アミノ酸trans-amino acidsはこの合成シス異性体synthetic cis-isomersに変わる。

同じシス・アミノ酸、または、トランス型脂肪酸であるにせよ、合成異性体は生物学上活発でない。

完全に、アミノ酸(L-プロリン)の 1 つはそのd-異性体が変わった。そして、それは神経毒で(神経系に有毒な)腎毒性であることが知られている(腎臓に有毒な)。

多数の赤ちゃんが授乳されないことはとても問題だ、しかし、彼らが今与えられている、偽のミルク(赤ちゃんの定番のもの)は電子レンジで調理を通してさらに多くの人を病気にした。」

電子レンジで料理された血液は、患者を殺害する

1991 年に、輸血で必要とされる暖かい血液にするため電子レンジを病院が使用したことに関する訴訟がオクラホマであった。

このケースは腰の手術をした患者（ノルマ・リービット）が関係した。そして、その人は単に、輸血が原因で死んだ。

看護婦が電子レンジで血液を暖めたことが原因であった。

この悲劇は、我々が信じさせられた、電子レンジでの「加熱」に、大いに多くの問題があることを非常に明らかにする。

輸血のための血液は、通常電子レンジを使用せずに暖められる。

リービット夫人の場合、電子レンジで血液を暖めてその質を変えた、そして、それは彼女を殺害した。

マイクロ波放射の「加熱」の形態が何かをすることは、非常に明らかである。

電子レンジで食品を処理する人々がこれらの「未知数」をも摂取し食べていることは、全く明らかである。

体の性質は電気化学的なので何らかの力は、それを中断させ、あるいは、人間の電気化学的現象を変え体の生理に影響する。

これはロバート・O・ベッカーの本で（ボディエレクトロニクス）で最もよく説明されている、そして、エレン・シュガーマンの本で周囲の電気は健康に危険かもしれないと警告している。

、電子レンジでの科学的な証拠と従来の食糧との比較研究の事実は、1992 年に用意されてラウムと Zeltによって発表された（3 の（2）43.）は述べる

「自然医療の基本的な仮説は、述べている

人体の分子へのエネルギーの侵入は、それが習慣でないとはいえ良いとは言えず、危害を生じさせそうである。

電子レンジで調理された食糧には、人間が火の発見以来の、料理方法で調理された食糧に存在しない分子とエネルギーが含まれる。

太陽と他の星からのマイクロ波エネルギーは、直流が基礎となって形成されている。

人工的に作られた電子レンジは、オープンに交流のマイクロ波エネルギーを出してあらゆる食糧分子を直撃し、1 秒につき 10 億以上の両極性の反転を強制する。

不自然な分子を生産することは、避けられない。

オープンでもたらされるマイクロ波の影響で、中毒性のものへの変化が生まれ、同様に天然に存在するアミノ酸は異性体のものに変化するのが見られた。（形の変化と変質）

短期の研究でも、ミルクと野菜を電子レンジで調理したのを食べた個人の血液に、当惑させる重要な変化を発見した

8 人のボランティアは、同じ食糧をいろいろな組み合わせで異なる方法で料理されたものを食べた。

電子レンジを通して処理されたすべての食糧は、ボランティアの血液に変化を生じさせた。

ヘモグロビン濃度が減少した

リンパ球が減少した。

血液のエネルギー的な変化を見つけるために発光バクテリアの（発光）が、使用された。

マイクロウェーブに晒された血清を得るため、電子レンジで調理された食糧を食べた後これらのバクテリアの発光に重要な増加が見られた

世界規模で取引している大きなスイスの食品会社の一つで、長年の間食品科学者として働いた

スイスの医学研究所のハンス・ウルリッヒ・ヘルテル博士がいる。（その人は現在引退している）。

彼は数年前、食糧の特性を奪うとして、処理手順の信頼性を疑ったため彼の仕事から解雇された

1991年に、彼とローザンヌ大学教授は、電子レンジで料理された食糧が従来の手段で料理した食糧より健康に大きな危険をもたらすことを示すリサーチペーパーを発表した。

また、表示された論文は、19の雑誌で発表された

フランツ・ウェーバーのそれは、電子レンジで料理された食糧の摂取は血液に対するガン影響があったと、述べた。

リサーチペーパー自体は、論文に続いて出された。

雑誌の表紙には、死神の手の一つが電子レンジを握っている絵が、描いてあった。

ヘルテル博士は、電子レンジで料理された栄養分が血液に与える影響と人体の生理学を理解し、高度な治験をもたらした最初の科学者であった。

彼の小さいが、よく整理された研究は、電子レンジの中で処理された食糧がもたらす退行性の力を示した。

科学的な結論は、マイクロ波の料理が食糧の栄養分を変えることを示していた;

そして、関係者の血液で起こる変化は人間の生命システムの悪化を引き起こす可能性があった。

ヘルテルの科学的研究は、スイス連邦工科大学技術研究所と生化学大学研究所のバーナードH.ブランク博士と、された。

2〜5日の間隔で、研究のためのボランティアは、空腹時に以下の変形した食品の一つを摂取した:

- (1)生乳;
- (2)、上と同じミルクを従来の方法で、料理したもの;
- (3)上と同じミルクを低温殺菌したもの;
- (4、上と同じ生のミルクを電子レンジで料理したもの;
- (5)有機農場からの生野菜;
- (6)同じこの野菜を、従来の方法で、料理したもの;
- (7)この同じ野菜を凍結して、電子レンジで解凍する;
- (8)そして、この同じ野菜を、電子レンジで料理したもの。

一旦ボランティアは隔離し、ボランティア全員から摂食の直前に血液サンプルがとられた。

上のミルクまたは植物性標本を摂食した後、正確に定められた間隔で、血液サンプルがとられた。

電子レンジで料理された食糧を摂食したあと重要な変化が、起こっていることが、血液サンプルで発見された。

これらの変化には、すべてにヘモグロビン数の減少が含まれていた

そして、コレステロール数値、特にHDL(善玉コレステロール)とLDL(悪玉コレステロール)数値の比率を悪化させた。

他のすべての変形した食品の摂取の後よりも、電子レンジで調理された食糧の摂取のあとは、リンパ球(白血球)はより明確に短期減少を示した、

これらの各々の指標は退化を示している。。

その上、テスト食糧にあてたマイクロ波エネルギーの量とその食糧を食べてテストした人からの血清に表れる発光細菌の発光するパワーの間に非常に有意な関係が、あった。

これは、ヘルテル博士を本当に、電子レンジで調理された食糧を食べることを通してその技術による派生エネルギーが、帰納的に人に通り過ぎるかもしれないという結論に導いた。

ヘルテル博士によると、

「白血球増多症(それは通常の毎日の逸脱と考えることができない)は、hematologists血液学者によって非常にまじめにとられている。

白血球は、しばしば生体系に対する病原性の影響を示す。(例えば細胞障害のダメージ)

すべての他の変形より電子レンジで調理された食品の摂取による白血球の増加は、多くあったと断言した。

これらの著しい増加が電子レンジで料理された食品を摂取することで完全に生じたことが示される。

論文でこのプロセスは物質的な仕組みに基づいて、すでに確認されている。

見た目の発光細菌によって示されたエネルギーの追加は、単に特別な確証だけであった。

直接のマイクロ波照射によって生体系におこる危険な影響に関する広範囲な科学文献が、ある。

したがって、電子レンジのこの有害な技術のもつ多くの性質を、新しいテクノロジーと入れ替える努力がなぜされなかったか認識することは驚くべきことである

電子レンジの技術は、交流の仕組みに基づく。

この激しい電磁放射線によって直撃される原子、分子と細胞は、1秒につき10億~1000億回、両極性を入れ替えることを強制される。

そのような短時間の間の狂暴な破壊的な電力に有機システムの原子、分子または細胞は耐えることができず、数ミリワットの低いエネルギーの範囲でしかこれらは耐えられない。

すべての自然な物質のうち水分子の酸素は極性があり、最も敏感に反応する。

これは、マイクロ波で料理する時、この暴力的な摩擦で水分子に熱が発生しているだろう。

分子の組織はバラバラにされ、分子は力強く変形して、構造異性体となり品質がそこなわれる。

内部への対流で熱が移転することはなく、従来の食品への加熱と反対に内部から加熱される。

電子レンジでの料理は、細胞と分子の内部に水が存在するところにエネルギーが注入され摩擦熱に変わるところから始まる。



熱による効果と呼ばれ、ひどい摩擦熱効果に加えて、めったに考慮されていないが、熱を持たないアテロミックな効果athermic effectsも、ある。

これらのアテロミック効果は普通は重要ではないが、これは分子の組織を変形させることもでき、質的な変化が起こることもある。

たとえば、電子レンジで細胞膜を弱める技術は、遺伝子変換分野で使用されている。

その力のため、細胞は壊される、

それによって細胞膜の外と内部の側の間の電位の効力を消す(細胞の命そのもの)

傷ついた細胞は、ウイルス、菌類と他の微生物のための格好の餌食になる。

自然な修復機構は抑圧される、そして、細胞はこの非常事態のなかでエネルギーの状態を改造することを強制される—彼らは酸素を使用することから無酸素の呼吸へ切り替わる。

水と二酸化炭素の代わりに、細胞毒である過酸化水素と一酸化炭素が、もたらされる。」

我々がレーダーまたは電子レンジに直接さらされるとき、体に起こる狂暴な変形はまた、電子レンジで料理される食品の分子でも同じように起こる。

この放射は、食品分子の破壊と変形させる。

また、電子レンジで調理することで、新しい混合物がつくられる。それはラジオ波で溶けだした混合物と呼ばれる。そして、それは自然では見られない未知の融合である。

ラジオ波で—放射の直接的な結果としての崩壊から溶けてた混合物が分子分解によってつくられる—。

電子レンジ・メーカーは、焼かれるかボイルされたりする他の従来通りの方法で料理された食糧よりも電子レンジで刺激され調理された食糧には、高いラジオ波で溶け出た混合物はないと主張する。

ここで示される科学的な臨床所見は、簡単にこれが嘘であることを示した。

アメリカでは、大学でも連邦国家でも、電子レンジで調理された食糧を食べることによる我々の体に対する影響に関するいかなるテストも行われなかった。

それは、少し奇妙でないか？

電子レンジの上のドアがきちんと閉められないと、生じることに関する多くの研究がある。

もう一度、常識は彼らの注意が電子レンジの中に料理される食糧に生じることに集中すべきであると我々に告げる。

人々がこの変質した食糧を摂取すると、同じ様に見えて崩壊した分子がどのように我々自身の人間の生物学的細胞構造に影響するか懸念すべきでないか？

ヘルテル博士とブランクが彼らの結果を発表するとすぐに、工業界は真実を隠すために動いた。そして、当局が反応した。

FEAとして知られる強力な影響力もつ商取引管理組織、スイスの家庭と工業のための電子装置のための商取引協会は、1992年にすばやく攻撃した。

ヘルテルとブランク博士に対して「報道禁止令」を発行することを、(ベルン州) Seftigenの裁判所の長官は強制した。

1993年3月に、ヘルテル博士は「商業に干渉した」ため有罪判決を下され、全く彼の結果を発表するこ

とを禁じられた。

しかし、ヘルテル博士は立ちあがった。そして、彼は長年にわたってこの決定と、戦った。

最近、この決定は、1998年8月25日にストラスブール(オーストリア)に届けられた判定で取り下げられた。

ヨーロッパの人権裁判所は、それを認め1993年ヘルテルの権利への侵害が決定された。

ヨーロッパ人権裁判所も、1992年にスイスの裁判所によってヘルテル博士に対して発行された「報道禁止令」で、彼が電子レンジが人の健康に危険であると断言するのを禁じたことは、表現の自由の権利に反することであったと決定した。

そのうえ、スイスはヘルテル博士に補償の支払い命令した。

Litaリー博士の本である「マイクロ波放射の健康への影響」で電子レンジで料理された食糧は発癌物質を含む一、そして、1991年3月と9月「Earthletter」の、彼女の記事で、あらゆる電子レンジは電磁気放射を漏らして、その中で料理される食糧を害して、器官に有毒で危険な発癌性物質に内容を変えると明言した。

完全に、本稿で要約した研究は、電子レンジが以前想像されたものより、有害なことを明らかにする。

以下は、オレゴン州ポートランドのアトランティスライジング教育センターによって発表されたロシアの調査の概要である。

テストされたすべての食糧で実質的に発癌物質が、あった。

テストのための食糧は衛生上の摂取を保証するための料理、融解または加熱といった、目的を達成するのに必要である以上に、マイクロウェーブで調理をしないようにした。

この、結果の概要は、これである：

*衛生上の摂取を保証するために十分に加工肉食品を電子レンジで料理することで、

d-Nitrosodienthanolaminesニトロスアミン？(有名な発癌物質)の形成を生じた。

電子レンジでミルクと穀物を料理すると、これらのアミノ酸のいくつかを発癌物質に変えた。

凍結された果物を解凍すると、これらのグルコシドを癌原性物質を一部分を含んでいるガラクトシドに変えた。

生か、料理されたもの、凍結された野菜に、とても短く曝露しても、彼らの植物のアルカロイドを発癌物質に変えた。

電子レンジで料理された植物(特に根菜類)に、発癌性のフリーラジカルが生まれた。

食糧を指導しているロシアの研究者も検査によって著しい構造退廃の加速によって、栄養価値で合計60~90%減少することを伝えた。

変化を観察する間:ビタミンB複合体、アスコルビン酸、ビタミンE、といった重要なミネラルの生体有用性を殺した

そして、テストされたすべての食糧におけるビタミンB複合体、アスコルビン酸、ビタミンE、重要なものミネラルと脂肪親和性の要素といった生体有用性を破壊した

いろいろな種類、の多数の植物物質例えばアルカロイド、グルコシド、ガラクトシドとニトリロサイドに損害を与えた

そして肉の中の核タンパク質の分解。

マイクロ波の病気は、ロシア共和国の何千もの 1950 年代にレーダーを開発する間、マイクロウェーブにさらされた労働者の研究で発見された、

彼らの研究は、とても深刻な健康問題を明らかにし、ロシア共和国の一般の研究者に 10 マイクロワット、市民のために 1 マイクロワットの曝露といった、厳しい範囲を設定した。

ロバート・O・ベッカーの本(ボディエレクトロニクス)で、彼はマイクロ波放射の健康への影響のロシアの研究を説明した、彼らはそれを「極超短波病」と呼ぶ。314 ページ

ベッカーは述べた:最初の症状は、低血圧と緩脈である。後での最も一般的な症状は、交感神経系の[負荷症状群]と高血圧の慢性励起である。

これは、しばしばまた、段階的に、頭痛、めまい、眼の痛み、不眠、短気、不安、胃痛、神経質な緊張、集中することができないこと、脱毛さらに虫垂炎、白内障、生殖の問題と増大したガンの発病率が含まれる。

慢性症状の後に、結局副腎の消耗と虚血性心臓疾患の危機が続く。[冠状動脈のブロックと心臓発作]」

リー博士によると、電子レンジで調理された食品の消費者の間に、血液化学での変化と信頼できる発病率が観察された。

下で示された観察で、上の徴候は、簡単にみることができた。

以下は、これらの変化のサンプルである:

リンパの障害が観察された。そして、信頼できる種類のガンを阻止する能力の減少につながった。

癌細胞構造の率の増大は、血液で観察された。

胃と腸癌の増大率が、観察された。

消化障害のより高い率と除去システムの段階的な崩壊が、観察された。

マイクロ波研究の結論

以下は、ドイツとロシアの電子レンジの生体への影響:の研究で最も重要なものであった

ベルリンのHumbolt-Universität zu (1942~1943)で、軍事バルバロッサ作戦の間、ドイツ人によって最初の研究が行なわれた;

そして、ロシアの研究はKinsk(ベラルーシの自治区)のラジオ技術研究所と、ソビエト社会主義共和国のRossiskaja自治区のRajasthanのラジオ技術研究所の、両方の連合で1957年から、今に至るまで[冷戦の終わりまで]行なわれた:

に、研究分析のために使用される食物は、ほとんどの場合、衛生上、通常の摂取で許容可能であると思われる、100 キロワット/cm³/毎秒のエネルギー・ポテンシャルで、マイクロ波に晒された。

ドイツ人とロシア人の両方の研究者によって 3 つのカテゴリーで示す影響が注意された:

- * カテゴリーI、発癌性の影響
- * カテゴリーII、食物の栄養の破壊

* カテゴリーIII、曝露の生体への影響

カテゴリーI

発癌性の影響

[カテゴリーIの1と2の二点は、我々のレポート・コピーでは読めない。

レポートの残りは、無傷で次のように読めた。]

3. 大気の放射能の「影響」で(食物の α と β 粒子の飽和量は著しく増加する);
4. 蛋白質加水分解物の成分の中にガンの原因となる成分の発生
*ミルクと穀物の自然なタンパク質は、加水によって不自然な断片に分裂する]
5. 食物の成分の-内容の変更(電子レンジで照射を受けた食物の不安定なcatabolism*[代謝性の衰弱プロセス])によって消化系に障害を生じさせる);
6. 食物内容の内部の化学変化のために、リンパ系[吸収力の導管]に故障が観察され、体の免疫性の退化が生じ、確実に新生成物への防御力を退化させる。[組織の異常成長]となる;
7. 電子レンジで調理された食糧の摂取は、血清の中に[細胞腫 — 肉腫のような細胞腫瘍]、癌細胞の高いパーセンテージを生じさせる;
8. このように解凍されるとき、マイクロ波放出は凍結された果物の中のグルコシド[加水分解されたブドウ糖]とガラクトシド[酸化されたアルコール]成分の異化作用に変化[代謝性の衰弱作用]が生じた;
9. マイクロ波放出で、生の物を、料理するか、冷凍野菜がとても短い期間晒された時;
植物アルカロイドが作用した[有機窒素が、栄養素の基礎を形成した]異化作用に変更を生じさせた[代謝が衰弱する]
- 10.

これらの植物物質の中にある、特定の、生の根菜類のミネラルの分子形態にガンを生じさせるフリーラジカル[不完全な非常に反応性の強い分子]の確かな痕跡があった;

そして、

11. 電子レンジで調理された食物は消化機能と排出システムの段階的な分析によると、統計学的に高いパーセンテージで、人の胃と腸にがん腫を生じさせている(周辺細胞組織の一般退化と同様に)

カテゴリーII

栄養価の減少

マイクロ波曝露は、研究されるすべての食物の栄養価の重要な減少を生じさせた。

以下の事は、最も重要な調査結果である:

1. すべての食糧のビタミンB群と、ビタミンC、ビタミンE、重要なミネラルと食物の中にあるリポトロピンlipotropicsと、生体の力の減少;[体の栄養素を利用する能力]
2. すべての食品をテストすると、不可欠なエネルギー・フィールド内容の 60-90%の損失があった;
3. 有機窒素が、成分の基礎を形成しているアルカロイド、グルコシドとガラクトシドとニトリロイドの代謝作用と統合工程能力の縮小;
4. 肉の核蛋白質の栄養価の破壊;

5. すべての食物の構造の崩壊の著しい加速。

カテゴリーIII

曝露の生体への影響

マイクロ波放出への曝露は、人間の一般的な生物学的基礎に対する予測がつかないほど否定的な影響があった。

ロシア共和国の科学者が非常に精巧な機器で実験して、電子レンジで料理された食物の具体的な内容を発見するまで人間がこれを摂取するべきではないということは発見されなかった：

そのような電子レンジの装置による生体energy-field自体への曝露が、十分そのような副作用を生じさせるので 1976 年にソビエト州法によって使用が禁じられた。

以下のものは、列挙された影響である：

1. 電子レンジに晒された人間の「生命エネルギー・フィールド」の分析の間、長い期間、副作用が人間のエネルギー・フィールドにあった；
2. 装置を使用するプロセスの間、細胞電圧の退化（特に血液とリンパのエリアで）；
3. 外部からのエネルギーによる退化と不安定化は、人間の代謝のプロセス内で、対抗するために食物利用のポテンシャルを活性化した；
4. 内部細胞膜電位間の退化と不安定化は消化プロセスから血清に異化作用のプロセスに移転する；
[代謝性の衰弱]
5. と大脳の接合部電位[思考とより高い機能が属する脳の最前線部分]の中の電気神経インパルスの回路の破壊と退化；
6. 神経電気回路の崩壊と退化は、自律神経系の神経叢[神経中枢]の中心から最前線と後部へののエネルギーのシンメトリーの損失；
- 7.、そして、巡回する上行性網様体賦活系[意識の機能を制御するシステム]の中の生物電気強さの；
バランスの損失
8. 実験器材から 500 メートルの半径の範囲内に位置する人間と動植物の活力への長期累積的效果；
9. 磁気「沈澱物」の長続きする残効は、神経系とリンパ系を通してあった；
10. 男性と女性のホルモンの釣合いの維持の妨害と；ホルモン類の生産の不安定化
11. マイクロ波の放出に晒された人の高いレベルの著しい脳の α 波シータとデルタ波のパターンの障害；
12. この脳波障害のため、記憶喪失と集中力と、感情的な限界値に抑制する能力の損失を含むマイナスの心理的效果が有名だった）、知性の鈍化または、放射する継続的な到達距離にいる個人の統計学的により高いパーセンテージの睡眠の中断の事例はマイクロ波装置とこの装置で料理する際、伝達ステーションの影響と思われる。

法廷での研究の結論

上に列挙された 28 の徴候から、マイクロ波装置の使用は、確かに望ましくない；

そして、1976 年のソビエト国家の決定で、そのような装置の使用に関する多数の国の現在の科学的な

意見は、明らかである。

ランダムな磁気的残存の問題と体の生体システムの中を縛ること // (カテゴリーIII:

9)、それは神経病理学的システムに最終的に影響し、主に脳、そして、神経叢(神経中枢)、組織神経電気回路に長期的にマイナスの結果がありえる。

これらの影響が実質的に神経系のいろいろな成分の神経電気完全性に不可逆的損傷を生じさせることができるので、電子レンジで調理された食品の摂取はあらゆる点で明らかに禁忌徴候を示す。(参照 R.ルーリア、1975 年aノボシビルスク)

伝達ステーションとテレビ・リレーネットワークからの人工的に誘発された無線周波数のマイクロ波の場によって生まれるこれらの磁気残効は、心理的に脳のpsychoneural心理神経的なレセプター成分に影響を多く与えることができる

精神への遠隔測定法の影響(振動数をコントロールして伝達された無線信号によって人間行動に影響する能力)の理論的な可能性はUralyeraとノボシビルスク(ルーリアとペーロフ、1974a、1975c、1976a)でソビエト神経精神的な研究によって示唆された。、それらはマイクロ波装置によって、非自発的な意識下に、精神的なエネルギーを生じさせることがありえる。

法廷に用意された研究文書:

William P. Kopp ウィリアム P.コップ

A.R. E. C.リサーチオペレーション

TO61-7R10/10-77F05 開発優先順位:

クラスI RO01a

あなたの電子レンジを放り投げる 10 の理由

スイスと、ロシアと、ドイツの科学的な治験の終結から、我々は我々の台所に置かれている電子レンジをもはや無視することができない。

- 1)。頻繁に電子レンジで処理された食品を食べることは、脳を電氣的インパルスのショートによって脳損傷を長期的にー永久的にー生じさせる[脳組織を減極するか、消磁する]。
- 2)。人体は、電子レンジで料理された食糧でつくられる未知の副産物を新陳代謝させることができない[低下させ壊す]。
- 3)。性ホルモンの生産は停止する／または頻繁に電子レンジで料理された食品を食べることで変わる。
- 4)。電子レンジで料理された食糧副産物の影響は、人体の中に残る[長期間または、永久的に]。
- 5)。ミネラル(ビタミン)、そして、電子レンジで料理される食品のすべての栄養分は減少しまたは変えられ、人体には、ほとんど利益を得ない、または人体が、本来壊れ低下するはずがない変化した混合物を吸収する。

- 6)。電子レンジで料理されるとき、野菜の中のミネラルはガン・フリーラジカルに変えられる。
- 7)。電子レンジで料理された食糧は、胃と腸のがん腫[腫瘍]を生じさせる。
これは、アメリカで結腸がんの急速な増大率を説明するかもしれない。
- 8)。電子レンジで料理された食品の長引く摂食は、人の血液に増大する癌細胞を生じさせる。
- 9)。電子レンジで料理された食品の継続的な摂取は、リンパ腺と血清変更を通して免疫系不足を生じさせる。
- 10)。電子レンジで料理された食品を食べることは、知性の記憶喪失、集中、感情的な不安定性と減少を生じさせる。

もうあなたの電子レンジを捨てたか？

電子レンジを投げ捨てても、代替物としてトースター・オーブンを使用することができる。

それはほぼよく作動して、速い。

参照文：

電子レンジの証明された危険性——ネキサス誌'95 年 4 月～5 月

<http://www.mercola.com/article/microwave/hazards2.htm>

A・ウェインとローレンス・ニウエルによってマイクロ波による料理の隠れた危険

<http://www.mercola.com/article/microwave/hazards2.htm>

電子レンジで「チン」は健康に悪いというのは、本当ですか？

電子レンジを使えば、短時間で加熱調理が可能なため、今や一般家庭の必需品。

料理本や料理番組でも積極的に使うことをすすめています。

確かに「レンジでチン」は簡単、便利。

でも、健康に対して悪影響は？

電磁波もれの危険性？

飲電子レンジは電磁波、マイクロ波を発生させて、食材の水分子を超高速振動(1秒間に 24 億5千万回)させて、周囲原子との摩擦によって加熱調理します。

そこでまず問題になるのが、電磁波の人体に対する影響。

電子レンジに使われているマイクロ波は、人体に当たっても放射線のような発ガンの心配はないとされます。

しかし、部位によっては細胞内のたんぱく質が変性し、白内障などを引き起こす可能性があるほか、まだ完全解明されていない悪影響も心配です。

こうしたことから、調理中にマイクロ波が外に漏れ出さないよう、各メーカーはさまざまな対策を講じており、安全性に問題はないとされます。

しかし、電磁波漏れの危険性がもっとも高い扉前には作動中立たないようにすると、扉は完全停止後開けるなどの注意は、自己防衛策として最低限必要だと私は



思います。

加熱される食物が変化？

超高速振動による摩擦熱での加熱調理では、食品の分子・原子レベルで深刻な破壊活動がおき、栄養素が壊されるばかりでなく、私たちの体内では代謝できない構造に変性するといわれます。

電子レンジ調理は食物に発ガン性物質をつくり出し、いくつかの必須栄養素の変性をもたらすとして、1976年に旧ソビエトは、電子レンジの使用を禁止した経緯があります（安全性が確認されぬまま、ペレストロイカ後[1990年頃]使用はOKに）。

ある研究では、母乳を電子レンジで加熱することで、抗体と酵素の破壊が確認されています。

別の研究では、電子レンジで調理された食品を食べることでの免疫系ダメージを示しています。

ビタミンB12 他、ビタミン類の破壊を示すものもあります。

また、レンジ用製品のパッケージから毒性の強い分子が食物に移る可能性を示唆したものも…。

ヘーテル博士を中心に、スイス連邦技術研究所や大学の生化学研究所の研究グループによる信頼性の高い研究では、電子レンジで調理された食品の血液に対する影響が調べられており、ヘモグロビンの減少（貧血傾向）およびLDL（悪玉）コレステロールの増加が確認されています。

心臓停止兵器と透明人間

Alan Yu によって 08 年/6 月/15 日に書かれた

高周波武器を使うことにより、監視ステーション/システムの透明になった作業者は、人々の家や/事務所、乗り物、その他にひそかに入ることができ、心臓発作を誘発したり、心停止を誘発させて、完全に健康な被害者の「心臓を停止させる」ことができる。

その目標がどんなに若い年齢をとっていても、自然な原因によって死んだように見せることができる。

米国の監視ステーション/システムに関係する警察が高周波兵器を得たあと、死を誘発する技術を使用したこの兵器を使って、目標の人に、心臓発作または心停止（心臓停止）のどちらかを誘発させた。

著者：Alan Yu 編集者：John Yu

著者についての概略

私の名前は、アラン ユー（前台湾国防部の大佐）である。

11 年前、私はアメリカ合衆国に移住した後、私は米国の市民として帰化した。

私の大きな仕事は財務で、科学部門ではない。

私が台湾の軍の幼年学校と経済学部を卒業したとき、私はクラスで 1 番であった。（主席）

私が 1984 年台湾の全国国防総省の大佐であったとき、私は本稿で言及される秘密にされている文書を確認した。その時、私は台湾の軍の予算のための最も地位の高い会計監査センターで働いていた。そして、私の得ていた司法権で、秘密にされたものも、機密扱いでないものも、全ての軍事支出の内容を監査した。

その時、私の毎年の行動評価は「A」であった。そして、私が退職するまで、私は同じ行動評価レベルを保った。私には、兵役 17 年の経験があった。私が退職したとき、私は防衛担当大臣のサインと台湾大統領の「忠誠と献身」の賞を授与された。

今、私はもはや台湾の軍人でなく、米国の、市民として帰化し、長くたっていたので、私は法的に台湾の軍事機密を議論できる。私は多くの台湾の軍事機密を知っていたが、私は今まで話すことはなかった。

このことを、話すのは、この秘密が私の良心に反する行為であるからである。

仕かけられた心臓発作と通常的心臓発作の違いは、何か？

この疑問に答える前に、我々は心臓発作がどのようなものか、わかっている必要がある。

米国医師会の家庭用医療ガイドによると：

動脈の壁の中に凝血が積み重なってブロックされるためらしい。（血栓症として知られる状態）冠状動脈の中の凝血は、心臓からの血液供給を絶たれて、心臓発作を生じさせる。

しかし、通常、心臓発作を起こす前に、最初に、本人に冠状動脈疾患が見られるはずである。

冠状動脈疾患がある人は、アンギーナと呼ばれる症状がある。（これは、心臓の筋肉の壁に一時的に酸素が足りなくなるとき、起こる痛みの症状の名称である）

通常、心臓に血液を供給する冠状動脈は増大する酸素の要求に対処できるが、冠状動脈疾患または高血圧があると、この能力は制限される。

アンギーナによる痛み、または緊張の感覚がある。

アンギーナは、通常緊張または感情的な身体的なストレスの間に、起こる。

それは、強い感情を使うか、感じる時、ストレスの多い状況下で、冠状動脈疾患の人の心筋は、狭くなった冠状動脈が可能な量より多くの酸素が必要となり、痛みが出ることを意味する。

医者のアドバイスではアンギーナの患者は通常の運動では心臓発作を生じないことを、性の差には関係がなく患者に伝えている。

つまり、通常の人には心臓発作がおきる前に、高血圧とアンギーナの徴候があるべきである。

どのような心臓発作が、人工的な心臓発作なのか？

高血圧とアンギーナの事前の徴候と、心臓発作が 1 つもないならば、明らかに「人工的な心臓発作」である。

家、事務所/仕事場、自動車、その他至る所で、犠牲者に心臓発作をいつでも誘発できるものなのだろうか？

その答えは、ステーション/システムが監視している透明な作業者だけが可能である。

今、それを詳細に説明したい。

1979 年 4 月 2 日/のワシントン・ポストが伝えるところによると、1950 年代から OSS 戦略サービスオフィス（第二次世界大戦後の C I A の前身）は彼らの目標の人を暗殺するために、例えば心臓発作、ガンで病死したように見えるようにして倒す方法を研究してきた。

「C I A は、アメリカの指導者がガンと心臓発作のような『自然な原因』に見える方法で、暗殺されることにたいする脆弱さについて、懸念を抱き、明確な、日付指定もなく、サインもない指令でプロジェクトを始めた。

(情報源ワシントン・ポスト、79 年/4/2 日の記事——「『自然な原因』による暗殺—CIA は人為的に死亡を誘発させる技術を警戒している」)

=====

昨日冷戦の頂点で、中央情報局はガンと心臓発作のような「自然な原因」で重要な人物を暗殺する方法を研究したことが、明らかにされた。

4 半世紀前（1952 年）から検閲され封印されてきた CIA 文書は、機関が合法的な医療行為の下で末期がん患者で実験を行ってきたことを明らかにした。

この C I A プロジェクトは、明確な、日付指定もなく、サインもない指令で始められ、メモは「自然な原因による米国の指導者の暗殺に対する脆弱さ」に懸念を抱いている OSS 戦略サービスオフィス（C I A の第二次世界大戦前任者）による研究に言及した。

封印されてきた文書は「重要な人々を暗殺する際に」と言い、「どのように重要な人々を、自然な原因に見せかけて暗殺するかについて書いている」、....

次に関係する文書は、1952 年 2 月 4 日の（「化学部門、研究とその展開」からのメモと下書き）である。

文書は、「生理的活性物質の化学的混合物などの、使用の可能性についての医学研究を、

研究室で行なっていたことを伝えた。

それは「合法的な医学研究として行なわれ、人間への使用問題の研究に、利用した」と、言った。

「広範囲な動物の機能の研究が他の目的の研究のために、使用された..」

=====

これらの死を誘発させる方法（癌のようにむしばんでゆく攻撃）には、当初化学製品の使用が含まれていた。

しかし薬物の使用はどんな検死でもほぼすべて明らかになるので、これを避けるために、彼らは薬を使用する機会は特別に限定する必要があった。

その意味でこの方法は、使用機会が限られていた。

1960年代になると、アメリカは電磁波振動放射兵器を発展させた。

それ以来、CIA の暗殺者は、彼らの犠牲者に心臓発作をおこさせるため電磁振動放射兵器を使用することになった..

これはより便利で、化学製品の使用が発見されるのを避けることができる。

(情報源)「驚くべき武器」ダグラス・パステルナーク、米国のニュースと世界のレポート (1997年7月7日) による

=====

1987年（冷戦 ペンタゴン出版部）の発行する「ソビエトの軍事力」という記事は、ソビエトに、「プロトタイプの、短距離戦術用〔無線 RF 周波数〕兵器」、があるかもしれないことを警告している。ワシントン・ポストはその年、ソビエトが1キロメートルの範囲内のヤギを殺害するそのような兵器の準備をしていると伝えた。

ペンタゴンは、1960年代からこれに類似した装置を追求していたことが、わかる。

=====

最初に、誰が犠牲者に心臓発作を引き起こすことが可能か見よう？

1 つは明らかに、手術室の外科医はそれを生じさせるために患者の心臓の血流を止める機会がある。2 つ目は、透明化し見えなくなった人が電磁波振動放射兵器を使用しそれを生じさせたとも考えられる。

しかし、病院の手術室で患者に心臓発作を誘発するのは、こうしたことの知識がない外科医には、できない。

多数の医療スタッフが常に手術室にいたので、それはできない。

2 番目の方法は、監視ステーション/システムの一員であるエージェントと警察が心臓発作を誘発して、殺害したいと望む目標の人が家/仕事場、車、ボート、飛行機、その他様々な場所にいるときも、問題なしにすぐに可能である。彼らは、透明化した工作員が、そのようなタイプの暗殺者/殺人者として利用できる。

透明化の技術とは、何か？

前の台湾大統領蒋介石の内部情報によると、第2次大戦の間に検証されたフィラデルフィ

ア実験の透明化の技術は、発展し、第2次大戦後の年に米国海軍は、その技術を人間で使
用した。

この透明化の技術は、（それは電磁界（EMF）でつくられる）非常に独特な特徴がある。
それは器材を持つ人を見えないようにするだけでなく、浮揚して（無重力の中の宇宙飛行
士のように浮き）、彼を小さなアリと同じくらいに小さくする。（同じことが、器材にも
生じる）

面白いことに、これらの科学者には、人がなぜ電磁界で小さくなるか、わかっていない。
人間と彼の器材は、透明化の技術によって小さくすることが出来るが、戦闘場面ではほと
んど使えないので、この能力は軍隊に採用されなかった。

透明化の技術は、その後、監視目的用に改造された。

1950年代には、それは台湾へ移転された。

各々の小さい見えない作員は、空中を浮揚している間、彼の行動をコントロールするた
めに背中に推進力装置を着けて、小さな飛べるアリのような役割をすることが可能であ
る。

このサイコトロニック兵器（別名非殺人武器）、と、マインドマシンの能力を徹底的に拡
張することによって、これらの小さな見えない作員は、飛ぶことができるだけでなく彼
らの目標とした人の心を読み、しかも、病気と/死を誘導する技術を使って、見知らぬ目標
とする人の健康と/命を不当に支配することもできると、言う。

目標の活動を操るマインドコントロール装置を使いながら、透明化した小さい作員は穏
やかに人々の頭の上を飛ぶことができ、マインドコントロール装置を使い、ELF波を放射
し、「思考」を目標の心に注入することができる。

ELF波は人間の脳波と同じ振動数なので、見知らぬ、目標の人は移植された「思考」がほ
とんど自分のものと思って、結局透明化した作員が望む何かをすることとなる。

これは、彼らのマインドコントロールの方法である。

要約すると、彼らの犠牲者についての知識もほとんどなしに、透明化した作員は目標の
頭脳/と体を操作することができ、犠牲者の体のどんな器官の近くにでも照準を当てるこ
とができ、彼を病気にするか、死ぬよう仕向けることもできる。

この不法な生命支配システムの設定は、無神論、実利主義と唯物論の共産主義に基づいて
いる。なぜこうなったかという、台湾の不法な秘密の支配が良い例である。

詳細にこれを説明していこう。

将経国は、台湾の情報部の責任者で1950年代の実質的な秘密国家公安庁長官であった。以
前ソビエト連邦にいた日々の間、共産主義者であったが、将経国はその後依然として無
神論と、唯物論の信奉者で、共産主義の信条にしがみついていた。

彼は人間には魂も神もなく物質以外に存在しないと純粋に信じていた。

彼にはこの人生の決定要因として、死後の罰とか、報いといった概念はなかった。

彼の共産主義の無神論の信念で、共産主義のイデオロギーに基づいて個人所有せず、分配

できるように、人々の生活を監視してきた。

このイデオロギーに基づいて、透明化出来る工作人員によって、不法な利益を追い求め、これらの透明化出来る工作人員は、みんなの健康をもてあそび、誰でも殺害した。

1950 年代にかなりの権力をもつ無神論者の将経国は、台湾で、透明化出来る工作人員がサイコトロニックの兵器と、病気と死に誘導する技術を使って、不法な命の支配監視システムを創れば、何か悪いことを行っても問題がないと感じていた。

また、将経国は不法な命の支配力が暴露されることを防止し確保するために、共産主義社会のように人々が、互いをスパイする必要があると信じていた。

あると信じていた。

このように、彼の透明化出来る見えない情報部員はまた、あらゆる分野からの情報部員と協力者をリクルートし強化した。その中で、精神と/命を支配するよう命令してきた。

(例えば銀行システム、病院システム、司法省/法廷制度、教育制度、輸送交通システム、ビジネス、資金の融資と保険制度(食品市場)ホテル/レストラン、全宗教、心霊研究、その他から) 将経国は、他の全ての台湾の当局、彼の父である蒋介石大統領を含めて、副大統領、首相、そして、彼自身の兄弟である将偉国) からさえも、透明化の技術の機密と不当な生命支配の機密を守った。他にそれを知っていた台湾の人は、直接それに関与していた透明化出来る工作人員自身とその当局であった。台湾の透明化した工作人員は、監視と不法な命の支配力の下で台湾の大統領、重要な官僚、重要な一般人、その他を含む全ての重要な要人を守った、



蒋経国 Chiang Ching-Kuo

蒋 経国(しょう けいこく、1910 年 4 月 27 日 - 1988 年 1 月 13 日)は、字は**建豊**であり、浙江省寧波市奉化県の出身。父は蒋介石。墓所は桃園県頭寮。

1922 年、上海で学生生活を送るようになり、[呉稚暉](#)の影響を受け、1925 年の五卅運動に積極的に関与している。その後、父・蒋介石と対立し、中国共産党に入党する。同年 10 月には本格的な共産主義者になるべく、ソビエト連邦のモスクワ中山大学に留学し、1927 年に卒業している。留学中にロシア名 **ニコライ・ウラジーミロヴィチ・エリザロフ**(Николай Владимирович Елизаров)を与えられ、ソビエト共産党にも正式に入党する(後にこれらの経験から政治将校などといった共産主義のノウハウを取り入れた)。若年時にソ連留学を経験、共産主義にかぶれて父と対立するが西安事件後に帰国・和解。以後父を主に内政面から支える。中華民国の政治家。中華民国第 6 任・第 7 任(第 6 期・第 7 期)総統、中国国民党中央委員会主席、中華民国行政院長、国防部長総政治作戰部主任等を歴任した。1978 年に総統に就任。以後、開発独裁者としての施政を行う一方、李登輝らを登用したり戒厳令を解除するなど(それまでの外省人独裁に代わる)民主化路線の準備も行っている。



蔣緯国

1960年代に蔣経国が大統領蒋介石から多くの権力を奪おうとして彼らは、大統領のひざを痛めるためサイコロトニックの武器と鍼の知識を使った。
この身体的な不具合は、大統領から彼の息子への権力の移動の速度を上げさせた。

蔣緯国チャン Wei-クオは蒋介石の次男である。本人は蒋介石の養子であることを否定していたが、晩年に著した自伝『千山独行：蔣緯国的人生之旅』の中で、生父は孫文のアシスタント戴季陶=戴天仇であり、母親は日本で看護師をしていた重松金子であることを認めている。日本の相手の女性に生活費を送ることもできず、孫文の盟友である梅屋庄吉に力添えを求める手紙を送っている。

大統領蒋介石だけは、透明化の技術に気づいた。

透明化した工作員が蒋介石のひざを痛めつけたあと、忠実な情報機関の諜報員がこのことをひそかに蒋介石に知らせた。

(私のウェブサイトのパート2-Aに関する詳細を見なさい)

台湾の不法な生命支配監視システムが凶悪だったので一般人からそれを隠したがっていた。たぶんそれは米国でも同じように凶悪であったので隠したがっていた：

(a) これらのテクノロジーは、実地試験のため米国によって台湾へ移転された。

(b) 不当な生命支配コントロールは、透明化可能な工作員による国際的な陰謀である：

これらの透明化した工作員は、数十年にわたって不法な国際的生活支配組織を確立するために、外国のエージェントと警察にひそかに協力してきた。

(c) 透明化可能な工作員は外国のエージェントの不法な利益を追い続け、彼ら自身の国を裏切る

(事故を装った症例の証拠が報告されている)



「革命をプロデュースした日本人」

この本の著者(小坂文乃)は実家が松本楼ということで、梅屋庄吉の曾孫にあたる人らしい。胡锦涛が松本楼に来たときも接待したそうなのだが、あの10円カレーの店は孫文の縁もあって、著者(小坂文乃)の両親も宋慶齡基金会に加わるなど一貫して「友好人士」だったらしい。そうすると松本楼失火の原因も何か裏がありそうな気もしてくるのだが、現在松本楼常務の著者(小坂文乃)がそんな野暮な話をするはずもない。梅屋が戴季陶の隠し子である**蔣緯国**を一時引き取っていたことは書かれているが、孫文の隠し子については完全無視。孫文と宋慶齡の結婚を取り持ったのが梅屋庄吉であることを鑑みれば当然か。孫文と慶齡のコイバナに次いで、もう一つの恋の物語として、柳原白蓮と宮崎龍介のコイバナも。これは宮崎滔天繋がりだが、庄吉は白蓮の離婚訴訟に手を貸し、千葉の別荘で白蓮に「花嫁修業」させてたという。この本は基本的には曾孫が描く評伝なので、梅屋庄吉はスケールの大きい偉人とされるのは当然なのだが、香港やシンガポールで事業を成功させ、日本の映画産業も主導した手腕は孫文に負けず劣らずの豪傑と言っても過言ではなかろう。しかし、今の日本には中国の反体制活動家を支援しようという肝の据わった大人はいないのかね。

<http://members.aol.com/alanyu5/part3a1.htm> で)

そして、彼らは血縁者を裏切る。（例えば、蒋介石は将経国の見えない情報部員によって傷つけられた）

また、次のような論文が、ある

「透明化の技術は、米国で使われた」

、<http://members.aol.com/colonelvu/part1b1.htm> を見る）。

Third, before the CIA death inducing research project

3 番目の、心臓発作とガンを含む以前の CIA の死の誘導の研究。

「米国のリーダーの自然な原因による暗殺に対する脆弱さについて懸念を抱いたこのプロジェクトの内部関係者は、サインがない指示メモを使って研究を始めた
なぜか？

このような死を誘発させる方法は、プロの射撃者が銃で目標を殺害するため訓練するといった、従来のやり方ではない。

従来の方法は、殺人事件として容疑者が公然と追求される。

しかし、この新しい暗殺方法は目標の人物にひそかに死を誘発させるよう、透明化した工作員が静かなサイコロトニックな兵器と共鳴と電磁放射線の兵器を使って実行する。

これらの犠牲者は、常に自然な原因で死んだとされる。

なぜ、誤ってこれらの殺人の被害者は、病死したとされるのか？

3 つの理由がある：

(a) 透明化した小さい工作員の殺人事件の犯人は、侵入した痕跡を残さない：

透明化した小さい工作員は目標の家/官庁、自動車、その他にひそかに入ることができ、電氣的なシステムへのちょっとした変化、または小さな穴だけが残るだけで、侵入した痕跡を残さない。

(b) 透明化した小さい工作員の殺人者は、犠牲者の体の上に外傷の痕跡を残さない：

Psy 兵器（例えば電磁波振動放射兵器、超低周波不可聴音）は目標を殺害して、犠牲者の体に外部からの傷跡を残さない。

(c). 透明化した工作員の殺人は、争った跡、抵抗の痕跡を残さない：

何も知らない目標となった人は彼の痛みが、透明化した工作員によって生じたことを知らないで、攻撃と、争った跡、抵抗の痕跡を残さない。

これらのテクノロジーを知らない検死官は、上の 3 つの理由に基づいて、たとえ死因が明らかで犠牲者の全体的な健康度とは矛盾していても、犠牲者が病死したと結論を出すだけである。

たとえば最近では、ポール・カバデール上院議員は健康問題が伝えられることなどなかった。彼は脳溢血の誘導技術で殺された。（詳細は II-C3 に書いた。）

犠牲者の一部の関係者は犠牲者が自然な原因で死んだとは思えなかった。ただ関係している警察はこれらの犠牲者の死亡結果を 3 つの理由で自然な原因によるものと決定した。（侵

入者の痕跡、争った跡と外傷の痕跡がないという所見で)

彼らはこれらの場合に見るように、簡単に殺人が透明化した工作人員によって犯されたことを隠蔽し封印できた。

たとえば、これまで心臓疾患などないウェーコー訴訟の健康な 41 才の鑑定人であるカルロス Ghigliotti 氏は、心臓発作の誘発技術で殺された。(詳細はパート 2・C4 を見る)

明らかに、対象の人物を巧妙に死亡させる研究をしている CIA インサイダーは、透明化の技術と psy 武器の効力を、良く理解している。

また、CIA インサイダーは不可視性テクノロジーと透明化した工作人員が最高機密を守ることを知っており、そして、大部分の米国の指導者は、こうしたことについての知識がない。

このインサイダーは、米国のリーダーが「ナチュラルな病気が原因に見せかけて暗殺されることへの防衛が脆弱なことに懸念を抱き、起こるかもしれない事件を予測した。

明らかに、この種の暗殺において(知事ロートン・チャイルズの症例のように)検死官(または病院の医者)は誤って簡単に被害者は病気が原因で死んだものと、疑わない。

また、犠牲者が一般人だったり、犠牲者の親族が検死を要請しないならば、地元の関係する警察の透明化が可能な工作人員は病気で押し通すだろう。

上の 3 つの理由に基づいて、(侵入者と、怪我と争った形跡の証拠がないことで)警察は単にこれらの犠牲者の死亡が自然な病気が原因だったものと判断する。

このように透明化した工作人員は、警戒していない米国の公務員とリーダーを、この技術でひそかに死に誘導し、暗殺するのに悪用できる。そして、犠牲者の死は病死のように見える。

これらの事件の真相は、「自然な原因」による米国のリーダーの暗殺に対する脆弱さについての、CIA インサイダーの予想と懸念に合致していた。

残念なことに裁判官の暗殺と、フロリダ市長チャイルズ・ロートンの暗殺とポール・カバデール上院議員の、ケースが伝えることを比較すると、上のインサイダーの恐れと懸念は、真実だった。(詳細は後で、C3 と II-C2 に見る)

透明化した工作人員が目標の人物を、まるで自然に死んだように、死に誘導して暗殺する多数の異なる技術があると私が指摘しなければ、大部分の警戒心のないアメリカ人は真実を決して知らない。

私はこれらの心臓発作で急死した犠牲者の、機能しなくなった心臓(誘発された心停止)と脳溢血を調査すべきだと、なぜ、言うのか?

過去何 10 年、関係している警察の支配によって、記録する医学的検屍官は、これらの犠牲者の急病と/死亡(突然脳溢血に苦しむか/または急死)の真実の原因を知らなかったか、真実を告げてこなかった。

こうしたことでおそらく、彼らは脳溢血に苦しむ犠牲者の突然の出来事が、自然な病気か原因なのか、または攻撃によるのか決定せず、それを決定しないことで、信頼性も低下し

た。

なぜこういえるのか？

CIA の秘密の死亡誘発技術の研究によって、1950 年代後半から、監視ステーション/システムの透明化した工作員が数十年にわたって彼らの目標とされた犠牲者を心臓発作に誘導可能だった。

また、1965 年から、1970 年まで通して先進防衛研究エージェンシー（DARPA）は他のパンドラというプロジェクトで、脳溢血を誘発することと（脳/血管のバリアに微細な、血液の漏れ出る部分をつくる）、心臓発作を誘発する技術方法を研究した。（心臓機能障害と心停止を誘発する）（詳細は、上の情報源で見られる）

それよって、心停止と脳溢血の誘発技術は、数十年にわたって進歩してきた。

このように、これらの透明化した工作員は数十年の間、多数の犠牲者を（心臓発作、心停止または脳溢血のような病気に誘導したにちがいない。

詳細なケースの報告が私のウェブサイトの B2 のパート 5、B1 の II-C2、C3、C4 で見ることが出来る）

しかし、これまでは、突然の心臓発作、心停止、あるいは、突然脳溢血で死んだすべての犠牲者は、医学的検屍官によって自然な病気が原因で死んだものと決定されてきた。

検屍官の過去の記録をみれば、突然の脳溢血、心臓発作と心停止で苦しんで死んだこれらの犠牲者が殺人であったことは明らかにされてこなかったことは、証明される。

そして、この技術で誘発された脳溢血、心臓発作、心停止、その他で殺害された人々のケースはどれも医学文献記録にはない。

これらの脳溢血、心臓発作または心停止で苦しんだ犠牲者の死亡は過去、数十年はすべて自然な病気が原因とされてきた。

これは、これまで米国で死に誘導する技術を誰も使用したのを見たことがなかったことを意味している。

この事実は、医学界も透明化の技術と、病気/死に誘導する技術の知識がないことを証明する。

あるいは、警察が関係しているので、彼らの中にいるエージェントが真実を告げないようにしてきたことを意味する。（その人たちは、殺人を犯すために透明化の技術を使用していた）

透明化した工作員の殺人犯罪は、そのため、隠蔽が可能だった。

明らかに、関係した多くの医者は、上の 2 つの秘密の研究に参加していた。

しかし、彼らは社会にこれらの病気/死亡に誘導する技術が存在することを言わなかったし、透明化の技術が存在していてもいわない。

これらの真相は、社会から隠すために多数の医者が協力したことを意味する。（それらの医者は、エージェントに含まれていて、警察と結びついて透明化の技術を使用した）

台湾の例と比べて、病院の医者に関係しているエージェントと警察は世論をミスリードさ

せるためにひそかに互いに協力していたことも考えられる。（その人達は、透明化の技術を使用していた）

ジュリアン・マッキニーの書いた「マイクロウェーブのハラスメントと、マインドコントロール実験」（10月/1992年）によるとマインドコントロールまたはミスリードの目標のために医者が多数関与し協力していたことを伝えた。

これらの検屍官の過去の記録を調べると、過去数十年間警察が支配関与し、それは将来証明されるだろうが、彼らはすべての犠牲者の死因が（脳溢血、心臓発作または心停止に苦しむことで生じた死因）が自然な結果だけだったと主張し、判断もしている。

しかし、アメリカ人にこれらの病気/死亡を誘発する技術を過去数十年間、または将来にわたって、決して使用はしないと誰も思わない。

真相は検屍官、そして関係した警察が、脳溢血に苦しむ犠牲者の急死または突然の出来事の真実を知らなかったか、その真実を告げる気がなかったと考えられる。

これら検屍官と関係した警察も真実を知らない、または、真実を告げないことで、彼らは法律の執行者として、信頼性がなくなる。

犠牲者が突然の脳溢血または、心臓発作、あるいは心停止で苦しんだならば、それは自然な原因によるものか、攻撃の結果か、どちらかである。

実は、これらの非殺人兵器のユーザーが含まれている警察とエージェントは、これらの種類のケース（突然の心臓発作、心停止、脳溢血、その他で死んだ人のケース）を調査して、新たに信頼を再建しなければならない。

これらの兵器使用者は psy 武器と透明化の技術で、犠牲者に突然の心臓発作心停止と脳溢血に誘導できるからである。

残念なことに、これまで、彼らはそのような種類のケースを調査し、組織自身を新しく再生させていない。

犠牲者は透明化した工作人員によってこのような技術で死に誘導し殺された。これらの非戦闘用兵器の使用者は自分たちの犯罪を簡単に隠すことができる。

博識なアメリカ人は、心臓発作、心停止か脳溢血、その他で突然死んだこれらの犠牲者のケースを病気/死に誘導する非戦闘用兵器を使用したものではないかと疑い分析しなければならない。死者の病歴、死者の最近の活動、その他に注意して、真相を集めることで、死の本当の原因を確定すべきだ。（それが殺人であれ、そうでなかったとしても）

この分析で、我々は殺人に対する動機を明らかにできる。

ついで、非殺人兵器の能力を分析すれば、病気/死に誘導するテクノロジーでどのように犠牲者が死んだか、犠牲者が何で、殺されたか決定することができる。

他方で、上記のワシントン・ポストが、伝えたように 1950 年代に CIA は、目標とする人に心臓発作で死を誘発する方法についての研究がある。CIA に透明化できる工作人員がいて、かれらに心臓発作とガンによる死を誘発する技術を訓練させたことが考えられる。

台湾からの内部情報はこの情報が真実であることをサポートしている。また、一監視ステ

イション/システムの透明化した工作員（エージェント、警察と情報部員が含まれる）は犠牲者に病気/死を誘発する

さらに、以下のコロラド・ジョン・アレクサンダーの論文もその透明化テクノロジーがこれらのいわゆる非戦闘兵器の使用者にひそかに「マイクロ波の声」を届けることで使用されたことを証明し、見られずにマイクロ波（または電波）兵器をアメリカ人の犠牲者に使用している。

MILITARY REVIEW の 1980 年の有名な記事「新しいメンタルエネルギーの戦場」で、ジョン・アレクサンダーは述べた。

「これらの (psy) 兵器は、使用者にほとんど危険がない状態で対象とする人に病気または死を誘発することができる

サイコトロニック兵器は、静かで、見つけるのが難しく、ただエネルギー源のために人間のオペレーターが必要とされるだけである。

「(詳細は「新しいメンタルエネルギーの戦場 The New Mental Battlefield」を見る
ジョン B.アレクサンダー、MILITARY REVIEW、英国での編集による、1980 年 12 月)
ジョン・アレクサンダーの自身のことばに基づくと、これらの兵器を使用するとき、その
場面で兵器と器材のエネルギー源のために人間のオペレーターが必要だと言う。

このように、犠牲者がいわゆる非戦闘兵器（例えばマイクロ波兵器、超低周波不可聴音兵器、電磁振動放射兵器）で攻撃される時、その犯罪場面でこの兵器を作動させるエネルギーのために人間のオペレーターが必要とされる。

しかし、犠牲者のレポートによるとすべての犠牲者は犯罪場面で兵器を使用するどんなオペレーターも見ないが、「電波によって人影が消される」または「声を聴いた」と訴えている。

(以下の情報源で詳細が、読める)

(情報源) ジュリアン・マッキニー Julianne McKinney, (1992 年 12 月)

「マイクロ波のハラスメントとマインドコントロール実験」

=====

家族の初老の両親と幼児が脅迫の目標になった時のことだ。現在まで、これに似た 8 つのケースが、伝えられている。

その 1 つのケースでは電話での話し合いの間に、地方電力会社の従業員によって子供たちの命を守りたいならば、電力会社の電線架設工事への執拗な反対運動を止めろと告げられた。

脅迫を受けた後、彼女の 11 才の娘は極度の痛みがでた。診断では原因が特定できない病気の治療のために彼女は再度入院することになった。

彼女の 3 才の息子は、外部から声を聴覚に受信するよう誘導されたことは明らかである[マイクロ波による声 — 注アラン Yu

*我々の注目したケースのどれにおいても、F B I は介入要請を拒絶している。"

FBI スポークスマンは、「精神障害のある人」から多数の救援の要請を受けたことを認める。その人達は「電波によって消される」／または「声を聞いた...」と訴えたという

「*地方警察はこうした要請に拒絶的で、介入することができない。

地方警察の傾向は、個人への国家的いやがらせに対する告訴を「フルーツケーキのたわごととして退ける。」上で議論されたあるケースでは、警官がこうしたいやがらせに積極的に協力していることは、明らかである。

=====

マイクロ波声装置を使用して体の内側から声が聞こえたり、マイクロ波兵器（または高周波）を使って姿が消えた人によって暗殺された犠牲者は、なぜ人間のオペレータを見ないのか？

これは、透明化し小さくなる技術を使用して、人間のオペレーターと兵器が見えなくなったからである。

このように多数の犠牲者がこれらの兵器で攻撃されたが、被害者は、これらの透明化した作業者とその兵器を見ることはなかった。

このように、ジョン・アレクサンダーの情報とこれらの犠牲者の経験とは結びつく。

この情報にもとづいて考えると、透明化の技術が地方警官（ローカルステーション/システムに関係した FBI と警察）により用いられたと推測される。

採用された情報部員はそれを実行する際、兵器は、見えないようになっている。

このように、これらの人員は、目標から見られることなく、彼らの兵器（またはマイクロ波音声装置）を目標の人に使用することができる。

こうした事実は、この非戦闘兵器のユーザーにより不可視性テクノロジーが用いられたことを告げている。

しかし、透明化の技術が社会に漏れることを阻止するために、これらの犠牲者は精神障害であるかのように、不正に伝えられている。（上のケースのように）

「マイクロ波情報」1993年11月/12月号が伝えるところに基づくと、

いわゆる非軍事的ワゴン車そして、マインドコントロール装置（超低周波不可聴音、マイクロ波武器、高周波、その他の）を国と地方条例で強制的に確保して、行われていた。

（次の情報源には詳細に報道されている）。

(情報源)

=====

1993年11月、「マイクロ波情報（11月/12月1993）」は、メリーランドのジョンズホプキンス大学物理研究所で3日間の最高機密の非戦闘兵器についての会議が行われたことを伝えている。

会議の主要な目的は、サイコトロニックマインド・コントロール兵器の使用ルールを定めるため、主要な法の執行機関を用意することだった。

会議で取り上げられた問題は、「電磁波振動放射兵器、ハイパワーマイクロ波技術、音響テクノロジー」（犠牲者の頭に意識下の声を送るよう使用する）音声合成（マインドコントロール装置）、ELF、極度の振動数電磁界の非戦闘用兵器への利用」といったことである。ジョン B.アレキサンダー大佐は、ロスアラモス国立研究所の非軍事的防衛プログラム、サイコトロニクス部門のマネージャで、会議議長も務めている。

=====

犠牲者が、地元に関係するFBI捜査官の何人かと透明化の技術をもつ監視ステーション/システムの警察官（大学と関係する警察官を含める）によっていやがらせを受けたとしても、当然警察とFBIからは援助をえられない。

さらに、以下の情報は、透明化した作員と兵士のためにテクノロジーの発展に捧げたジョン・アレクサンダー大佐が伝えたものである。（先進の非戦闘兵器と読心術の技術を含める）（情報源についての詳細は、次を見る）

(情報源)1996年に開かれた国際赤十字シンポジウムのために用意した96年8月3日「専門医学の兵器への影響」というパンフの中のデイビッド G. Guyatt による「対人電磁兵器の諸相」というレポート。

=====

アレキサンダーは私が今まで書いてきたテレパシーを含めて「周辺のな」問題を発表し、将来の兵器の使用基準が出されるべきであるといった論文を軍の審査で本に載せ、概説した。（後で、「強力な戦士」と題した本を共同執筆する）

アレキサンダーは兵士の能力を強化し、超人的な「見えない戦士」になるよう、兵士の成長過程の強化に自らを捧げた。

=====

更なる情報は、上の非殺人兵器のユーザーが透明化の技術を使用したことは本当であることを確認させた。

また、台湾からの内部情報は監視ステーション/システムで透明化の技術が使用されたことが真実であることを証明する。

透明化した作員は、目標に心臓発作か心停止するよう誘導することが、どのようにできるとできるのか？

強力な電磁波振動放射兵器を用いると、目標の心臓がどんなに健康であろうとも、対象が知らない人にでも心臓発作を誘発することができる。

また、犠牲者の心臓を停止させるために電磁振動放射兵器を使用することもできる。

なぜか？

電磁振動放射兵器がとても強力なので、キロメートル範囲にいる目標にした知らない人の

心臓機能を破壊するよう使用することができるからである。(電磁波振動放射兵器の詳細説明を参照)

電磁振動放射兵器とは、何か？

電磁振動放射兵器は、強力な、殺害能力をもつ、高周波兵器である。

強力な電磁振動放射兵器はとても強力で1キロメートルの範囲内にいるヤギを殺害した。このように、犠牲者がどんなに若くても、年をとっていても、この武器は見ず知らずの犠牲者の心臓機能を破壊するために使用することができる。

作戦は、目標とする人が他の者によって守られるのを避けるために、この兵器のことを知らない犠牲者が、一人の時に、殺害するよう準備をする。

この兵器は、気づかれずに自然な病気が原因のように、中高年の市民を公的な場所で殺すことができる。(その人は、今まで心臓疾患はなかった)

なぜ？

誰にも見えない工作員/殺人者は、高周波兵器で武装しているのが見られない。

それゆえ、侵入の証拠も、犠牲者の体に外傷のサインも争った跡の証拠もない。

明らかに、この種の殺人を疑わない検死官(または病院の医者)は誤って、簡単に自然な病気が原因で、犠牲者は死んだとする。

電磁波振動放射兵器は、とても強力である。

心臓疾患がなく全く健康な青年に、突然心臓発作が誘発される。

なぜか？

ソビエトはこの兵器を使用し1キロメートルの範囲内にいるヤギを殺害した。ヤギの心臓がノンストップの攻撃に耐えることができず死んだことで、人間にも高周波兵器できることを証明している。

このようなことを知っている者は、ノンストップ攻撃からの脱出が可能だとしても、用心を何もしていない人は、表面上心臓発作で殺害される。(若いとか、心臓が、どれくらい健康かも問題にならない)

青年の健康な心臓は、電磁波振動放射兵器からのノンストップ攻撃にかえって耐えることができない。

なぜか？

彼が何も知らず、身を守る方法も知らないので、その透明化した工作員は彼に高周波を使用する。

マイクロ波情報(1993年11月/12月)報告によると、電磁波振動放射兵器への地方条例は強化された。

電磁波振動放射兵器が地元の関係した警察/不可視化可能な人員によって使用されれば、関係する人に少しも気づかれずに— 目標がどんなに健康であろうとも —心臓発作を誘発するこの兵器を使用することができる。

このように、これらの透明化した工作員の犠牲者とならないために、誰でも彼の基本的な生きる権利を保護するために十分な知識を持たなければならない。

社会の誰もが今まで被害者に心臓疾患はなく、健康なことを知っていたのに、突然、心臓発作にかかった（または、心臓が停止した）とすれば、それは監視ステーション/システムの地元の透明化した工作員（ローカルな、警備、そして、情報部員が含まれる）の電磁波振動放射兵器で殺されたと考えるべきだ。

(情報源) ダグラス・パステルナークによる「驚くべき兵器」、米国の情報と世界レポート (1997 年 7 月 7 日)

=====

1987 年「冷戦におけるソビエト軍事力」が発刊された（ペンタゴン出版）

これによると「プロトタイプの、短距離戦術 RF [無線周波数] 兵器」がソビエトにあるかもしれないことを警告している。ワシントン・ポストはその年、ソビエトが 1 キロメートルの範囲内でヤギを殺害するような兵器を使用したと伝えた。

ペンタゴンは、1960 年代から類似した装置を追求してきたことが、わかる。

=====

そのような性質の兵器の、光の放射体の極性端子を、対象から 1 キロメートル離れて隠して設置したならば、透明化した工作員は、サイコトロニクス発電機の近くに隠した放射体のパワーを使用することができる

（例えば、例えば病院、ビジネス街、銀行、学校、その他の公的な建物の内部、またはショッピングセンター、学校、公共建造物、その他の、屋外に置かれた光の極性端子で、透明化した工作員が被害者を殺害する。

サイコトロニクスの発電機は電力放射システム技術を使用して、それは、家庭機器（例えば電話線、電子レンジ、コンピューター・モニター、テレビ、ラジオ・ネットワーク、供給パイプと白熱灯）に強力な電磁気放射を送ることができる。

(情報源) ティモシー・L・トーマス、Timothy L. Thomas 著「心には、ファイアウォールがない」米国の陸軍戦争大学校季刊誌、「パラメータ」、1998 年春、第 XXVIII 巻、No.1

=====

コンピュータのように動く人体に電磁的に偽装して侵入し、操作し、あたかも自分の意志であるように誤解させることが出来るだけでなく、機能停止させ、または破壊することが出来る。

Chernishev によって取り上げられた特別兵器の種類は、以下の通りであった（いずれも全てプロトタイプがあるというわけではない）

*サイコトロニック発電機は、強力な電磁放射を生み出し

電話線、テレビ、ラジオ・ネットワーク、白熱灯に、供給パイプによって、送ることができる

=====

このように、透明化した工作人員は、ひそかに自動車で目標の人物の後に続き、車、あるいは、例えばショッピングセンター、学校、公共建造物、その他の屋外の、または、店、銀行、その他の内側に隠された、電磁振動放射兵器の特別な発射端子のための電力となるサイコトロニック発電機を持ち運ぶことができる。それはハイビームのため供給し、そして、心臓発作を誘発する。警戒している目標の人物にも心停止を誘発できる。

以下の情報は、支配者のマインドコントロール研究が病気/死亡に誘導する技術を発展させ、あらゆる透明化した工作人員を暗殺者にしたと推察させる。

第 2 の発展目標は、透明化した工作人員によって市民の支配のために身体機能の支配方法として改良し使用することだった。

(情報源) デイビッド G. Guyatt による「対人電磁兵器の諸相」(8 月 3 日/96 年)

=====

タイトルは「MKULTRA、MKDELTA、MKSEARCH」(MK はマインドコントロールと理解してよいと思われる)、ブルーバード、アーティチョークと CHATTER によって書かれた。

支配者のこの計画の狙いは信頼できる暗殺者を「プログラム可能な」ものにすることであった。

二番目の狙いは、市民の支配方法の進歩であった。(ウォルター Bowart 著「マインドコントロール作戦」フォンタナブック (ロンドン 1979 年))

=====

上の情報はマインドコントロール研究が発展し、LEO/invisible 不可視の人員が暗殺者/殺人者になって病気/死亡に誘導する技術が、その中に含まれるようになったことを告げている。

この情報も、台湾からの内部情報が正しいことを確認させる。— 不可視の人員が不当に人を病気/死に誘導する。

台湾からの内部情報によると、これらの透明化した工作人員のコード名は 1960 年代には「みえない妖精」であったが、機密が漏れることを阻止するために、「ミツバチ」に変えられた。

それは、西洋人の大部分が、閉じ込められほとんど何も見えず、小さくなったパンドラの箱の妖精が、外に出て人に病気/死亡を広げた伝説を知っているからである。(詳細は私のウェブ・ページからの II-A (A1) に見る)

米国の先進防衛技術研究機関はもう一つのプロジェクト「パンドラ PANDORA」は、

脳/血管バリアに小さな漏れる部分を創り脳溢血に誘導し、心臓発作に誘導する(心臓の機能不全と心停止に誘導する)技術を発展させた>

(情報源)「対人電磁武器の諸相」David G. Guyatt による (96 年/8/3)

=====

(PANDORA のために軍から最高 70・80%の資金が提供された)

いわゆる「モスクワ・シグナル」に関係して低い強度のマイクロウェーブが、健康と心理的効果にどのように影響を与えるか研究するこのプロジェクトは、(アメリカ海軍の資金の下で) 全く広範囲にわたるものだったようで、心臓発作を誘導する方法をデモンストレーションする研究には、血管/脳バリアの小さな漏れる穴を作ることと幻聴を創ることが含まれていた。

=====

コード名パンドラ作戦は、ギリシアのパンドラの箱から自由になった小さい妖精が人に病気/死亡をうみ出した神話からの引用である。

パンドラ作戦のコード名のこの隠された意味(「ちいさな妖精」)は、台湾の前の大統領蒋介石の内部情報を確認させる。

これらの透明化した工作員が透明化の技術を使ったあと、小さくなり(みえない妖精のように)、秘密の次元の存在となる;

管理ステーション/システムのこれらの小さい透明化した工作員は、犠牲者に病気/死亡を誘発するために、人々の家/仕事場にひそかに入っていった。

どのように、透明化した工作員は電磁波振動放射兵器を使用して、目標を心臓発作か心停止(心臓は止まった)に、誘導することができるのか?

上の死を誘発する技術との違いは、何であるか?

両方とも、透明化した工作員は電磁波振動放射兵器の技術で死を誘発する。

唯一の違いは、次のことである:

透明化した工作員が犠牲者の前から心臓を目標にして電磁波振動放射兵器を使用するとき、犠牲者は人工的な心臓発作で死ぬ。

他方、電磁波振動放射兵器を背後から犠牲者の心臓を目標として使用するとき、犠牲者は心停止を誘発されて死ぬ。(心臓が機能停止するように誘導して鬱血性心不全となる)

つまり、電磁波振動放射兵器で犠牲者を殺害するのには 2 つの方法が、ある。

現在、どのように、透明化した工作員が、目標の人物に、心臓発作か心停止を誘導できるか、詳細に説明可能である。

1. 透明化した工作員は電磁波振動放射兵器を使用して、彼が心臓発作のようにみえるように誘導するために犠牲者の前方から、心臓を攻撃する:

(a) 目標の人物が屋外、例えばショッピングセンターの駐車場、公共の建物の外にいるか、または、公共の建物の中、たとえば銀行、店、スーパーマーケット、学校、公共建造物、官庁、その他の中において、透明化した工作員は犠牲者の後を続いていく。

ラジオ振動数の波を近くに隠された放射体から発射するよう、サイコトロニック発電機を通した電力が、可能にする。

隠れされた放射体は細いビームとして高周波波を米国のクォーターコイン 2 個 (2 枚のコ

インの大きさ)に当たる部分に集中させることができ、目標の心臓を徹底的にたたくことができる。

透明化した工作員が前方から、目標の人物の心臓を攻撃する電磁振動放射兵器を使用するとき、激烈な細い光線は目標の胸を貫通して、犠牲者の心筋の収縮を増大させる。

これは、心臓に圧力と痛みを生じさせる。

それで、心臓への血流が止まり、また心臓への血液の供給も絶たれる。

このようにして、心筋は酸素不足で死ぬ。

こうしたことを知らない人は、外面上「心臓発作」によって、死んだと思う。

攻撃の間、ラジオ波の振動数の波は目標に痛みを生じさせ、重圧感、緊張を感じさせ、あるいは、胸に切り込むような痛みをあたえる。

このラジオ波の振動数の波は、心臓を故障させ、犠牲者の心筋はゆっくり収縮し、心臓への圧力と痛みをつくる。

また、攻撃されている間、目標の人は心臓に意識を集中し、強い圧力を感じる。

外部に置かれた端子から胸の方に向けられた傾斜角度で、この強い圧力を感じる。

この圧力の感覚は、ラジオ波振動数波の細いビーム光線で生じるはずである。

高齢者、またはこうしたことを知らない人は、「見えない」電磁波振動放射兵器)による発作を予防する方法を知らないで、殺される。

(b)。心臓発作を誘発させて、犠牲者の家/オフィスですばやく犠牲者を殺害するために、一団の透明化した工作員と一緒に、ひそかに電磁振動放射兵器をもって、犠牲者の胸の上に飛ぶ。

攻撃する前に、犠牲者が透明化した工作員の存在をさとって、抵抗して工作員の器材が、傷つけられないようにするため、回りに保護電磁界を作る。

それと同時に透明化した工作員は、攻撃して、ラジオ振動数の波動を犠牲者の心臓に集中する。

一団の小さい透明化した工作員は、犠牲者が死ぬまで犠牲者の胸にとどまって攻撃するが、通常そのような種類の知識がない犠牲者は死ぬ。

攻撃されると、目標となった人物は心臓への圧力を感じて呼吸困難に陥る。

それは、ラジオ波の振動数の波動が目標となった人物の胸を貫通し、心臓に圧力が発生するからである。(犠牲者の心筋がゆっくり収縮し、心臓への圧力と激烈な痛みを感じる)

これらの透明化した工作員は、犠牲者の心臓を攻撃するため、彼らの兵器を連続的に使う。

数分で犠牲者の心臓の血流が止まり、心機能または心臓を破壊して、最後に死ぬ。

犠牲者は外面上心臓発作で死んだように見える。

しかし、対象とされた人が、これらの透明化した工作員が電磁界で小さくなるという真相を本当に理解したならば、彼は強い磁石を使い、透明化した工作員を捕獲するか、追い払うことが可能である。

小さい透明化した作員がひそかに心臓発作を誘発させる攻撃から、犠牲者はこうして生き残ることができる。

2. 透明化した作員は、心停止を誘発するために彼の背後から犠牲者を攻撃する電磁波振動数の放射兵器を使う。

心停止と誘発された心停止（心臓機能の停止）の違いは、何であるか？

米国医師会家族健康診断ガイドによると、（ジェフリー・カンズ医学博士とアセル・フィンケル博士による編集 1987 年）「通常、心停止は心室細動として知られているリズムに障害が生じる、あるいは、心室の筋肉に障害が起きて、心臓の 2 つの下部心室が調整出来ずにポンプで血液を揚げられないでひきつる時発生する。しかし、2、3 分以内に心臓マッサージによって鼓動と循環が回復できれば、回復する可能性がある。

心室微細動に心停止が生じたならば、鼓動は微細動除去器（心臓に電気が通るよう刺激する装置）でしばしば回復する。」

しかし、誘発された心停止は、透明化した作員による電磁波の振動数の放射兵器で生じる。

背後から目標の人の心筋を強力な高周波が刺激し、彼の鼓動を極度の速さに増大させる。

犠牲者は最初異常に高い心拍数になる。

そのような種類の攻撃で、犠牲者の鼓動は急速に増加し、最後に犠牲者の心臓の機能が壊れるか、心筋が強力なラジオ電磁波に耐えられないとき、電磁波の振動数の刺激で鼓動を止める。

そのようなタイプの誘発された心停止は、回復するのが不可能である。

透明化した作員は、心停止を誘発させ、高周波が鼓動を速め、熱を増大するように目標の心筋を刺激するので、犠牲者は発汗と、衰弱、吐き気、その他の徴候があり、確実に不整脈がある。

ジョン W.ホールメ, Jr.による 1987 年の本「人間解剖と生理学」によると、「心筋ネットワークのある部分が刺激されるとき、衝撃はネットワーク装置と他の身体全ての組織繊維に収縮を引き起こす。

刺激で身体すべてのネットワークが反応するか、または、そのような反応が起きなくなるほど破壊される。」

それゆえ、心臓機能を破壊可能な特異な死亡誘導技術になる。

心停止の誘導テクニックは、人工の心臓発作とは異なる。

しかし、表面上は「不整脈」で生じた心停止で、犠牲者の心臓機能は破壊されて死んだようにみえる..

透明化した作員は目標の人の背中から心筋を攻撃するため、近くの例えば、スーパーマーケット、学校、他の公共建造物、野外、その他に隠した、高周波武器の放射体から、パワーを発射する機会を見つけ出す（作員は、被害者が屋外で一人の時に、あとをひそかにつける

(銀行、店、ショッピングセンター、スーパーマーケット、学校、公共建造物その他の中に光放射体の極を、隠す)

犠牲者が自然に死んだと思うように社会に誤認させるために、一人のときに、心臓発作と心停止を誘発させ、大部分の犠牲者は人々の知らない間に殺害される。

また、電磁振動放射兵器はとても強力である。それは 1 キロメートルの範囲からヤギを殺害することができる。

このように、これまで健康で心臓疾患がなく、用心もしていない青年に、突然心臓発作がおこるよう誘導することができる。

なぜ？

若い犠牲者の健康な心臓は、透明化した工作員の電磁振動放射兵器からのノンストップ攻撃に耐えることができないからである。

若くて、健康な犠牲者は、透明化した工作員が高周波を使用していることを知らないのに、透明化した工作員からのノンストップの攻撃から脱出が可能ではない。

ウェーコー訴訟の鑑定人である、中年の犠牲者、カルロス Ghigliotti 氏は、透明化した工作員によって電磁振動放射兵器で心臓発作の誘導テクニックで殺された。(詳細は II-C4 を見る)

最初の例、

(情報源) ブライアン・レッドマンによる 陰謀の国、第 4 巻 NO43

=====

1969 年に、ジェームズ・アール・レイ (本当の名前は、ライアンである) は、彼の弁護団によってマーティン・ルーサー・キング博士を殺した罪を認めるよう圧力をかけられた。ジェームズ・レイの弁護団は、彼に本の販売を通して高額のお金を得ることを含めて多くの事を約束した。

後で、レイはメンフィスの裁判官プレストンバトルに、彼の有罪答弁を撤回し、再度裁判を受ける許可を要請したいと書いた。その時、謎の男 (ラウル) を含め、陰謀の全てを公表した。テネシーの法律の下で、ただバトル判事だけが、裁判官としてその再審理を許可した。

彼はこの事件を前向きに考え続けたので、バトル判事は死体で発見された。おそらく、人為的な「心臓麻痺」で！(我々は、これも「CIA による心臓発作」だと考えている)。

そして、もう一度レイは嘆願書を用意した！

[現在の透明化可能な工作員すべてに、こうした種類の兵器とテクニックがある (こうしたことに関与する警察、秘密捜査員、そして、採用された情報部員) -アラン Yu の注。]

再審決定を受けるためレイは、何年も裁判所との間を往復した、！

1976 年に、最終的に裁判官連邦上訴裁判所委員会の 3-人はこの事件内容を聞いた。

口頭弁論の間、連邦上告事件を審理するウィリアム E.ミラー判事は、レイ事件を再審査するよう州当局に強制することに賛成であると言った。

彼がこの決定をした後、— おそらく「心臓攻撃」で —ミラー判事は死んだ。他の 2 人の裁判官は、裁判所のレイの訴えを棄却する書面を発表した！

しかし、ミラー判事が死ぬ直前、彼らは再審に同意したと言っていた。；

我々には、その彼らの同意したことばだけが残っている。暗殺を指示したものはその同意を嫌がったのだ。

1995 年 3 月 26 日日曜日東部時間 14:24:23 アーバナにあるイリノイ大学にて：

我々は、レイ事件の重要な事実の隠蔽のためにバトル判事とミラー判事が殺されたと思っている。

=====

この、バトル判事とミラー判事はレイ事件で重要な事実のために殺されたと判断される。

したがって、透明化した作業者は、このケースに関与しているはずだ。

透明化した作業者は裁判官のオフィスに入ることができ、家に入ることができ、かれらに死亡を誘発する電磁波振動放射兵器を使うことができた。

バトル判事がテーブルにレイの嘆願書の入ったケースを置いたとき、透明化した作業者によって背中から電磁波振動放射兵器で心臓を攻撃されたに違いない。

それは犠牲者の心拍増加を極限以上にした。

もう一度レイが再審を求める嘆願書を用意したために、バトル裁判官の心臓の機能は、止まり（心停止し）、死んだ。

透明化した作業者によって前方からの高周波でミラー判事の心臓は、攻撃されたはずだ。

したがって、心筋に収縮が生じる。（犠牲者は痛みと強い圧力が心臓を圧迫していると感じる）

収縮した心筋は、心臓に入る血液の供給を妨げる。

心筋は酸素の欠乏で死を生じさせる。

彼はこのように、心臓発作のようにみせかけて、殺された。

このことは透明化した作業者がキング博士の暗殺に関与しているはずだと推察させる。レイのケースを再審するのに賛成だった、あるいは、本当に審理を承認しようとした裁判官は、死に誘導するテクニックを使用して殺害された。

レイが自らの有罪判決を撤回できなかったあとも、本当の暗殺者はミステリーのままである。

なぜか？

この犯罪の場面での暗殺者が捕らえられなかったので、レイは再審されず彼の有罪判決は撤回されなかった。

もともと、ルーサー・キング博士が撃たれたあと、なぜ、現場責任者は本当の暗殺者を犯

行現場で逮捕できなかったのか？

暗殺者は透明化した工作員の狙撃犯であるにちがいない。

撃たれた後、透明化した工作員は狙撃犯に透明化の技術を使用し見えなくし、小さくなり、ライフルも彼が持って行ったのではないか。

暗殺者/狙撃犯が透明化した工作員に助けられたとするならば、どのように、特別な場所に隠れたのか？

透明化した工作員は、狙撃犯と彼のライフルを、透明化の技術を使って見えなくする。

それから、彼らは狙撃犯をどこか（例えば森または無人のビル）へ連れて行って、狙撃犯を標準の普通の状態に戻すために、発電機システム終了する。

それから、普通の状態の狙撃犯は森に隠れ、あるいは目標の人を簡単に狙撃できる無人のビルで、待つ。

撃った後、他の透明化した工作員は、透明化の技術を使うことによって狙撃犯を小さくし、見えなくして、狙撃犯と彼のライフルを現場から逃がし消失させるのを手伝う。

それから、彼らは連れてきた方法と同様に遠くへ狙撃犯を連れて行くことができる。

これは透明化の技術を2、3分使用するだけで済む。

2、3分以内に当局が撃った暗殺者を逮捕できないならば、狙撃犯/暗殺者は犯行現場から透明化の技術を使って逃げられる。

透明化の技術によるこの暗殺戦術を用いると、暗殺者は犯行現場で決して捕えられない。

透明化した工作員は彼らの影響力を少しでも拡大したいので、情報部員はひそかに異なる敵対的な政治団体を操作した。

また、透明化した工作員は、殺害するため、一般人に成りすました情報部員によって構成された過激派組織と犯罪者組織を使う。

死亡を誘発する技術が高度に発展する前、透明化した工作員は彼らが嫌う政治指導者を暗殺するため、犯罪者/狙撃犯をこのように、多用した。

透明化した工作員の狙撃犯/刺客は、大統領を含めて、誰でも暗殺する気持ちをもっている。

たとえお金を積まれても透明化の技術がなければ犯行現場からのすみやかな脱出は保証されない。透明化の技術による安全確実な脱出は、これらの暗殺者にとって最も重要なことである。

当然透明化の技術を使用しない、暗殺行動は、社会で指弾される可能性があるため制限される。

これらの暗殺の犯罪者は追求され、公然と第一級謀殺事件の嫌疑をうける。

これらの暗殺者は愚かでなく、大部分はお金のために他を殺害する。

透明化した工作員が透明化の技術によって逃げるのを助けてくれなければ、彼らは暗殺者として命を簡単に賭けはしない。

たとえば、研究者はマフィアが大統領ジョン・ケネディを暗殺するために2、3の犯罪者狙

撃犯を雇ったと主張したが、これらの犯罪狙撃犯は透明化した工作人員と関係するはずで、この工作人員は市民に成りすましている情報部員である。

このように、彼らはお金のためにケネディ大統領の暗殺をあえてして、透明化の技術によって逃げた。

そういうわけで、ケネディ大統領がテキサス訪れているとき、透明化可能な一部の工作人員は、シークレットサービスをわざわざいなければいけない肝心のダラスから遠くに移動させた。

また、大統領の車が通る所について、犯罪者=狙撃犯は明らかに、事前知識があった。到着するジョン・ケネディをそこで待ち、特別な場所に隠れた犯罪者狙撃犯は、彼を撃った。

たぶんルーサー・キング博士も、透明化した工作人員の狙撃犯によって暗殺された。

それで、本当の暗殺者は、犯行現場から透明化の技術とともに逃げたにちがいない。

それで、ジェームズ・アール・レイ（本当の名前、ライアン）は、後で捕らえられ、たぶんスケープゴートにされた。

上記のキング博士の暗殺はしばしばインターネット上で報告されたあと、この事件は再調査され再審されるようキング博士の家族によって訴訟を起こされた

マーティン・ルーサー・キング・ジュニア師の家族によって訴訟が起こされ審査員会でヒアリングを受け(-99年・8月12日水曜日) この市民権リーダールーサー・キングは、孤独な暗殺者による殺人ではなく、巨大な殺人陰謀の被害者であったことが、理解された。

「FBI、CIA、メディア、軍情報機関と州と市当局は、都市の中での暗殺を隠すのを手伝った」と、ペッパー（キング博士の家の弁護士）は言った。彼はまた、レイを再審するよう努力しているグループの代表であった。

ペッパーは銃撃の前に、キングの側にいた警官と、キングを監視中であった軍諜報員は撤退し引き払われ、無防備にされていたと主張する目撃者を呼んできた。

目撃者はCIAを研究をしていた。

陪審員デビッド Morphy は言った

彼は「暗殺が1人の人間によってされるにはあまりに複雑であると思う」といった（情報源 99年9月12日のAP通信で詳細を見よ。）。

評決の後、Pepper は言った、

「今日、12人の男性と女性の審査委員会は地元の男性ロイド Jowers に関わる陰謀が、あったと裁決した。」

（連邦政府とテネシー州メンフィス警察署と関連した他の無名の共謀者と同様に）

（ワシントン・ポストの情報源によって詳細を見よ。）

メディアの報道の他にキング博士の暗殺は、監視ステーション/システムに関係する諜報員と警察（透明化した工作人員）に関係があった。

ウィリアム・ペッパーの（キング側の弁護士）主張によれば、FBI、CIA、メディア、軍

情報機関と国家と市と、地元の警察署は暗殺を隠すのを最後まで手伝った。

事件の内部情報によると、監視ステーション/システムの透明化した工作人員が関わって被害者が公然と殺されたとき（例えばキング博士）またはひそかにこの技術で病気/死に、誘導して殺されたとき（例えば前の FL 司令官チャイルズ・ロートン、その他のように）、隠蔽は、透明化した工作人員と彼らの協力者による典型的な行動である。

上記の隠蔽行動の事実は、さらにキング博士の殺人事件に関係したバトル判事とミラー判事のケース（1969 年と 1976 年）、でも示された。彼らは監視ステーション/システムの何人かの透明化した工作人員と彼らの情報部員によって心臓発作で死んだ、完全に隠蔽するため、この技術で心臓発作を誘導して殺されなければならなかった

(情報源) ワシントン・ポストによってキング博士の暗殺に関する民事訴訟の評決報告

=====

1999 年 9 月 12 日木曜日のワシントン・ポスト;

ページ A08 :

メンフィスの陪審員、スー・アン Pressley ワシントン・ポスト・スタッフライターによってキングを暗殺に導く陰謀が明らかになった

メンフィス、8 月 12 日に一陪審員は今日 3 時間熟慮した後、殺害された市民権リーダー・マーティン・ルーサー・キング・ジュニアは暗殺陰謀の犠牲者で、孤独な銃撃者によっては死ななかったと、判断した。

ロンドンに拠点を置くアメリカ人、ペッパーはこの調査に過去 20 年以上使ってキングの死の状況を調査し、1995 年出版した本で主張した。

マフィア、F B I、C I A と軍隊に関わる巨大な陰謀が「狙撃の命令」の圧倒的原因となった。

キング家を代表して、彼は審理の間に 70 人以上の目撃者を提供した。その中には、前の国連大使でアトランタ市長であったアンドリュー・ヤングが含まれている。

今日の朝の最終弁論において、彼はベトナム戦争へのキングの強力な反対が彼の運命を終わらせたと言った。

評決の後、「今日、12 人の男性と女性の陪審は、メンフィス警察署（テネシーと連邦政府の）に関連した他の無名の共謀者と同様にロイド Jowers（地元の男性）には陰謀があったと判決した。」と、ペッパーが言った。

=====

第 2 の例、フロリダの知事ロートンチャイルズの死亡

12月13日、ロートン・チャイルズ知事は、最近まで30年間フロリダのトップの政治指導者のうちの1人でAP通信レポートによると、スポーツ用自転車の近くで彼の死体が見つかる8時間前に、不整脈で死んだと検屍官は日曜日に言った。

地元の透明化した工作員（関係する警察と一般人に成りすました情報部員）は、彼のオフィス/マンション、自動車、その他で知事をひそかにスパイしたはずだ。

これらの透明化した工作員は、知事の大邸宅で自転車から落ちて知事が意識を失ったのを見たとき、すぐに救助しなかった。

そして、知事は、不整脈で死んだ。

これは透明化した工作員の技術で心停止が誘導された際の症状と一致している。

ーラジオ波の振動数の高周波武器を使った後、被害者の鼓動は急速に増加する原因となる。

そして、彼の背中から目標の心臓を攻撃した。

このように、透明化した工作員はこの技術を使用してチャイルズ知事の心停止を誘発し殺害した。

なぜ、チャイルズ知事が地方警察と彼らの入れた情報部員（透明化した工作員）によって暗殺されたと推論するのか？

5つの理由がある：

まず最初、彼らはロートンチャイルズ知事に第2の病状として、パーキンソン病を誘発した。（若干脳卒中の徴候と類似している）

それから、1998年12月/13日に彼らは市長チャイルズに心停止するよう誘導した。（心臓機能の崩壊）

この誘発された病気と殺人は、選挙の後に、両方とも生じた。

確かに、これらの犯罪は選挙期間の後、行なわれたが、犯罪者はどこの政党にも属していず、動機もそこにはなかった。

第2に、地元の関係する警察と不可視化可能な人員と情報部員は、地元のアメリカ人を監視する責任がある。

第3に、2000年12月/13日のAPレポートによると、「チャイルズ知事は南アメリカでの新しい冒険を準備し、大使を派遣交換しようとしていた。

彼が死ぬちょうど1日前に、彼の新しい仕事は確定しており、彼がフロリダを去り、南アメリカに行く前に彼らはチャイルズ知事を暗殺しなければならない強い動機があった。」

それは、この殺人が地元の関係した不可視の政府人員によって犯されたにちがいないということを推察させる。

第4に、地方警察には、電磁波振動放射兵器がある。

また、電磁波振動放射兵器を用いて、不当に心臓発作を誘発するか、こうしたことを知らない目標の人物に心停止を誘発することは、監視ステーション/システムの地方の警察の透明化した工作員によく知られた戦術であった。（詳細は上の説明にある）

第 5 に、チャイルズ知事は日曜日に殺された。それは地元の関係した不可視の作業員の週末の休みに彼らを殺人にさし向けたことを示している。

第 3 の例

(2000 年 5 月/14 日/東部時間午後 10 時 14 分カルロス Ghigliotti 氏についての A P 通信のニュース)

赤外線テクノロジーの専門家、ウェーコーの腐乱死体は 4 月 28 日、メリーランドの、ローレルの赤外線テクノロジー社の彼のオフィスで見つけ出された。

ビルのマネージャは数週間この専門家が、見えないことに懸念を抱いた

予備検死報告は、42 才で彼が「心臓発作で死んだ」として述べた。

カルロス Ghigliotti は 42 才の健康な人で、前に心臓疾患はなかった。

彼がウェーコー訴訟の原告の鑑定人になったあと、心臓発作で、突然死んだ。彼はなぜそうなったか？

疑念を全てチェックしていくと既存の原因はすべてありえず、彼は監視ステーション/システムの地元に関係した不可視の作業員によって電磁波振動放射兵器で心臓発作を誘発して殺されたとしなければならない。

なぜか？

まず、人は電磁波振動放射兵器が強力に連続攻撃すると、目標の心臓機能を、破壊できることを知らない。

その時そんなことを疑いもしない目標とされた被害者は、監視ステーション/システムの透明化した作業員によって、彼がどんなに若くても、自然な原因の結果のようにして心臓発作で簡単に殺される

(私のウェブサイトのパート 2 -C4 で詳細が見られる)

第 4 の例、

たぶんテレビ・スター、ジョン・リッターは音響兵器または高周波兵器で透明化した作業員によって殺された。

03 年/12 月 9 日の報道ではテレビ・スターのジョンリッターがまれな、隠れていた心臓の病気によって突然死んだ。

ジョン・リッターは木曜日、テレビ番組の仕事をしている間に、発病した。

彼は木曜日の午後 10 時の ABC の番組「8 つのシンプルな法則」の終了直後にプロヴィデンス通りジョセフ医療センターで死んだ。

外科医は彼の治療にあたったが、手遅れであった。

彼は、54 歳であった

彼の死因は、大動脈破裂であった。検査の結果では彼の心臓には欠陥は認められていない。

彼の広報官 (リサ Kasteler.) は、

ジョン・リッターは少し太りすぎであったが、彼は（54 歳で）突然大動脈破裂で「心臓の主動脈」死ぬのは異常だと言った。

彼はたぶん、音響兵器または電磁波振動放射兵器で透明化した工作員によって殺された。

第 5 の例は、1995 年に、退陣した台湾の国家公安の前の責任者宋將軍 General

Soong が台北の公衆浴場池で突然「心臓発作」で死んだ事件である。

この死は、彼が伝記を書くと言った 2 日後に起こった。

米国医師会の家庭医療ガイドによると、アンギナの患者は性交ができ、運動をすることができる。（病気の症状によるが）

これは心臓疾患の患者に、通常の身体活動、例えば、入浴などでは心臓発作を生じさせないことを意味している。

また、公衆浴場のプールで、風呂に入っている間、宋將軍は緊張していない。

さらにまた、宋將軍は軍隊から退役して 2、3 ヶ月たっただけで、眼に、視力の問題が少しあるだけで、健康状態は非常に良好だった。

また、「これまで夫の生活には心臓疾患の要素は少しもなかった」ために、彼の未亡人は彼の健康の履歴を提示し当局に状況説明を要求した。

このように、宋將軍には、履歴に心臓疾患のない健康な人で、突然死ぬような心臓発作にかかったのは、どうしてなのか？

また、彼の死は、彼が伝記を書くと言った 2 日後に起こった。

宋將軍は台湾の国家公安局の前の責任者だったので、彼は殺されなければならないほど、多数の秘密を知っていた。

このように、宋將軍のカルテの記録には心臓疾患が事実として、全くなかった

そして、彼は死の 2 日前に伝記を書くと言っていた。

誰かが彼が伝記に書くことで秘密が漏れるのを阻止するため夫を殺害したと未亡人は信じている。

それは彼女の健康な夫が突然なぜ心臓発作に死んだかを論理的に説明する。

上の真相は宋將軍がラジオ波振動数の武器で殺されなければならないという疑念を、理論的に説明する。

こうしたことから、宋將軍の未亡人は、公然と死亡の本当の原因を決定するために検死を求めた。

未亡人のオープンな主張と、検死の要請と彼女の夫が死んだ方法についての疑いなどで、このケースは、多くの人から注目された。

彼らにとって都合の悪いことに、すでにロシアでは、1 キロメートルからヤギを殺すために高周波武器が使用されたことが知られていた。

この兵器は透明な工作員が外面的な傷の証拠を残すことなく、知らない目標の人の心臓機

能を破壊するために使用することができることを証明している。（どんなに若くても、あるいは、目標が健康だろうと）

犠牲者を殺害するため電磁波振動放射兵器を正面から使用すると、表面上心臓発作に見られる。

他方、電磁振動放射兵器を背後から使用するならば、死亡した犠牲者は不整脈のため表面上心停止として見られる。

したがって、検死の後、彼の体の外部に傷ついた証拠もなく、残っている毒の証拠も出てこない。

また、透明な作業者が宋將軍を電磁振動放射兵器を使用し攻撃するのを誰も見ていない。

こうしたことを、知らない検死官は、誤って宋將軍が自然な原因で死んだと考える。

未亡人は夫が伝記に秘密を書くのを止めるために口封じのため殺されたと強く思っていたが、彼女は何もできなかった。

宋將軍のカルテと上記の事実を考えると未亡人は検死報告をオープンにすることを求めた。

台湾の監視システムに関係する透明な作業者によって宋將軍が伝記を書くのを止めるため高周波兵器技術が使われたという推理は様々な疑問を氷解させる。

透明化した作業者が、隠れた発射体を使用するか、持参した電磁振動放射兵器を使用するため、ひそかに宋將軍に続いて公衆浴場プールに入れば、それは簡単に実行することができた。

彼らの目的は、宋將軍の伝記で漏れる、最高機密を阻止することだった。（その透明化した作業者は監視のために人々の家/オフィス、車、その他にひそかに入ることができる。）

宋將軍の死は、宋將軍自身が透明化した小さな作業者が目標の人の家/オフィス、輸送手段、その他に監視のため、ひそかに入れることを知っていたが、それだけで、無警戒だったことを証明する。

（全ての事実から見て、宋將軍は透明化した作業者が監視のためひそかに入れることは知っていた）

しかし、彼は、透明化した作業者が目標とする者に病気/死亡をひそかに誘発し進行させることもできることを知らず、気づかなかった。

更に台湾のこのケースは、透明化した作業者が透明化の技術が暴露されるのを止めるためにどんな目標の人でも殺す勇気をあえてすることを証明している。

*いかにして不可視の人員は、健康な人に心臓機能障害があったように見せることができたか？

透明化した作業者は、電磁振動放射兵器を持って目標の家/オフィスにひそかに入る。

その時、彼らは目標の背中（心臓の近くで）または首の上の近くに飛んで、被害者の心臓を攻撃するために、ゆっくり彼らの高周波兵器を使う。

攻撃は、犠牲者の心臓に不快な感覚を生じさせる。

また、一団の透明化した小さな工作員は、電磁波振動放射兵器で体の首に近いところから目標の犠牲者の心臓を直接攻撃することができる。

このタイプの攻撃を犠牲者に、数回すると、犠牲者の心臓は、衰れた状態になる。

犠牲者は、呼吸困難になる。

台湾では、彼らはこの戦術を「Xin-Xin-Ku-Ku-Guo-San-Hou と呼んだ

「(心臓機能障害に伴って被害者の生命は危うくなる)

犠牲者は体調が悪化したと誤認され、心臓疾患を誘発されたとはされない。

透明化した工作員が犠牲者の心臓にある期間そのようなタイプの攻撃を続けるならば、犠牲者に本当の心臓機能障害が生じる。

* 電磁波振動放射兵器による自宅監禁の戦術：

透明化した工作員が彼らの秘密と犯罪を知られたとき、家/仕事場、車、ボート、飛行機で、死を誘発させ謀殺する。

しかし、その人に家や、自動車、その他の場所で身を守る知識があるならば、監視ステーション/システムの透明化した工作員は在宅している人を自宅軟禁するため電磁波振動放射兵器を使用する。

彼らの不吉なねらいは、対象とされた人が彼らの犯罪と秘密を他の市民と公務員に漏らすことを阻止することである。

見えない人は至る所に自由に進むことができるので、透明化した工作員の犯罪と秘密は他のものに簡単には知られることはない。屋外で偶然に現場に居合わせた人がターゲットにされ、その人が犯人として冤罪がかけられる。

透明化した工作員が対象とされた人を不当に自宅監禁同然にするのに電磁波振動放射兵器をどのように使用するか詳細に説明しよう。

最初に、ローカル監視ステーション/システムの透明化した工作員は、その人の自動車を動かなくし、最終的に HPM（、電磁パルス兵器と同じ能力があるがよりコントロールしやすい強力なマイクロ波兵器）を使用して自動車のエンジンを停止させる。

マイクロ波情報（1993 年 11 月 12 月）の論文によると、監視ステーションシステムに関係する透明化した工作員は、強力なマイクロ波兵器を得た。（詳細な情報を後に付けた）

強力なマイクロ波（HPM）兵器は、ハードウェアと人間に使用することができる。

国際赤十字文書によると、この、EMP 兵器（電磁パルス兵器）は「操作することで電子回路を破壊できる。

主要な違いは、HPM の新技術がコントロールしやすく、核兵器条約違反なしで使用できることにある。」

強力なマイクロウェーブを秒当たりの 10-100 回の間でパルス化し、「強力な HPM 兵器として、使用する。（電子構成部品を貫通するマイクロ波波動ビームを使用する）

パルスの動きは構成部品の内部を興奮させる。そして、急速にヒューズがとぶか、溶けて

熱を発生させる。このようにして、回路を破壊する、
このような光速のビームを使う HPM 兵器の攻撃は回避できない。
従って、武器システム（例えば高速の戦術ミサイル）の機能も停止可能である。
ニック・ベギーチ博士とジェームズ・ロデリック共著 2000 年、「地球に革命がやっていく
る」)

by Dr. Nick Begich & James Roderick, 2000 年).

目標とする人の自動車のエンジンを停止させた後、監視ステーション/システムの地元の透明化した作業員は、24 時間監視するため、家に常駐し彼を守る透明化した作業員を手配する。

その人が歩くか、自転車に乗って家を出たならば、ショッピングセンターで、一団の透明化した作業員は、その人を攻撃するために、高周波兵器を使う。

（透明化した作業員はどこでその人の胸を襲撃するか決めており、心臓発作を仕向けるために、高周波兵器を使う。

または、その人に心停止を引き起こすために、極から出る光線、またはそれに備えて隠して置いた放射体を使う。

透明化した作業員とテクノロジーについて知識がある人は死を誘発されることを免れることができるが、それは更に不幸なことになる。

彼が電磁波波動装置によって死に誘導されるのを避けようとしたならば、このような行動は透明化した作業員によって秘密に、自宅監禁をされる原因となる。

なぜ 彼らは、犠牲者を追跡し、近くからひそかに犠牲者を攻撃するため、透明化する技術を使用する必要があるのか？

それは犠牲者を、監視ステーション/システムから直接、攻撃し、殺害したり、または、遠く離れて兵器を使用することができないからである。

監視ステーション/システムは、目標の人の行動を小さなエリアで知り、目標を追跡することができるだけである。

ローカル監視ステーション/システムには、追跡した犠牲者を遠く離れた所でボタンを押し攻撃するような武器コントロール・センターはない。

近年では、衛星が地球上の対象とされた人を負傷させるよう使用することができると一部の人が、主張するが、それは可能か？

その答えは、明らかにノーである。そのような種類の主張は主に透明化の技術と見えない情報部員の秘密を社会に知られないようにするため、人々を誤った方向に導くためにされている。

（私が提出した多くの例にあるようなテクノロジー、例えばマイクロ波音声装置、マインドマシンまたは病気/死亡に誘導する技術といったものは、見えない情報部員を使用しなければ使えないし、それによってのみ達成できる

我々は、大部分の衛星サテライトが監視目的のために使用されていることを知っている。

目的から離れて使用することができる特別な衛星は宇宙から武器で襲撃できるが、防衛部による研究または管理の下に使用されなければならない。それは地球を攻撃するよう使用することはできない

監視システムに関係する作員は、地球にいる、対象とした犠牲者を武器で撃って負傷させるために、人工衛星を、確実にコントロールすることはできない。

彼らにはその能力がなく、しかも、そのような権力（権利）もない。

真相は、その距離のため、衛星が対象とされた人を見つけることができないだけでなく、家、あるいは、ビルの中にいる人を効果的に確実に攻撃できないからである。

上の事実はいかなる衛星または監視ステーション/システムは、犠牲者を病気/死亡に誘導する兵器に少しも直接的には関与していないということを証明する。

それは管理者であるステーション/システムは、直接それができないことを意味する。

家/オフィスまたは、車、ボート、その他屋外と街を歩く犠牲者を攻撃するのに、地方で監視する警察は正確に、遠隔操作する方法を使用することができない。

なぜか？

2つの理由がある：

第1に、監視ステーション/システムは、兵器コントロールセンターとして使用することができない：なぜなら目標を傷つけ/殺害するため、屋外の隠れた放射器を起動するボタンを遠くで押すことができないので、監視ステーション/システムに関係した透明な作員は、犠牲者の近くにいないなければならない。

第2に、ローカル監視ステーション/システムは、対象とされた人を、ローカル監視システムのモニタの画面マップの小さなエリア（エリアは、ほぼ 500 から 1000 平方フィート）で追跡し、見つけ使用することができるだけである。

こういった種類の画面地図のエリアでは実際の大きさは、500 から 1000 平方フィートではない。監視ステーション/システムに関係する透明な作員は、確実に、下に述べた 2 つのことができない。

(1) 目標の近くにある隠れた放射装置を見つけて出すこと、

(2). 他の罪のない人を負傷させずに、正確に隠れた発射装置を使用して目標を攻撃すること。（目標とする人は、500 から 1000 平方フィートのエリアのどこかにいないといけない）

また、関係する警察の監視ステーションシステムで人々を監視する役人は、犠牲者を、どのようにして病気/死亡に誘導するのか？これは不可能である。

彼らは商業地域（オフィス街を含めて）、ビジネスストア、または会社に、詳細な監視とコントロール下で人々を守るためにビデオ監視カメラを設定するよう求める。

常駐域で透明化の技術を使用し、彼らの人員と器材を見えないように小さくする。

このように、これらの透明化した作員は、詳細な監視とコントロール下で、人々を守る

ために、人々の家にひそかに入る。

これらの透明化した工作員は犠牲者の家、オフィス、車、ボート、その他の場所にいるどんな市民にでも、病気と/死亡をひそかに誘発できる。それは監視ステーションシステムで人々を監視する役人と違って、これらの透明化した工作員は訓練された殺人者/暗殺者で、病気/死亡に誘導する技術の知識があるからである。

小さい透明化した工作員は、マインドマシンとマインドコントロール技術で気づかれずに、犠牲者の知らないまま、目標の頭の上を穏やかに飛ぶことができる。

このように、これらの透明化した工作員は、気づかれずに対象者を精神をコントロールし、狂暴な学生がオレゴンとミシシッピ校内銃乱射をするように誘導できる。（私のウェブ・ページに詳細にこのケースが II-D1 と D2 で見られる、）

上にあげた「驚くべき武器」によると、米国は1960年代から類似した装置を追求してきた。（電磁波振動放射兵器として）

それは、これに類似した装置が発展し、1960年代後期に米国の透明化した工作員によってひそかに使用されたことを示している。監視ステーションの透明化の技術を使用すると、工作員は透明化し、もっていた電磁振動放射兵器は、見えなくなり小さくなる。

このように、透明化した工作員は、目標の家/オフィスに入るために次元移動テクノロジーを使用するか、または、関与した透明な工作員の車に乗って情報部員が、目標の家/オフィスに到着し、犠牲者に、死を誘発する。（例えば心臓発作または心臓を停止させる/）

（透明化の技術の詳細は（私のウェブサイトの A1 と II-A に）見る）

4月/94年の国立法制度研究所（NIJ）の伝えることに基くと、サイエンティフィックアメリカンの情報は伝える。

マイクロ波情報(1993年11月/12月)(そして、ネキサスマガジン誌(、94年11月/12月))、州と地方条例 enforcement/polices は一般人のマインドコントロール装置(マイクロ波音声装置-音声合成とマイクロ波（超低周波不可聴音）電磁振動放射兵器、電磁パルス武器、その他（いわゆる非殺人兵器）の使用について規制を強化した。

(Source) MICROWAVE NEWS Nov/Dec 1993

(情報源) マイクロ波情報 11月/12月 1993

=====

1993年11月12月の、マイクロ波情報は、最高機密の非殺人兵器会議がメリーランドのジョンズホプキンス大学の実用物理研究所で1993年11月/3日に開かれたと伝えている。

400人の科学者は、ラジオ振動数放射線（RF）、電磁パルス（EMP）武器、ELF、レーザーと化学製品を含めて非殺人兵器技術を発展させるにあたって、彼らの研究を議論するために、この大学応用物理学研究室に集まった。

会議は秘密だった。

会議は、国と地方の警察署から多数の科学者、軍の武器の専門家、情報当局者が参列し

た。

会合の主要目的は、サイコロトニックコントロール兵器の使用のために、主要な法の執行当局を用意することだった。

会議で取り上げられた問題には、非殺人兵器になる電磁界の極度の振動数の「電磁波振動放射兵器、ハイパワーなマイクロ波技術、音響のテクノロジー」（犠牲者の頭に意識下の声を送るよう使用する）、音声合成の利用の問題などが、あった。」この会議の議長となったのは非軍事的（サイコロトニックの）防衛のためのプログラム・マネージャで、ロスアラモス国立研究所のコロラド・ジョン B.アレキサンダーである。

=====

米国の監視ステーション/システムに関係した警察が 1994 年に電磁波振動放射兵器を得たあと、自由に死亡を誘発可能な技術を使ったこの兵器を使用して目標の人を心臓発作に誘導するか、心停止させることが出来た。

なぜか？

2つの理由がある。

(1)。電磁振動放射兵器は、とても強力である。

ワシントン・ポストによって伝えられたことでは、「ソビエトは、1 キロメートルの範囲でヤギを殺害するような兵器を使用している」（この情報の詳細は、「驚きくべ兵器」に見られる）。

このように、誘発された心臓発作と誘導された心停止技術は、心臓疾患（例えば冠状動脈疾患）の前触れの警告なしで、知らない市民に対して簡単に使用できる。

用心していない犠牲者の家/オフィス、車、ボート、飛行機、その他に透明化の技術を使用することによってひそかに入って、地方の警察と組織の透明化した工作員）がこの兵器を使用して、目標がどんなに若いか歳をとっていても、心臓がどんなに健康であろうとも、見ず知らずの人の心臓を攻撃することが出来る。（関係する人員がその人の存在を邪魔に思っている人の心臓を停止させることが出来る）。

たとえば、自然な「心臓発作」が起きて、カルロス Ghigliotti 氏（42 才の健康な専門家）は電磁振動放射兵器で突然殺された。（詳細が私のウェブサイトのパート 2・C4 の上で見る）

(2)。アメリカ人は気づかなかったが、CIA は 1950 年代最初に心臓発作の技術で死亡を誘導する研究をした。心臓発作を誘発するか、更に犠牲者に心停止を誘発することは、簡単に CIA の透明化した工作員ができるようになった。

このように、これらの透明化した工作員の犠牲者になることを避けるために、誰でも基本的な生きる権利を保護するのに十分な知識を持たなければならない。

社会の誰もが以前に心臓疾患はないことを知っている人が、突然、心臓発作にかかる、（または心臓疾患で死ぬ）といったことは、電磁振動放射兵器で地元の透明化した工作員（これには地方警察と、情報部員が含まれる）によって生じることがあることを知るべき

だ。